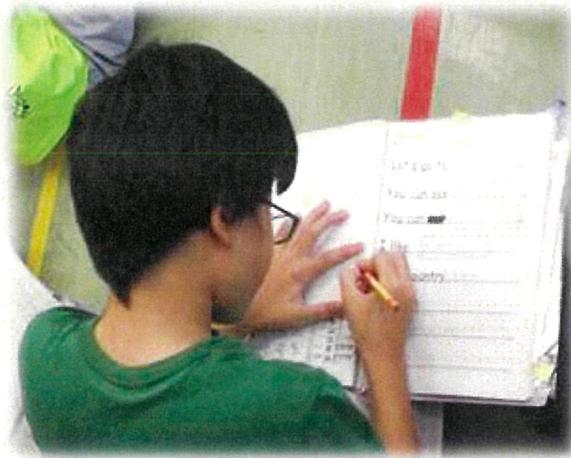


令和元年度

School Year 2019

宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業報告書

The Report of the Ginowan City Elementary School's Special Curriculum for English Education



宜野湾市教育委員会

Ginowan City Board of Education

もくじ

| | | |
|-----|--------------------------------------|-------|
| I | 令和元年度宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業 | P. 1 |
| II | 宜野湾市小学校外国語活動学習指導要領 | P. 7 |
| ○ | 教育課程特例校に関する教育課程編成表（小学校） | P. 9 |
| ○ | 宜野湾市小学校外国語活動評価の視点 | P. 10 |
| ○ | 宜野湾市小学校「外国語活動」教育課程の内容 | P. 11 |
| ○ | 宜野湾市における英語教育のガイドライン | P. 12 |
| III | 各小学校の取り組み | |
| 1. | 普天間小学校 | P. 20 |
| 2. | 普天間第二小学校 | P. 26 |
| 3. | 大山小学校 | P. 32 |
| 4. | 大謝名小学校 | P. 38 |
| 5. | 嘉数小学校 | P. 44 |
| 6. | 志真志小学校 | P. 50 |
| 7. | 宜野湾小学校 | P. 56 |
| 8. | 長田小学校 | P. 62 |
| 9. | はごろも小学校 | P. 68 |
| IV | 諸調査結果 | |
| 1. | 令和元年度宜野湾市小学校英検 Jr. 結果 | P. 74 |
| 2. | 令和元年度宜野湾市小学校英検 Jr. 児童アンケート結果 | P. 75 |
| 3. | 令和元年度宜野湾市小学校英会話形成的評価結果 | P. 81 |
| V | 資料 | |
| ○ | 令和元年度年度宜野湾市小学校英会話形成的評価実施要項 | P. 83 |
| ○ | 令和元年度宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業における成果・課題・対応策 | P. 86 |

I 令和元年度宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業

1 趣 旨

宜野湾市教育委員会では「創造性・国際性に富む人材の育成」を学校教育の理念に、平成15年8月25日付け、国の構造改革特区【英語教育特区802号】の認定を受け、平成16年度から小学校で「英語科」を新設し、小中一貫した系統的な英語教育を行うことで、効果的・継続的な指導体制のもと、「児童生徒の生きる力の育成及び国際化の時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育むこと」を目的として英語教育特区事業を実施した。

平成21年度以降、当該事業を英語教育課程特例校事業として継続し、本市英語教育の充実を図る。

2 目 標

本市の教育基本理念である「学び合い、未来を切り拓く人材の育成」を期して、児童生徒が活発に、英語を使って諸外国の人々と交流し、世界に開かれた宜野湾市の形成を目指す。

各小学校の保護者は、英語教育への関心が高く、小学校段階から市内全小学校に「英語科」を設置し、英語及び異文化への興味関心・理解を深めることで、中学校卒業までには簡単な英会話のできる国際性豊かな児童生徒を育成する。また、本事業で培われた国際的感覚やコミュニケーション能力を生かして、宜野湾市や沖縄県及び日本の経済・社会を支えていける人材の育成を目指す。

3 . 基本的な考え方

- (1) 本市の各小中学校では、学級担任(中学校：英語科担当)とALT(外国語指導助手)やJTE(日本人英語指導員)によるTTの英語の授業を通して、小学校段階から異文化や英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や興味関心を高め国際性豊かな児童生徒の育成を推進する。
- (2) 教育課程の基準によらない英語教育の実施が可能となり、JTE(日本人英語指導員)を各小学校に配置し、ALT(外国語指導助手)と共に英語教育の中心となり、授業プランの作成補助や交流学習、総合的な学習等、多様な英語学習の工夫改善に努める。
- (3) 小中学校英語教育研修会(市立小中学校英語担当教員)で、小中連携した系統的な英語教育の具体的な取組を話し合うことで、より効果的な英語学習を展開し、実践的なコミュニケーション能力の育成等の向上に寄与できる。
- (4) 基地内小中学校との交流、市在住外国人との交流、外国人留学生との交流、国際交流センター研修員との交流等を通して、外国及び自国の文化、地域社会への関心も高まり、目的意識をもった児童生徒の育成にも寄与できる。
- (5) 英語によるコミュニケーションの習得で、世界で活躍できる宜野湾っ子の人材育成につなげる。
- (6) 小学校1、2年生では音楽、図画工作、体育の時数、計34～35単位時間を英語学習にあてる。
- (7) 小学校3、4年生では、新学習指導要領で新設された外国語活動と総合的な学習の時間を合わせて、35単位時間を英語学習にあてる。
- (8) 小学校5・6年生では、新学習指導要領で新設された外国語科と総合的な学習の時間を合わせて70単位時間を英語学習にあてる。
- (9) 外国語活動の内容としては1・2年生が「英語に触れる」3・4年生が「英語に慣れる」5・6年生が「英語に親しむ」と目標を設定し、推進する。

4. 具体的な施策及び目標

(1) 教育課程の基準によらない部分

- 市立小学校へ外国語活動を設置し、年間34～70時間を実施する。
- 小学校1年生～小学校6年生において生活、音楽、図工、体育及び総合的な学習の時間の時間数を削減する。

(2) 計画初年度の教育課程の内容

- 低学年が「英語に触れる・慣れる」
- 中学年が「英語に慣れる・親しむ」
- 高学年が「英語に親しむ・使う」を目標に設定

低学年は英語の聞き取りに重点をおき、以下の目標で実施します。

- 歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れたり、親しむ。
- 英語をよく聞き、大きな声でまねて、意思表示がはつきりできる。
- 外国のこと興味・関心をもち、進んで知ろうとする。
- フォニックスアルファベットがわかり、歌える。

中学年は英語の聞き取りと簡単な会話に重点をおき、以下の目標で実施します。

- 歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーション、基本的な英語表現に慣れたり、児童同士で英会話に親しむ。
- 英語でいさつしたり、簡単な英語の質問に進んで答えようとする。
- 聞きたいこと、言いたいことを中心に外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする。
- フォニックスアルファベットがわかり、PC表でローマ字入力ができる。

高学年は英語の聞き取りと実用的な会話に重点をおき、以下の目標で実施します。

- 日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、交流活動で英語を使ったりする活動を通し、英語に親しんだり使ったりする。
- 相手の話す英語を分かろうとしてよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話したりジェスチャーで表現することができる。
- 生活や考え方を尊重しつつ、外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする。
- フォニックスのルールがわかり、アルファベットの大文字・小文字が認識できる。

5. 教育課程の内容（各学年の目標・題材）

| 各学年の目標 | | 題材 |
|--------|---|--|
| 1年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語に触れる・慣れる <ul style="list-style-type: none"> ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーションを5感で感じ取り、楽しく英語に触れる。 ・英語をよく聞き、大きな声でまね、意思表示がはつきりできる。 ・外国のこと興味・関心をもち、進んで知ろうとする。 ・フォニックス、アルファベットがわかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、自己紹介、体調、数、色、学用品、野菜、動物、虫、身体の部分、家族 ・ハロウィン、クリスマス ・日本や外国の遊び ・英語の歌・チャツ ・フォニックス、アルファベット・クロスカリキュラム |
| 2年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語に触れる・慣れる <ul style="list-style-type: none"> ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れたり、基本的な英語表現に慣れる。 ・英語をよく聞き、大きな声でまね、意思表示がはつきりできる。 ・外国のこと興味・関心をもち、進んで知ろうとする。 ・フォニックス、アルファベットがわかり、キーボード表のアルファベットの位置がわかる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、自己紹介、体調、数、色、学用品、野菜、動物、虫、身体の部分、家族 ・ハロウィン、クリスマス ・日本の遊び、外国の遊び ・英語の歌・チャツ ・フォニックス、アルファベット・クロスカリキュラム |
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語に慣れる・親しむ <ul style="list-style-type: none"> ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して英語のリズム、イントネーション、基本的な英語表現に慣れる。 ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・英語であいさつしたり、簡単な英語の質問に進んで答えようとする。 ・聞きたいこと、言いたいことを中心に外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする。 ・フォニックス、アルファベットが見え、PCのキーボードで入力できる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、自己紹介、体調、月、曜日、天気に関すること、数、時間、買い物、学校生活に関すること、家族、周りの人々、好きなもの、嫌いなもの、からだの名前、動作を表す表現 ・英語の歌・チャツ・PC入力 ・フォニックス、アルファベット・クロスカリキュラム |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語に慣れる・親しむ <ul style="list-style-type: none"> ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーション、基本的な英語表現に慣れる。 ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・英語であいさつしたり、簡単な英語の質問に進んで答えようとする。 ・聞きたいこと、言いたいことを中心に外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする。 ・PCのキーボードでローマ字入力ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、自己紹介、体調、月、曜日、天気に関すること、数、時間、家族、周りの人々、学校生活に関すること、好きなものの、嫌いなもの、からだの名前、買い物、動作を表す表現 ・英語の歌・チャツ・PC入力 ・フォニックス、アルファベット・クロスカリキュラム |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語に親しむ・使う <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・相手の話す英語を分かろうとしてよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。 ・生活や考え方を尊重しつつ、外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする。 ・フォニックスの基本的なルールがわかり、簡単な単語が読める。 ・PCでローマ字入力ができ、Word、Excelの基本的な操作ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、自己紹介、季節、月日、曜日、天気、数、色、昨日、今日、明日、好きなものの、嫌いなもの、年齢、どっちが好き、家族、誕生日、趣味に関すること、買い物、電話をかける ・英語の歌・チャツ・PC入力 ・アルファベット、フォニックス・クロスカリキュラム |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 英語に親しむ・使う <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・相手の話す英語を分かろうとしてよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。 ・生活や考え方を尊重しつつ、外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする。 ・フォニックスの基本的なルールがわかり簡単な単語や文章が読める。 ・PCでローマ字入力ができ、Word、Excelの基本的な操作ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ、自己紹介、季節、月日、曜日、天気、数、色、昨日、今日、明日、好きなものの、嫌いなもの、年齢、どっちが好き、家族、誕生日、趣味に関すること、買い物、電話をかける ・英語の歌・チャツ・PC入力 ・アルファベット、フォニックス・クロスカリキュラム |

- 学習形態：HRTとALTのTTまたはHRTとJTEとのTTで学習形態を工夫して進める。
- 評価方法：学習内容に応じて行動観察、ワークシート、自己評価、相互評価等を適宜組み入れ児童の良い面を重点に評価し、次年度に生かしていくようにする。

※ALT=Assistant Language Teacher ※HRT=Homeroom Teacher

※JTE=Japanese Teacher of English ※TT = Team-teaching

6. 令和元年度小学校英語教育課程特例校事業実施計画

(1) 英語教育課程特例校事業の概要

国際化時代に必要な実践的コミュニケーション能力をはぐくむため、小学校1年生から「外国語活動」を配当し、現行の教育課程を弹力的に運用することで、小中一貫した系統的な英語教育を行うとともに、効果的、継続的な指導体制づくりをする。

(2) 英語教育課程特例校事業研究項目

- ①全体を通して英語によるコミュニケーション能力の向上を図るカリキュラム開発
- ②児童生徒の発達段階に応じた教材・教具・指導法の開発
- ③自然な英語を聞き取れる「リスニング能力」育成のためのカリキュラム開発
- ④小中一貫した、系統的な英語教育の在り方（4領域の効果的指導）
- ⑤英語教育におけるALT、JTE、小学校(HRT)教員、中学校英語科教員との連携の在り方
- ⑥小学校外国語活動での評価の在り方
- ⑦小学校職員及びALT、JTEの研修の充実

(3) 事業研究経緯及び計画

①英語教育特別区域推進事業研究経緯及び計画

| | |
|-----------------------------------|---|
| 第1年次(H16) 小学校2校実施 普天間小、志真志小 | <ul style="list-style-type: none">・研究組織づくり、研究体制づくり・「英語科」の教育課程への位置づけ・中学校は小学校との連携を図る。（教育課程研究会）・普天間中1年生ECC(English Communication Class)実施 |
| 第2年次(H17) 全小学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・「英語科」（英語教育）の充実（ゲーム中心からコミュニケーション中心の授業）・指導内容の見直しと指導方法の工夫（クロスカリキュラム・パーシャルイメージ）・小学校と中学校英語科との連携（特区教育課程研修会・校内研への参加）・評価基準の作成（評価基準を踏まえ記述式で評価）・中学校カリキュラム・小学校年間指導計画・指導事例集作成・普天間中1年生ECC(English Communication Class)実施・嘉数中1年・2年ECC(English Communication Class)実施・幼稚園での英語活動の推進 |
| 第3年次(H18) 全小中学校連携のもと授業実施 | <ul style="list-style-type: none">・二年間の評価と課題をふまえ、題材や指導方法の見直しを図る（児童中心でコミュニケーション能力育成を中心とした授業作り）・誰でもどこの学校でも授業実践ができる年間指導計画と指導案集及び教材の見直し及び整備（1年～6年）・小中連携授業の実施（中学校内の小中教員が連携し授業研究を行う）・小学校1年生より6年生にまたがるフォニックス指導の導入 |
| 第4年次(H19) 全小中学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・幼稚園への英語活動・小中学校で系統的な試行カリキュラムによる英語授業の完全実施 |
| 第5年次(H20) 全小中学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・平成20年度に事業についての評価・見直し・英語教育カリキュラムを作成・小学校英会話形成的評価の作成・実施 |

②英語教育課程特例校事業研究経緯及び計画

| | |
|--------------------------------|--|
| 第6年次(H21) 全小中学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・平成21年度カリキュラムに基づく英語教育を全面実施・市小学校英語実践の手引の活用・市中学校「英語表現」調査の作成・実施 |
| 第7年次(H22) 全小中学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・平成22年度カリキュラムに基づく英語教育を全面実施・市小学校英語実践の手引、「英語ノート①」「英語ノート②」（主たる教材：文科省）の活用・市中学校「英語表現」調査の実施 |
| 第8年次(H23) 全小中学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・平成23年度カリキュラムに基づく外国語活動（英語）教育を全面実施・市小学校英語実践の手引、「英語ノート①」「英語ノート②」（主たる教材：文科省）の活用・市中学校「英語表現」調査の実施 |
| 第9～14年次 (H24～H29) 全小学校実施 | <ul style="list-style-type: none">・平成24年度カリキュラムに基づく外国語活動（英語）教育を全面実施・市小学校英語実践の手引、「Hi, friends!①」「Hi, friends!②」（主たる教材：文科省）の活用 |

| | |
|--------------------------------|---|
| 第15～16年次 (H30～R1) 全小学校実施 | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度カリキュラムに基づく英語科を先行実施 市小学校英語実践の手引(小学校1,2年)の活用 「Hi, friends!①」「Let's try①,②」(小学校3,4年)の活用 「Hi, friends!②」「We can①,②」(小学校5,6年)の活用 |
|--------------------------------|---|

(4) 事業に係る評価計画

① 英語教育特別区域推進事業に係る評価計画

| | |
|-----------|---|
| 第1年次(H16) | <ul style="list-style-type: none"> 評価基準作成(市教育委員会)、アンケート リスニングテストの実施(普小・志小)児童英検プロンズ5～6年生実施 |
| 第2年次(H17) | <ul style="list-style-type: none"> 評価基準検討(市の各小学校)アンケート リスニングテストの実施(全小学校)英検シルバー4～6年生実施 |
| 第3年次(H18) | <ul style="list-style-type: none"> 評価基準作成(小学校)アンケート(小・中学校追跡調査1月実施)・小・中 |
| 第4年次(H19) | <ul style="list-style-type: none"> 評価基準に基づく授業の実施・アンケート調査(中5月、小1月) 児童英検シルバー実施・英語の面接試験(予定) |
| 第5年次(H20) | <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート調査・小学校英会話形成的評価実施(全学年) 児童英検シルバー・プロンズ実施(5～6年生) |

② 英語教育課程特例校事業に係る評価計画

| | |
|----------------------|--|
| 第6年次(H21) | <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒アンケート調査・小学校英会話形成的評価実施(全学年) 児童英検シルバー・プロンズ実施(5～6年生)・小学校事業の全体評価 中学校事業の全体評価・英検の推進(中学校) |
| 第7年次(H22) | <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒・保護者アンケート調査・小学校英会話形成的評価実施(全学年) 児童英検シルバー・プロンズ実施(5～6年生)・小学校事業の全体評価 中学校事業の全体評価・英検の推進(中学校) |
| 第8年次(H23) | <ul style="list-style-type: none"> 児童・生徒・保護者アンケート調査・小学校英会話形成的評価実施(全学年) 児童英検シルバー・プロンズ実施(5～6年生)・小学校事業の全体評価 中学校事業の全体評価・英検の推進(中学校) |
| 第9～12年次 (H24～H27) | <ul style="list-style-type: none"> 児童・保護者アンケート調査・小学校英会話形成的評価実施(全学年) 児童英検シルバー・プロンズ実施(5～6年生)・小学校事業の全体評価 英検の推進(中学校) |
| 第13～ (H28～) | <ul style="list-style-type: none"> 英検Jr.児童アンケート(5～6年生)・小学校事業の全体評価 小学校英会話形成的評価実施(1～4学年) 英検Jr.(児童英検)シルバー・プロンズ実施(5～6年生)・英検の推進(中学校) |

7. 具体的取組事項

【 教育委員会 】

- (1) ALT・JTEの派遣
- (2) 小中ALT・JTE・HRT研修会
- (3) 小学校外国語活動担当教員研修会
- (4) 指導主事・ALT・JTEコーディネーター英語授業訪問
- (5) 小学校英語教育課程特例校報告書のまとめ

【 学 校 】

- (1) 教育課程の編成(各校で編成)・年間指導計画の作成
 - (2) 毎時の指導案の工夫・改善及び研究実践のまとめ作成
 - (3) 小学校外国語活動指導方法改善のための校内研究
 - (4) 教材・教具・指導法の開発(ALT・JTE・HRT等)
 - (5) 校舎内・外の学習環境の整備(英語ルームの設置や英語関係教材の整備)
- *指導案、教材、教具を学年別、時間別に整備し、誰でも、どの学年での授業実施できるよう整備
- (6) 評価方法の研究と実践
 - (7) 研究授業及び研究発表会の計画と実施
 - (8) 予算の執行
 - (9) 次年度に向けての改善計画(研究報告書)

8. 令和元年度小学校英語教育課程特例校事業に係る研修会等の日程及び内容

| 番号 | 研修名 | 日程・内容 |
|----|----------------------------------|---|
| 1 | 小学校外国語活動 担当教諭研修会① 【5月開催】 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 令和元年度本市小学校英語教育課程特例校事業の確認 ➢ 重点取り組み事項の確認 ➢ 校内英語指導法研究会の実施について（各小学校で夏季休業中） ➢ 今年度の成果・課題・対応策について ➢ 研究報告書作成（校内研、授業研）について ➢ 次年度研修について |
| 2 | 小中ALT・JTE 研修会① 【4月開催】 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 講話・教材研究会 講師：沖縄尚学高等学校附属中学校 英語科 宮城 実子 教諭 (J-SHINE トレーナー) ➢ アクティビティ事例の共有・共通実践 ➢ 授業実践例の紹介、共有・共通実践 ➢ 教材・教具・指導法の開発 ➢ ALT・JTEの役割確認、情報共有等 |
| 3 | 小中ALT・JTE・HRT 研修会② 【9月開催】 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 講話・教材研究会 講師：沖縄尚学高等学校附属中学校 英語科 宮城 実子 教諭 (J-SHINE トレーナー) ➢ 宜野湾市の ALT・JTE・HRT が一堂に会し、英語教育に 係る指導力の向上を図る ➢ アクティビティ事例の共有・共通実践 ➢ 授業実践例の紹介、共有・共通実践 ➢ 教材・教具・指導法の開発 |
| 4 | 小中ALT・JTE・HRT 研修会③ 【11月開催】 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 英語公開授業 授業者：嘉数小学校教諭 下條太貴 嘉数小学校 ALT サマンサ・チェンバーズ ➢ 公開授業に関する講評 中城村教育委員会 指導主事 松田 光 ➢ 本市英語教育の方針についての確認 |

II 宜野湾市小学校外国語活動學習指導要領

第1 目 標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

第2 小学校での英語の目標及び内容等

1 目 標

- ① 英語の音声の特徴に触れ、慣れ親しみ、基礎的な英語を聞き、話し手の伝えたいことが理解できるようにする。
- ② 基礎的な英語を話すことに慣れ親しみ、場面や相手を考えて自分の言いたいことを伝えることができるようになる。
- ③ 英語を読むことに慣れ親しみ、基礎的な英語が読めるようにする。

2 内 容

(1) 言語活動

英語に触れ、慣れ親しむために、次の言語活動を6学年間を通して行わせる。

ア 聞くこと

(第1学年及び2学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴に関心を持つこと。
- (イ) 簡単な語句を聞き取ること。
- (ウ) 簡単な質問や依頼、あいさつがわかること。

(第3学年及び4学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴に親しむこと。
- (イ) 基礎的な文を聞き取ること。
- (ウ) 基礎的な文で表される質問や依頼、あいさつがわかること。

(第5学年及び6学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴がわかること。
- (イ) 自然な口調で話されている基礎的な英語を聞き取ること。
- (ウ) 基本的な質問や依頼、あいさつに応じること。

イ 話すこと

(第1学年及び2学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴を真似て発音すること。
- (イ) 場面などに応じて、簡単な語句を使って表現すること。
- (ウ) 積極的に話そうとすること。

(第3学年及び4学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴を意識して発音すること。
- (イ) 場面などに応じて、自分の言いたいことを簡単な語句で表現すること。
- (ウ) 積極的に続けて話そうとすること。

(第5学年及び6学年)

- (ア) 基礎的な英語の音声の特徴を正しく発音すること。
- (イ) 場面などに応じて、自分の言いたいことや気持ちを簡単に表現すること。
- (ウ) 沈黙をしないで、聞き手にわかるように話そうとすること。

ウ 読むこと

(第5学年及び6学年)

- (ア) 基礎的な英語の文字を識別し、正しく読むこと。
- (イ) フォニックスを通して簡単な単語を識別し、正しく読むこと。

エ 書くこと

(第5学年及び6学年)

- (ア) 基礎的な英語の文字を識別し、正しく書くこと。
- (イ) フォニックスを通して簡単な単語を識別し、正しく書くこと。

(2) 言語活動の取り扱い

ア 6学年間を通した全体的な配慮事項

6学年間を通じ指導にあたっては、次のような点に配慮するものとする。

(ア) 低・中学年では英語に触れたり、慣れるための活動を行う。

(イ) 高学年では実際に言語を使用してお互いの気持ちを伝え合うなどのコミュニケーションを図る活動を行う。

イ 学習段階を考慮した指導上の配慮事項

児童の学習段階を考慮して、各学年の指導に当たっては、次のような点に配慮するものとする。

(ア) 第1学年における言語活動

英語を初めて学習することに配慮し、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現や遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培う活動を中心に授業を行う。

(イ) 第2学年における言語活動

第1学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現や遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培う活動を中心に授業を行う。

(ウ) 第3学年における言語活動

第2学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現や遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培うとともに簡単な語句及び文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

(エ) 第4学年における言語活動

第3学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶や自己紹介などの簡単な表現や遊びを通して指導し、遊びの中でリズム、強勢、イントネーション等の発音の基礎を培うとともに簡単な文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

(オ) 第5学年における言語活動

第4学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶、地域の文化の紹介や外国人との交流学習等と通して、基礎的な表現を実際の場面での言語使用を通じた指導を行い、相手に伝える会話の基礎を培うとともに自然な口調で話されている文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

(カ) 第6学年における言語活動

第5学年の学習を基礎として、歌やチャンツ、ダンス、ゲーム、挨拶、地域の文化の紹介や外国人との交流学習等と通して、基礎的な表現を実際の場面での言語使用を念頭において指導を行い、タスクを中心とした、相手に伝えるコミュニケーションの基礎を培うとともに自然な口調で話されている文を聞き取る活動を中心に授業を行う。

教育課程特例校に関する教育課程編成表（小学校）

宜野湾市教育委員会

令和元年度

| 区分 | 各教科の授業時数 | | | | | | | | | 道徳授業時数 | 特別活動授業時数 | の総時間的な授業学習 | の外授業時数 | の新授業教科数等 | 総授業時数 |
|------|----------|-----|------|-----|-----|--------------|--------------|-----|--------------|--------|----------|--------------|--------|---------------|-------|
| | 国語 | 社会 | 算数 | 理科 | 生活 | 音楽 | 図画工作 | 家庭 | 体育 | | | | | | |
| 第1学年 | 306 | | 136 | | 102 | 57 (-11) | 57 (-11) | | 90 (-12) | 34 | 34 | | | 34 (+34) | 850 |
| 第2学年 | 315 | | 175 | | 105 | 60 (-10) | 60 (-10) | | 90 (-15) | 35 | 35 | | | 35 (+35) | 910 |
| 第3学年 | 245 | 70 | 175 | 90 | | 60 | 60 | | 105 | 35 | 35 | 35 (-20) | 15 | 20 (+20) | 945 |
| 第4学年 | 245 | 90 | 175 | 105 | | 60 | 60 | | 105 | 35 | 35 | 35 (-20) | 15 | 20 (+20) | 980 |
| 第5学年 | 175 | 100 | 175 | 105 | | 50 | 50 | 60 | 90 | 35 | 35 | 35 (-20) | 50 | 20 (+20) | 980 |
| 第6学年 | 175 | 105 | 175 | 105 | | 50 | 50 | 55 | 90 | 35 | 35 | 35 (-20) | 50 | 20 (+20) | 980 |
| 合計 | 1461 | 365 | 1011 | 405 | 207 | 337 (-21) | 337 (-21) | 115 | 570 (-27) | 209 | 209 | 140 (-80) | 130 | 149 (+149) | 5645 |

ア、3年生～6年生については、総合的な学習の時間は週当たり1時間は確保するように編制する。

イ、外国語活動の時数を配当するにあたって、第1、2学年は音楽、図画工作、体育から、第3～6学年は、総合的な学習の時間から充当する。

ウ、上記イについては、教育課程の編制の際は、1つの教科から偏った配当にならないように留意する。

宜野湾市小学校外国語活動評価の視点【評価の観点及び評価基準】

| 低学年評価基準 | | 聞くこと | 話すこと | |
|------------------|---|---|----------------------------------|-------------------------------------|
| 関心・意欲・態度 | ・話された英語に関心を持ち、聞こうとする | ・誰とでも臆せずに話そうとする ・話し相手の目を見て話そうとする | | |
| 理解の能力 | ・話された英語を正しく聞くことができる | ・聞き取った英語を復唱することができる ・簡単な質問に答えることができる | | |
| 表現の能力 | ・話された英語を聞き取り動作化しようとする | ・聞き取った英語を音声化しようとする ・簡単なあいさつや質問に答えたりできる | | |
| 言語・文化への知識・理解 | ・英語のリズム、アクセントなど日本語との違いがわかる。 ・外国の言葉や文化に関心を持つようとする | | | |
| コミュニケーション | ・積極的に授業に参加しようとする ・個々の児童と積極的に関わろうとする | | | |
| 中学年評価基準 | | 聞くこと | 話すこと | |
| 関心・意欲・態度 | ・話された英語を関心を持って聞こうとする | ・誰とでも臆せずに話そうとする ・話し相手の目を見て話そうとする | | |
| 理解の能力 | ・話された英語を正しく聞くことができる | ・聞き取った英語を復唱することができる ・簡単な質問に答えたりできる | | |
| 表現の能力 | 話された英語を正しく聞き取り、動作化しようとする | ・簡単な質問をしたり、答えたりできる | | |
| 言語・文化への知識・理解 | 英語独特の音声に慣れ、親しむことができる 外国のジェスチャー・サインの違いを知る | | | |
| コミュニケーション | 積極的に授業に参加し、他の児童とも意欲的に関わろうとする 個々の児童と積極的に関わろうとする | | | |
| 高学年評価基準 | | 聞くこと | 話すこと | 読むこと |
| 関心・意欲・態度 | ・関心を持って聞く | ・臆せず話せる ・相手の目を見て話す ・会話を続けようとする | ・フォニックスやアルファベット を関心を持って読もうとする | ・フォニックスの単語やアルファ ベットを関心を持って書こうとする |
| 理解の能力 | ・正しく聞き取れる | ・聞き取った英語を理 解し、間違いがわかる | ・フォニックスやアルファベット 読み方がわかる | ・フォニックスやアルファベット の書き方がわかる |
| 表現の能力 | ・相手の話をききな がら相槌を打ったり して会話をつづけよ うとする | ・相手の簡単な質問に 答えることができる | | ・話されたフォニックスの単 語やアルファベットが書 ける |
| 言語・文化への 知識・理解 | ・自国や外国の文化、習慣を知り尊重できるようにする ・英語独特の音声や表現に慣れ、親しむことができる ・外国のジェスチャー・サインがわかる | | | |
| コミュニケーション | ・誰とでも臆せず話そうとする ・個々の人間に興味や関心を持ち関わろうとする ・個々の人間の人権を尊重できる | | | |

宜野湾市小学校「外国语活動」教育課程の内容

| 学年 | 指導内容 | 目指す英語力 | 標準指導時数 (年間) | | 題 材 | 指導体制 |
|---------------------------------------|-------------------------------|--|----------------|---|--------------------------------|------|
| | | | 指導 | 導 | | |
| 第1学年 ※インプット時期 | ○英語に触れる | ○ 授業を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れられる ○ 英語をよく聞き、大きな声でまね思表示がはつきりできる ○ 外国のこととに興味を持ち進んで知ろうとする | 34 | 教室英語、動作表現、あいさつ、自己紹介、体調、数、色、学用品、野菜、動物、虫、身体、家族、外國の行事、日本の行事、学校生活・各教科との関連 | HRTとJTEとのT.T. HRTとALTとのT.T. | |
| | ※インプット時期 | ○ 授業を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れられる ○ 英語をよく聞き、大きな声でまね思表示がはつきりできる ○ 外国のこととに興味を持ち進んで知ろうとする | | | | |
| 第2学年 ※英語に触れ、慣れる活動 ※インプット時期 | ○英語に慣れる | ○ 授業を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れられる ○ 英語をよく聞き、大きな声でまね思表示がはつきりできる ○ 外国のこととに興味を持ち進んで知ろうとする | 35 | 教室英語、動作表現、あいさつ、自己紹介、体調、数、色、学用品、野菜、動物、虫、身体、家族、外國の行事、日本の行事、学校生活・各教科との関連 | HRTとJTEとのT.T. HRTとALTとのT.T. | |
| | ※コミュニケーション活動 | ○ 授業を通して基本的な英語表現に慣れることに進んで答えるようとする ○ 簡単な英語の質問に答えることや言いたいことを中心に外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする | | | | |
| 第3学年 | ○英語に慣れる | ○ 授業を通して基本的な英語表現に慣れることに進んで答えるようとする ○ 簡単な英語の質問に答えることや言いたいことを中心に外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする | 35 | 教室英語、あいさつ、自己紹介、体調、月曜日、天気について、数、時間、学校生活にかかること、家族、回りの人々、買い物、好きな物、嫌いな物、体の名前、動作表現、各教科との関連 | HRTとJTEとのT.T. HRTとALTとのT.T. | |
| | ※コミュニケーション活動 | ○ 授業を通して基本的な英語表現に慣れることに進んで答えるようとする ○ 簡単な英語の質問に答えることや言いたいことを中心に外国の人々とコミュニケーションを図ろうとする | | | | |
| 第4学年 ※アルファベット・ローマ字 ※コミュニケーション活動 | ○英語に慣れ、親しむ活動 | ○ 日常の生活場面や状況に応じた英語表現がわかり、使ったりできる ○ 相手の英語を理解し、伝えたいことを簡単な表現で話したり、書いたりすることができる ○ 表現や考え方を尊重しつつ、外国人の人々とコミュニケーションを図ろうとする | 35 | 教室英語、あいさつ、自己紹介、体調、月曜日、天気について、数、時間、学校生活にかかること、家族、回りの人々、買い物、好きな物、嫌いな物、体の名前、動作表現、各教科との関連 | HRTとJTEとのT.T. HRTとALTとのT.T. | |
| | ※アルファベット・ローマ字 ※コミュニケーション活動 | ○ 日常の生活場面や状況に応じた英語表現がわかり、使ったりできる ○ 相手の英語を理解し、伝えたいことを簡単な表現で話したり、書いたりすることができる ○ 表現や考え方を尊重しつつ、外国人の人々とコミュニケーションを図ろうとする | | | | |
| 第5学年 ※フォニックス導入 ※自己表現 | ○英語に親しむ | ○ 日常の生活場面や状況に応じた英語表現がわかり、使ったりできる ○ 相手の英語を理解し、伝えたいことを簡単な表現で話したり、書いたりすることができる ○ 表現や考え方を尊重しつつ、外国人の人々とコミュニケーションを図ろうとする | 70 | 教室英語、季節、月日、天気、数、色、昨日・明日・好きな物・嫌いな物、どっちが好き、家族・親族・誕生日、趣味にかけること、買い物、電話をかける、アルファベット、フォニックス、学校行事・各教科等との関連 | HRTとJTEとのT.T. HRTとALTとのT.T. | |
| | ※自己表現 | ○ 日常の生活場面や状況に応じた英語表現がわかり、使ったりできる ○ 相手の英語を理解し、伝えたいことを簡単な表現で話したり、書いたりすることができる ○ 表現や考え方を尊重しつつ、外国人の人々とコミュニケーションを図ろうとする | | | | |
| 第6学年 ※自己表現 | ○英語に親しみ、使う活動 | ○ 日常の生活場面や状況に応じた英語表現がわかり、使ったりできる ○ 相手の英語を理解し、伝えたいことを簡単な表現で話したり、書いたりすることができる ○ 表現や考え方を尊重しつつ、外国人の人々とコミュニケーションを図ろうとする | 70 | 教室英語、季節、月日、天気、数、色、昨日・明日・好きな物・嫌いな物、どっちが好き、家族・親族・誕生日、趣味にかけること、買い物、電話をかける、アルファベット、フォニックス、学校行事・各教科等との関連 | HRTとJTEとのT.T. HRTとALTとのT.T. | |
| | ※自己表現 | ○ 日常の生活場面や状況に応じた英語表現がわかり、使ったりできる ○ 相手の英語を理解し、伝えたいことを簡単な表現で話したり、書いたりすることができる ○ 表現や考え方を尊重しつつ、外国人の人々とコミュニケーションを図ろうとする | | | | |

I Guidelines for English Education in Ginowan City

1 Foreign Language Conversation

Regarding the points to consider in pursuing foreign language conversation during the "Period for Integrated Study," the Elementary Course of Study states the following:

When conducting foreign language conversation activities within the studies for international understanding, activities should incorporate experiential learning, appropriate for elementary school age students, in which children are exposed to foreign language and familiarized with the culture and daily life of foreign countries"

"Foreign language conversation" is an activity in which a foreign language is used to achieve a mutual understanding. Among foreign languages this booklet focuses on the English language because it is widely spoken in many situations throughout the world and it also represents a comparatively low study burden for students.

Therefore, Giowan City is focusing on both English activities and International exchange activities as follows:

(1) English Activities

In elementary schools, classes are adjusted to the developmental stages of students and centered around activities in which students can hear and speak simple English expressions that they already have learned, while singing, playing games, doing quizzes, or participating in make-believe play activities.

(2) International exchange activities

International exchange activities allow students to further their appreciation for international aspect through exposure to other languages and cultures during school activities or through exchanges with people from abroad who are living in the area of Ginowan City.

2 Aims of Elementary School "English Activities" in Ginowan City

The primary purpose is:

- 1 To foster interests and desire to learn English
- 2 To develop communicative ability
- 3 To deepen international awareness and understanding

I 宜野湾市における英語教育のガイドライン

1 外国語による会話

小学校学習指導要領の中で、総合学習における外国語会話についての留意事項を次のように述べている。

国際理解教育における外国語会話活動を行う場合、発達段階にふさわしい体験的な学習を取り入れ、その中で生徒が外国語に触れ、外国の文化や日常生活に親しむようを行うことが望ましい。

外国語会話は、相互理解を図るために外国語を使用する活動の一つである。また、外国語の中で英語は世界であらゆる場面で使用される言語であり、生徒にとっても比較的負担の少ない言語であることから、ここでは英語に焦点をあてている。

以上のことから、宜野湾市では、英語活動と国際交流に重点をおくこととする。

(1) 英語活動

小学校では、授業は生徒の発達段階に対応し、生徒がすでに学んだ簡単な英語の表現を聞いたり、話したりする活動や、歌を歌ったり、ゲームやクイズ、ごっこ遊びなどの活動を中心とする。

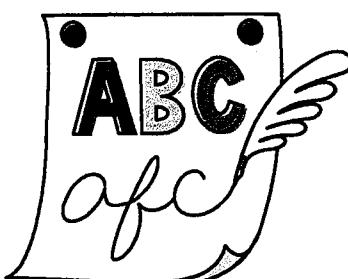
(2) 国際交流活動

学校の取組の中で、異文化や外国の言語に直に触れたり、あるいは宜野湾市に住む外国人と交流する機会を作ることは、生徒の国際感覚を深めることにつながる。

2 宜野湾市の小学校英語活動の目標

重点目標

- 1 英語学習への関心・意欲を培う。
- 2 コミュニケーション能力を高める
- 3 国際感覚や国際理解を深める。



Elementary school pupils are keenly interested in new things and are at a stage where they can naturally absorb other cultures through languages and other means. Therefore, exposure to English during elementary school years is extremely important not only for **developing communicative ability** but also for deepening **international awareness and understanding**. English activities amount to experiences that expose students to other cultures and as much as a media for promoting contact with people from other countries or contact with other cultures, they strengthen a desire to use English.

3 Aims of Elementary School “International exchange activities”

- (1) Open-mindedness and understanding regarding other cultures, and the development of an attitude that is respectful of these cultures and qualities, and the development of the abilities necessary for living together with people who have different cultures.
 - (2) Establishment of a strong sense of self and sense of being Japanese (Okinawan) to better appreciate the concept of international understanding.
 - (3) Development of basic foreign language skills, the ability for self-expression, and other communication skills for the purpose of expressing one's own thoughts and intentions, while respecting the positions of others in an international society

4 Ideal Forms of English Activities

- ### (1) Use of English that is a Part of Students' Daily Lives

In elementary schools, it is essential that emphasis be placed on **English terms that students encounter in their daily lives** and the devising of activities that allow students to become familiar with English while have fun.

- ## (2) Activities Emphasizing Spoken English

English activities focus on the hearing and speaking of simple English terms that students know from their daily lives.

In listening activities, it is very important that students become accustomed to English sounds by listening through English shower, which is sequence of sounds, some

小学生はとても目新しい物に興味を示し、言葉などを通して外国の文化を自然に吸収することができます。そのようなことから、小学校から英語に触れさせることは、コミュニケーション能力を高めることだけでなく、国際感覚や国際理解を深めることで大変重要なことです。英語活動は生徒を外国の文化に触れさせることと同様であり、外国の文化や人々とつなぐ通信媒体も同じように、英語を使いたいという意欲を高めます。

3 小学校における国際交流活動の目標

- (1) 外国の文化への寛容さとそれらの文化を尊重する態度や異なる文化を持つ人々と仲良くやっていける能力の育成
 - (2) 国際理解というものをより深めるために自分や日本人（沖縄人）としての強い自覚を持つ。
 - (3) 国際社会で他を尊重しつつ、基本的な外国語の能力や自分を表現する能力、そして、自分の思いや考えを表現するためのコミュニケーション能力を向上させる。

4 望ましい英語活動

- (1) 日常生活で生徒が触れる英語を活用
小学校英語においては、生徒が日常生活で触れる英語を活用することと、楽しみながら英語に親しむ活動を工夫することが大切である。

(2) 口語英語に重きを置いた活動

英語活動は日常生活で生徒が理解している英語を聞いたり話したりすることに重点を置きます。

リスニング活動では、生徒が英語のシャワーを浴びることで英語の音に慣れることが大切です。英語は音の連續音であり、日本語の音に似たものや、すこし違う音、日本語にはない音があります。

新しい音に触ることで、生徒は日本語の音とは異なることに気づき、口まねをすることで、自然に英語発話活動となります。



being very similar to Japanese sounds, some slightly differing from, and others differing greatly from, sounds heard in Japanese.

While listening to these new sounds, students will notice that they differ from sounds in the Japanese language, and their mimicking of them can lead naturally to English-Speaking activities.

(3) Contents of Study and Types of Activities Included in English Activities

The contents to be included in English activities have already been fixed by the City Board of Education. Teachers are required to devise activities.

First, teachers must decide the lesson activities. In selecting the activities, the teacher must first understand the students' interests, thought and desires. These activities are consistent with the students' expectations and promote participation in activities in which students are the main actors.

English activities are to be pursued as experiential activities so the **creation of activities that have students' listening and speaking, while being physically active, not just sitting, is critical.**

Furthermore, greetings, songs, games and other activities that allow students to speak English in a natural way are desirable. Monotonous repetition drills are not only incapable of drawing out students' desire and enthusiasm, but are also fundamentally ill-suited to the purposes of the "English activities".

5 Points to be considered when deciding the Contents of Activities

- (1) Use Spoken English
- (2) Take advantage of What Students Want to Say and Do
- (3) Use Items Found in the Students' Daily Lives
- (4) Select Basic and Useful Expressions
- (5) Utilize Familiar Topics with New Perspectives
- (6) Introduce Different Expressions and Gestures used by Foreigners
- (7) Create the lesson Matching Students' Developmental Stages

(3) 英語活動での活動タイプと学習内容

英語活動の内容については、既に、宜野湾市教育委員会で定められている。教師は、それらの内容の指導法改善が求められる。

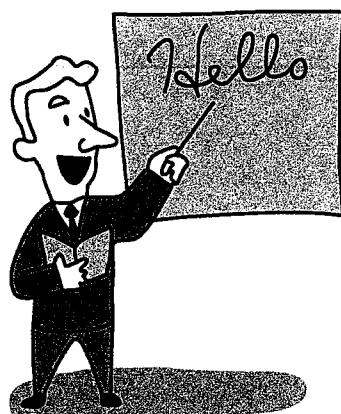
まず、教師はレッスンでの活動を決めます。活動を選択する際は、生徒の興味・関心や欲求を把握しなければなりません。これらの活動は生徒の期待するものと関連づけなければなりません。そうすることで、参加したくなるような、生徒が主役の活動となります。

英語活動は、生徒が聞き、話し、動きがある体験的な活動の創造が大切であり、始終座学の授業は避けるべきである。

さらに、あいさつ、歌、ゲーム、など自然な形で生徒に英語を発話させる方法が望まれる。単調な繰り返しドリルとなると生徒のやる気を引き出すことはできないばかりか、基本的に英語活動の趣旨に沿わないと言える。

5 英語活動の内容を決めるときの配慮事項

- (1) 口語英語を使うこと
- (2) 生徒が何を言いたいこと、やりたいことを活用すること
- (3) 生徒の日常生活で見慣れた物を活用すること
- (4) 基本的で実用的な表現を選択すること
- (5) なじみ深いトピックを視点を変えて取り上げること
- (6) 日本人が使わない表現やジェスチャーを紹介すること
- (7) 生徒の発達段階に応じたレッスンにすること



6 Linguistic Items, Words, and Expressions to be addressed

- (1) Songs and Chants
- (2) Expressions Used in Greetings (for the first time meeting, seeing someone, when parting, daily greetings, words of thanks)
- (3) Words and Expressions Describing Relations, Self-introduction, asking names, greeting a friend, Introducing a friend to others, talking about family or relative members
- (4) Numbers (Quantity, price, age, time, ordinal numbers etc) Asking and responding about number, prices, age and time etc...
- (5) Words and expressions for places(building, roads, country names etc...)Talk about the city where the students live, asking for directions, Talk about foreign countries.
- (6) Seasons, Days of the month. Days of the week, mornings and evenings.
- (7) Related to the weather
- (8) Events or holiday both Japan and foreign countries
- (9) About daily life (vehicles, colors, stationary, shopping, etc...)
- (10) Talk about Foods (favorite food or not etc...)
- (11) About Sports and Musical instruments
- (12) Parts of the body
- (13) Animals and Insects
- (14) Daily expressions for activities and directions
- (15) Words and expressions for feelings,conditions and encouragement
- (16) Phonics teaching (basic level)
- (17) Alphabet will be taught from the 5th grade
- (18) About international exchange activities

7 Things to Keep in Mind in Class

- 1) Let elementary school students to experience communication (in English) through various learning activities.
- 2) Have elementary school students to develop a sense of identity and have positive attitude toward building good relationship with others.
- 3) Give enough input to elementary school students so that students, themselves will

6 言語学上、重要な事、単語、表現

- (1) 歌とチャンツ
- (2) あいさつの表現（最初の出会い、見かけた時、別れる時、日常のあいさつ、感謝の言葉）
- (3) 人間関係や自己紹介、名前を尋ねたり、あいさつをしたり、友達を紹介したり、家族や親戚について話したり時の言葉や表現
- (4) 数（量、値段、歳、時間、自然数など）数や値段、年齢、時間などについて尋ねたり、答えたりすること。
- (5) 場所を表す言葉や表現（建物、道路、国名など）生徒が住んでいる街について話したり、方角を尋ねたり、外国について話したりすること
- (6) 季節、月、曜日、朝、夕方
- (7) 天候に関すること
- (8) 日本や外国の行事や祝祭日
- (9) 日常生活について（自動車、色、文房具、買い物など）
- (10) 食べ物に関する事（好きな食べ物、嫌いな食べ物など）
- (11) スポーツや楽器に関する事
- (12) 体の部分名
- (13) 動物や虫
- (14) 日常的な活動や指示に関する表現
- (15) 感情や体の状態、激励の言葉と表現
- (16) 基本的なフォニックス
- (17) 5年生からアルファベット指導
- (18) 国際交流活動に関する事

7 授業での配慮事項

- 1) 多様な活動を通して生徒に英会話の体験をさせること
- 2) 生徒の自己存在感と、他との良い関係を築いていくとする態度を育てるこ
- 3) 生徒が話してみたくなるように十分なインプットを行うこと



want to speak.

Infants have a long period of listening to their mother talking before they make an utterance. They cannot learn to speak without this "input". In the same way, give the students enough comprehensible input which they can understand with the help of gestures, pictures etc. With enough stimulating input, students will develop their own desire to speak.

4) Allow students to listen to and say what they want to (input + α)

When learning the names of animals in class, for example, students may want to know and use the names of other animals, some of which may not have been thought of when preparing the lesson. For example, dinosaurs, monsters, Martians... If it is relevant to the students or interests them, do not hesitate to teach it. However, do not expect the students to remember all the words next time.

5) Learning English through all the senses

Children learn differently than adults. When children learn, they do not analyze what is received. Elementary school students do not understand for example the sentence—"I want to be a pop singer." – as an assembly of individual words. They derive meaning of communication through the situational context i.e. through all of their senses. Teachers must therefore use sounds, pictures, smells, touch and if possible taste in the instruction of a foreign language. They must provide the context of communication for students to understand the meaning of the words.

6) Allow students to make mistakes and develop confidence by praising.

Confidence in oneself is necessary to have sense of identity. It is not appropriate in the class of "English Activities" to check and correct every mistake made by students.

The best method is like a mother's talk to her baby. If a mistake needs to be corrected, give it through repetition and paraphrasing so learning is natural over a period of time without the risk to the student's self-esteem.

7) Build good and friendly relationship in class by having students work together in various

4) 生徒が聞きたいことや話したいことを学習活動に組み入れること

たとえば、動物の名前を学習するとき、生徒は授業で準備されてない動物の名前を使ったり、知りたがったりします。恐竜や怪獣や火星人など、、もし、それらが生徒と関連するもので、興味関心を持たせるようであれば、躊躇せずに教えていくべきである。だが、生徒が次の授業までそれらを覚えていることは期待しないほうがよい。

5) 全ての感覚を通して英語を学ばせること

子供は、大人と異なる方法で学ぶものである。彼らが学ぶとき、彼らは何が得られるかなど考えもしない。たとえば小学生は "I want to be a pop singer." の文が単語の組み合わせでできていることなど気にもしない。彼らは、周りの状況を通して、全ての感覚を駆使してコミュニケーションの意味を見いだしています。故に、教師は、音や絵、臭い、感触、可能なら味わうことも活動に組み入れるべきである。それは、児童が言葉を理解するためのコミュニケーションの意味を伝えてくれるからである。

6) 間違うこと認め合い、誉めることで自信を付けさせること

自分に自信を持つことは、自己存在感を持つために必要なことである。英語活動で生徒の間違いを一つ一つチェックしたり訂正したりすることは不適切である。

母親が子供に話しかける姿が理想的である。もし、直した方がよい間違いであるなら、繰り返して気づかせたり、別の言い方をして見せることで、生徒の自信を失わせることなく一定の期間は自然な学習となります。

7) 多様な活動と一緒にすることでクラス内に友好的な関係を築くこと

クラスでの活動に対して積極的な態度を育てるとは、クラス内に友好的な雰囲気をもたらします。そういうことで、教師の役割の一つにグループやペアでの活動を調整していくことです。そうすれば、生徒は普段、接触のないクラスメイトとも仲良く活動することができる。

activities.

Developing positive attitudes towards class activities will bring a friendly atmosphere to classrooms. So one role of the teacher is to coordinate pair or group activities so that students may work well with their classmates, especially with those they have little contact with.

II The Roles of English Instructors

1 Homeroom Teacher (HRT)

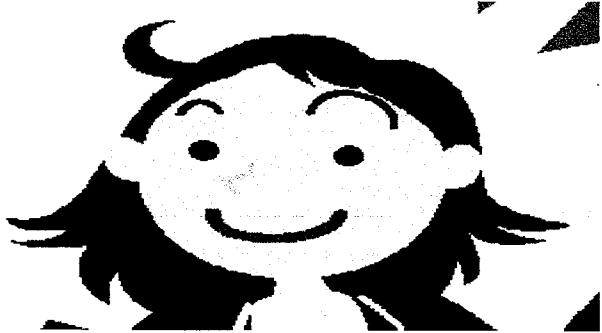
In elementary (primary) schools, it is basically a homeroom teacher who is responsible for the academic and moral instruction of students. However, because the intent of English activities is for students to gain direct exposure to English and to become familiar with life and culture in foreign countries, it is necessary to utilize Assistant Language Teachers, Japanese Teachers of English and apply creative teaching formats, such as team-teaching, which widens teaching possibilities.

2 Assistant Language Teacher (ALT)

The ALT, as a native speaker, is a source of authentic English. He/She can teach pronunciation and natural English from a variety of situations found in daily life. As a person who has experienced the culture of another country, he/she is able to share the customs, ways of thinking, living and concepts of other countries with students and stimulate their interest in other countries and languages. His/Her role is not limited to teaching classes, but includes the important task of cooperating with the Japanese teacher in the preparation of teaching materials and tools.

3 Japanese Teacher of English (JTE)

JTE engages in instruction and cooperating with the HRT. Though the JTE is an English teacher, he/she, like the HRT may be teaching English at an elementary school for the first time. The JTE proposes instruction plans and activities, assists in meetings between the HRT and ALT, and fills the role of facilitator. Observing reactions of students during class, the JTE will rephrase and help to explain the ALT's words when pupils



Big smiles are fundamental secrets for successful English teaching at school.

II 教師の役割

1 学級担任 (HRT) の役割

小学校では、基本的に学級担任が生徒の学習面や心の成長面について責任がある。しかし、英語活動の趣旨が生徒に直接、英語に触れさせることや外国の文化や生活に親しんでもらうことから、外国人英語指導助手（ALT）や日本人英語指導員（JTE）を活用することが必要となっている。そうすることで、チームティーチングのような創造的な指導法を行うことで指導方法の可能性を広げることが大切である。

2 外国人英語指導助手 (ALT) の役割

英語を母国語として話すALTは正統な英語の情報源である。彼らは、日常生活野中のあらゆる状況から自然な英語と発音を教えることが出来る。また、異文化を体験している人間として習慣や考え方、生活様式、外国という概念などを生徒と共有することもできる。そうすることで、生徒も他国や多言語への興味関心を刺激されるのである。ALTの役割は授業での指導だけに限定されずに授業外で日本人の先生と教材教具の準備など協力して作り上げることも含まれている。

3 日本人英語指導員 (JTE) の役割

JTEは英語の指導に従事するとともにHRTと協力することも職務の一つである。JTEは英語指導員ではあるが、初めはHRTのように英語を教えることもある。JTEが指導計画や学習活動を提案しHRTとALTの打合せでも支援するなど潤滑油としての役割もあります。また、授業での生徒の反応を観察しながら、JTEはALTの話したことを使い換えたり、説明したりすることもあります。

do not understand what ALT said at former lesson. He/she will also work to encourage students to communicate directly with the ALT

III Lesson Formats

1 Team-Teaching

Team-teaching is characterized by the opportunity to lead lessons or supporting activities to various directions through sharing of the instructional roles by the multiple instructors. With each instructor contributing his/her own personality and ideas, it is possible to create dynamic lessons that are difficult to create under a single-teacher format. The presence of multiple instructors also makes it possible to conduct class preparations efficiently, and to provide more support during lessons, such as giving more careful attention to individual or small-group instruction. Students will also be able to learn much from the communication and cooperation among instructors.

However, when the division of team-teaching roles is unclear, not only the instructors but also the students become uncomfortable and activities do not proceed smoothly. Consequently, it is necessary for instructors to take time before class to thoroughly discuss lesson content and instruction procedures and make the role of each instructor clear. Team-teaching begin with a discussion of the lesson plan. It is particularly important to arrange plenty of time for detailed discussions in cases where team-teaching occurs with an ALT who is not assigned to the school on a full-time basis.

(1) HRT + ALT Team-teaching

This is the most common team-teaching format. In this format, it is often the case the ALT engages in English instruction, providing model sentences and correct pronunciation, while the HRT mainly takes responsibility for maintaining the lesson flow and controlling the class atmosphere. If the HRT can provide a good atmosphere for the ALT to do his/her best in teaching , it is possible to develop a greater interest of the students in learning English.

In general, when a HRT's English ability is not strong, he/she tends to become passive. However, it is necessary for the HRT to have confidence in the fact that he/she understands the students better than the ALT.

Therefore, it is important for the HRT, even if he/she is slightly inconfident about his/her own

また、生徒を励まし、ALTと会話できるように支援したりします。

III 授業形態

1 ティームティーチング (TT)

TTは授業や補助活動を複数の指導者によって、指導の役割を共有しながら、様々な方向へ導いていくということで特徴づけられる。それぞれの個性やアイディアによって、ひとりでは困難であったダイナミックな授業を創造することが可能である。更に、授業の準備も効率的に行うことができ、授業中の大きな支援にもなります。たとえば個人やグループに細かい注意や指導も可能となります。そうすると生徒も先生同士の会話や協力関係から多くのことを学ぶことができます。

けれども、TTの役割が不明確だと指導者だけでなく生徒も不安になり、スムーズな活動ができなくなります。結局、授業前に指導内容や指導過程、お互いの役割について話し合うことが必要です。TTは、まず、授業について話し合うことから始まるものです。特に、学校配置でないALTとの打合せは多くの時間を調整することが重要となります。

(1) HRTとALTのチームティーチング

これは最も一般的なTTと言えます。この形態では、ALTが英語指導、模範英文の提供、発音の指導に関わり、HRTは主に、クラスのムードづくりや授業の流れを維持する役割を担っている。もし、クラスのムードがよければ、生徒の興味関心を最大限に引き出すこともできるであろう。

一般的にHRTの英語力が弱くなると受け身的になりがちであるが、HRTは学級のことに関しては誰よりも熟知していることに自信をもつべきである。

故に、英語や発音に自信がなくても英語を学ぼうとする積極的な姿勢を生徒に見せることで、生徒も自然にALTと一緒に活動することができるようになります。言い換えると、HRTは指導教師というよりも模範となる一人の生徒と見なすこともできます。

English competence or pronunciation, to show his/her positive attitude toward learning English and interacting with the ALT so that the students feel comfortable when they participate in activities with him/her. In other words, the HRT could be considered as one of the learners, acting as a model for the students, rather than one of the instructors.

(2) HRT + JTE Team-teaching

In this form of team-teaching, the JTE takes the place of the ALT in supplying the expressions required by the students and performs other aspects of the English instruction role, while the HRT cooperates to make sure that activities proceed effectively.

(2) HRT と JTEとのチームティーチング

この形式では、HRTが授業をスムーズに進めることができるように、JTEはALTの役割を担い、生徒が求める英語表現を教えたり、英語指導の別の側面を演じたりします。



III 各小学校の取り組み

令和元年度 普天間小学校の取り組み

1 研究主題名

主体的に学び、思いを伝え合う児童の育成
～体験的な学習を取り入れた指導実践を取り入れて～

2 研究主題設定の理由

本市では、小学校英語教育課程特例校事業として、「外国の文化に対する関心を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことを目的とし、各小学校において英語教育を実施している。本校でも、HRT と ALT や JTE とのチームティーチングによる指導を行い、児童も英語の時間を楽しみにしており、意欲的に参加している。

授業では発達段階の応じた語彙の獲得や挨拶、簡単な日常会話のスキル、歌やゲームなどを通した楽しい英語活動に加え、学校行事や他教科と関連させたクロスカリキュラム的な方法で英語への興味関心を高めてきた。しかし、相手に思いを伝えるとなると自信が持てない児童や、「はずかしい」「なんと言えばいいかわからない」など苦手意識を持つ児童も見られる。本年度は、将来的に「英語で討論・交渉できること」を目指した実践的な英語教育へと変化をしていく。そのことから、児童の実態を理解している HRT が中心となった授業計画の下、授業実践で体験的な学習をより多く取り入れていく必要がある。

そこで、本年度は様々な指導法や体験的な活動を通しての言語の習得を行いながら、英語に親しみ身近な日常会話の場の設定や発表の工夫を行っていく。本校では、ALT や JTE に頼った授業の提案が現状としてあるため、授業計画の段階から HRT が関わって、児童が英語をより身近なものとし、思いを伝え合うコミュニケーションを育む授業展開を目指す。授業内だけでなく休み時間や給食時間、クラブ活動等においても ALT や JTE との関わりを通して日常的に英会話を楽しむ児童を育てていきたい。本年度もこれまでの成果をベースにして、積極的にコミュニケーションを図り、思いを伝え合うとする児童の育成をめざしていきたい。

3 研究の主な内容

(1) 目標

【低学年】

①英語に触れる。

○歌・リズム遊び・ゲームなどの活動を通して、英語のリズムやイントネーションを体で感じとり、楽しく英語に触れる。

○英語をよく聞き、進んで発話する。

○行事やイベントを通して、外国と日本との文化の違いに気づき、外国のことについて興味や関心を持つ。

【中学年】

①英語に慣れ親しむ。

○英語を使った様々な体験活動を通して、日本語との音声の違いに気づく。

○日常的な会話を進んで行い、簡単な英語の質問に進んで答えようとする。

○聞きたいこと、言いたいことを中心に他者とコミュニケーションを図ろうとする。

【高学年】

- 英語を用いてコミュニケーションを図る。
- 英語の音声や文字（アルファベット）に興味を持ち、読むこと・書くことに慣れ親しむ。
- 相手の話す英語を理解しようとしてよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。
- 日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり使ったりする活動を通して、基本的なコミュニケーションを図る。

(2) 指導方針・方法

- ① 毎週英語のミーティングの時間を設け、事前に英語の授業の流れを担任と ALT、JTE で確認し、授業が行えるようにする。
- ② 放送委員と連携し、登下校の校内放送や、音楽発表会、運動会などの学校行事に英語を取り入れる。また、毎週火曜日のお昼の放送では、授業で習った英語の歌を流したりすることで、生活の中で自然に英語に親しむ環境づくりをする。
- ③ 各学年の英語担当を中心に、ALT・JTE と授業の流れや、各学年の発達段階に合わせた、語彙やターゲットセンテンスを確認する。
- ④ 全学年が、ALT や JTE と交流できるように、半年ずつ ALT、JTE が担当学年を交換して指導する。
- ⑤ 日常的に外国語に慣れ親しめるよう、学校全体や各教室、掲示物の工夫を図る。

4 本年度の取り組み

各学年の取り組み

【低学年】



Let's play
Halloween games

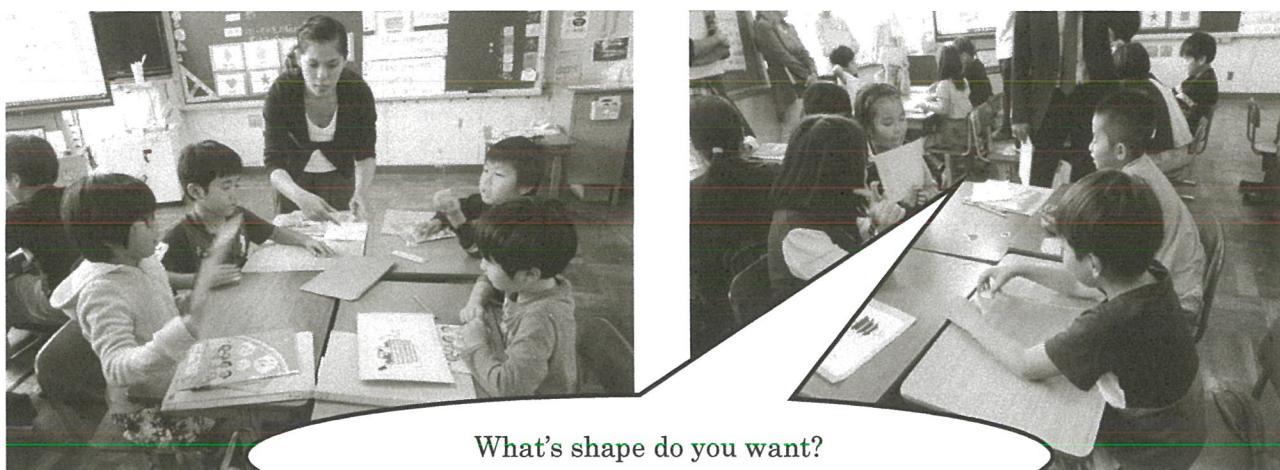
ハロウィンに関する単語を覚えて
活動する様子

What's vegetable do you like?

友達と質問し合ったり、「I like ~」と
答えたりして、コミュニケーション
を楽しむ様子



【中学年】



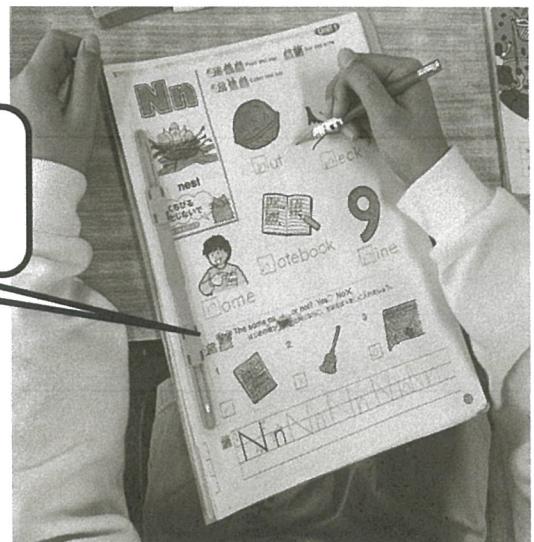
自分の手持ちの絵カードに、足りない形を「～please.」と伝える活動。絵カードを完成させようと意欲的に参加する様子。

【高学年】



「nut, neck,
Name, notebook, nine」

授業の始めには、アルファベットのワークシートを利用して、書き方、大文字、小文字、発音の練習をしました。



Lesson Plan, Grade 2

January, 10th (2-1/2-2/2-3/2-4)

Topic : 英語で福笑い（顔のparts・上下左右）

Goals of this class : 英語で表現しながら、みんなで活動を楽しもう。

Target Language : face, eyebrow, eye, nose, mouth, cheek
up, down, right, left

| 過程 | 学習活動と内容 Activity | 教師の支援 | | 備考 Remarks |
|-----|---|--|--|---|
| | | ALT/JTE | HRT | |
| 導入 | <p>【Greeting & Warm-up】</p> <p>1. 授業始めのかけ声</p> <p>2. あいさつ いろんな感情表現(復習) <u>happy, hungry, sleepy, sad, angry.</u></p> <p><u>good, hot, cool, cold</u></p> <p><u>tired</u>.</p> <p>何名かに質問⇒答え</p> <p>3. ABC song♪</p> | <p>Daily Question</p> <ul style="list-style-type: none"> • How are you today ? • I'm _____ <p>• Let's singing♪</p> | <p>日直がかけ声と あいさつがスムーズにできるよう にサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今の気分を表現させてみる (ペア活動) • 一緒に歌う。 | <p>日直が行う 感情ピクチャーカード</p> <ul style="list-style-type: none"> • DVD • CD |
| 展開 | <p>【Activity】</p> <p>4. 体のいろいろな部位の絵を使って発音練習 (上記参照)</p> <p>5. 歌を歌う♪ "Head, Shoulder, Knees, and toes"</p> <p>6. New words.(指示語) Up, down, right, left</p> <p>7. 英語で福笑い ひょっとこ&おかめの顔のpartsを当てはめる。支持は英語で！！ (グループ活動)</p> | <ul style="list-style-type: none"> • Practice the words Repeat after me. • Let's sing a song. • Practice the words Repeat after me. • Let's play and enjoy!! • You have to say ENGLISH.(up/down/right/left) | <ul style="list-style-type: none"> • JTEのあとに繰り返し発音しているか確認する。 | <p>ピクチャーフラッシュカード</p> <p>DVD CD</p> <ul style="list-style-type: none"> • JTEと一緒にデモンストレーションする。 • グループ編成 |
| まとめ | <p>【Wrap-up】</p> <p>6. 授業の振り返り</p> <p>7. 終わりのあいさつをする</p> | <p>What's today's topic? Do you understand? Give your stamps!! That's all for today.</p> | <p>本時の授業のめあてが達成でき たか確認</p> | <p>振り返り スタンプ</p> |

5 研究の成果と課題

(1) 成果

1・2年

- ・身体表現をしながら取り組むことで、楽しみながら英語に触れ、慣れ親しむことができた。
- ・ゲームやインタビュー活動を通して、楽しく学習を進めることができた。
- ・積極的に質問に答えることができる。
- ・決まったセンテンスをしっかりと覚え、簡単な会話ができるようになった。

3・4年

- ・英語の歌やチャンツを通して、色や形などの既習事項の理解を確実にすることができた。
- ・様々なシチュエーションで使える会話を、毎時間取り組むことで、より日常的な英会話にふれる機会が増えた。(例:A : Achoo B : Bless you)
- ・チャンツやゲームを通して、児童同士で楽しそうにコミュニケーションをとることができている。

5・6年

- ・毎時のチャンツを取り入れることで、コミュニケーションの流れをつかんで会話のやりとりができた。ラップ調のチャンツを取り入れたことで、楽しく発音する子が増えた。
- ・単語の発音をする際にフォニックスを意識させたことで、正しく発音できる児童が増えた。
- ・ALT や JTE の英語に対し、ジェスチャーなどを通して頑張って理解しようとする児童が増えた。また、理解できる児童も増えた。
- ・言語のみではなく、外国の文化などにも触れることで、外国に対する興味や関心が高まった。
- ・授業はじめに、アルファベットのワークシートを利用して、大文字と小文字の違いや、文字の名前とフォニックス発音の違いに気づけた。

(2) 課題と改善策

低学年

- ・全体では大きな声を出して理解しているように見えるが、個人での受け答えになると声が小さくなる児童もいて、十分には理解できていないようである。
→引き続き、毎時間簡単な評価をしたり、ペアやグループでのインタビュー活動を入れたりして、定着を図りたい。
- ・単語だけで答えてしまう児童がいる。
→質問を聞き取れている証拠でもあるため、ALT や JTE が文章にして返すことを繰り返し行う。
- ・床で字を書くことで姿勢が悪くなる。
→簡易テーブルやイス等があるとよい。

中学年

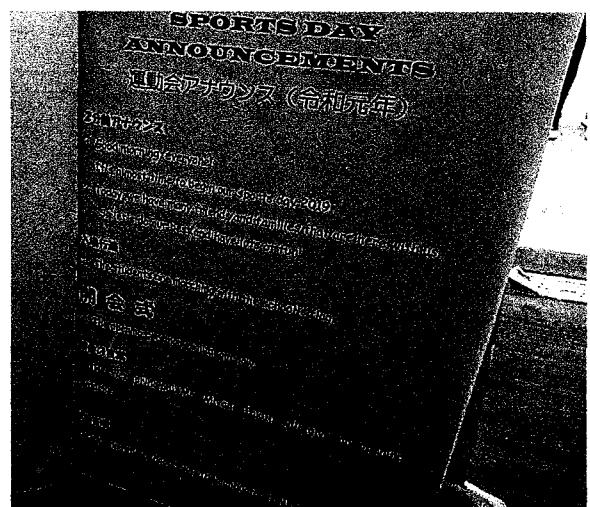
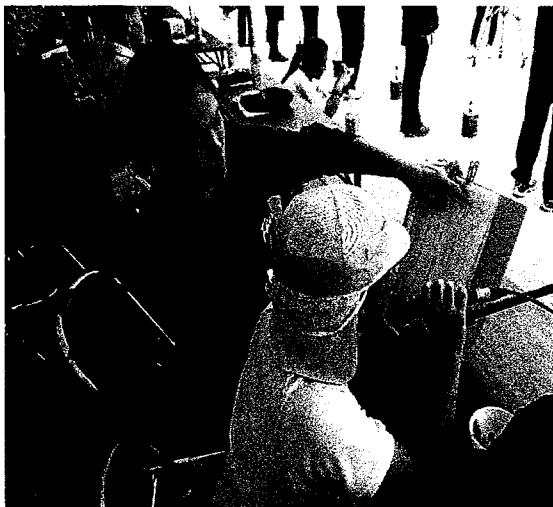
- ・個人差があり、自信を持って発音できない児童がいる。
→引き続き、繰り返し練習する時間を確保し、自信につなげる。
→発表や活動の形式を工夫し、発音する機会を多く設ける。
- ・「活動する」「聞く」スイッチの切り替え
- ・覚えている単語が少ないことで、ALT の言葉がわからない時がある。
- ・英語教室の中を、書くスペースと活動するスペースに分けたい。

高学年

- ・英語の定着に個人差が生じている。そのため、苦手意識のある児童は発表することに消極的になり、特定の児童が発表しがちになっている。
→ペアでの発表や全員発表の場を設けることで、特定の子以外に子にも、発表の機会を作ることができるのでないか。
- ・パターン化された会話の練習が中心になっているため、児童は自然なリアクションが苦手である。
→教師が実際にやってみせたり、動画をみせたりすることで、自然なリアクションを身につけさせたい。

全学年共通

- ・ALT、JTEとのミーティングの時間が取りにくい。HRTが主導で授業計画を行えていない。
→担任主導の割合を徐々に増やしていく、他教科との関連をもっと図れるように工夫する。
→計画案を手書きで起こし、考えをすぐに書き込んだり、共有したり、柔軟に変更ができるようとする。



毎日の帰りの放送や、運動会のアナウンス
も、英語で行っています。

英語の放送（月、火、水、木、金）

放送時間　…(月・金は2:30～3:00　火・水・木は3:00～3:30)

3:00　スクールズ　オーバー　フロー　トゥデイ　エブリワン
School's over for today, everyone.

2:30　イニシアム　トロ　ゴー　ホーム
It's time to go home.

2:30　ソーワン　アワ　フロー　ユース
So, watch out for cars.

3:30　ブロードキャストラップ　バイ
Broad Casted by

2:30　フタῆ　エレメントリ　スクール
Futema Elementary School.

今　アーティス　アーティス　エンド
This is your announcer.

名前　オーラ　フロー　トゥデイ
My name is (名前) and (名前).

ダブル　オーラ　フロー　トゥデイ
That's all for today.

日　ハッ　ア　マイ　ダイ　シ　ユ　トゥモロウ
Have a nice day! See you tomorrow.

月　ハッ　ア　マイ　ウイークエンド
Have a nice weekend!

火　シ　ユ　サン　ヨーナ
See you on Monday!

※月曜日や金曜日でも補習やクラブなどで下校が6校時限
になった場合は3時30分に下校の放送を行う。

令和元年度 普天間第二小学校の取り組み

1. 研究主題

積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～アクティブ・ラーニングをめざして～

2. 研究主題設定の理由

本市の英語教育課程特例校事業の研究をもとに、本校でも ALT・JTE の配置による TT 形式での授業を進めている。歌やリズム遊び、読み聞かせ、ゲーム、スキットなどを取り入れた身近な英語を聞いたり話したり表現したりという活動の中で、児童は楽しみながら英語に触れ、慣れ、親しんでいる。

また、外国への興味・感心も高めるため、毎年、国際理解教育とからめ、国際交流学習に取り組む活動を進める中で異文化に興味を持っている。

そこで、本年度は校内研究のテーマ「主体的な学びを育む学習指導の工夫・改善」を受けて、英語科においては積極的にコミュニケーションを図ろうとすることがアクティブ・ラーニングであると捉え、その態度の育成をめざした活動計画を模索していくと考え、本テーマを設定した。

3. 研究のねらい

- (1) 英語に興味を持って積極的にコミュニケーションを楽しもうとする態度を育てる。
- (2) 外国人との交流活動を通して、国際理解を深める。
- (3) 他国の行事を通して文化を学び、実際に体験しながら、異文化理解を深める。
- (4) 学校行事や他教科と関連づけた英語の授業を展開する。

4. 研究内容

- (1) 授業の充実（ミーティングによる TTでの指導改善、ミックスカリキュラムによる活動の工夫。
　　インタビューテストによる個々の児童のスキル確認、支援の工夫。活動体系の工夫と学びあい。）
- (2) アクティブ・ラーニングにつながる教材・教具の開発と工夫（学年ごとの提示カード、会話文の整理、歌・ゲームの活用等）
- (3) 学習環境の設備（イングリッシュルーム、図書室、校舎内）
- (4) 英語活動の日常化を図るための工夫（放送委員における英語アナウンス、行事での英語活動、音楽朝会等での英語ソングの合唱）

5. 教育課程編成上の基本方針

- (1) これまでの宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業としての方針を踏まえ、関係法令や学習指導要領、本県・本市教育委員会の施策の趣旨と内容及び学校経営方針に基づいて編成する。
- (2) 学校教育目標の達成を目指し、地域や学校の実態及び心身の発達段階と特性を十分考慮して編成する。
- (3) 知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成が図れるよう、年間指導計画（各教科・道徳・と特別活動及び総合的な学習の時間の編成）・日課表・週時程を工夫する。

(4) 特別支援学級の教育課程は、児童の実態に応じて適切に工夫する。

(5) 教科として「英語」を全学年で実施する。

1年・・・音楽・図工から各11時間、体育から12時間計34時間を英語に充てる。

2年・・・音楽・図工から各10時間、体育から15時間計35時間を英語に充てる。

3年・・・総合的な学習の時間から35時間を英語に充てる。

4年・・・総合的な学習の時間から35時間を英語に充てる。

5～6年・総合的な学習の時間及び外国語活動から70時間を英語に充てる。

(6) 宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業の「計画初年度の教育課程の内容」を踏まえ、目標が達成されるよう教育課程を編成する。

(7) ALT, JTE を活用し、実践的コミュニケーションの基礎を培う。

| | 前半 | 後半 |
|-----|----------|----------|
| JTE | 1年、3年、5年 | 2年、4年、6年 |
| ALT | 2年、4年、6年 | 1年、3年、5年 |

6. 令和元年度の取り組み

(1) 授業の充実（アクティブ・ラーニングをめざして）

お医者さんゲーム



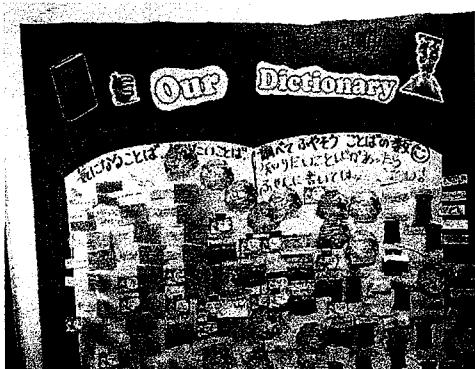
We studied some words from French.



外来語について調べたことを発表

How can I help you?

I have a stomachache.



の質問にJTEが回答
英語教室前に設置し、児童



子どもたちが知りたいと思う言葉を
質問できる Dictionary Board

2学年 ハロウィンパーティー

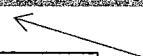
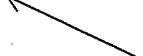
ハロウィンの由来を学んだあと仮装ペーパージェント

5th Grade Lesson Plan

12/70

May 28th, 2019

1. 単元 Topic :What do you like? 1/2
2. めあて Today's Aim :いろいろな色や形の言い方を知ろう。
3. ことば Target Language :colors, shapes, Red, purple, green, blue, pink, orange, yellow, brown, black, white, circle, star, heart, square, triangle, diamond
4. 使用教材 Text book : HFL1-L5 p.18-19

| 過程 Process | 活動内容 | 指導者の活動・支援 | | 準備物・備考 |
|--------------------------|---|--|--|--------|
| | | HRT | JTE/ ALT | |
| 導入 Opening (5分) | 1. Greeting ※クラスリーダーが始めのあいさつをする。 2. Color touch game | 担任 : Let's start! Class leader, please. | | |
| 展開 Main (35分) | 3. 《Today's Aim》 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> めあて：英語で会話しながら、友だちにTシャツをデザインしてあげよう </div> 4. Practice ※色と形を簡単に復習 | 担任 : Let's check today's aim. Look at our demonstration.  | demonstration 惠：先生、What color do you like? 先生 : I like ~. 惠：OK. What shape do you like? | |
| | 5. Listening ※HFの18ページのリスニングをする | 担任 : Let's listen. Please open your Hi friends page 18.  | 色・形をきいて登場人物の好きなシャツを当てるリスニング | |
| | 6. Tシャツをつくってあげよう ※ワーキートを使ってペアで好きな色や形や数を聞き合いながらお互いのシャツをデザインする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 少し長めに時間を持って、はさみ、クレープ、のりをつかってシャツを描く </div> | ワーキートには友だちにあげる枠と、もらったものを貼る枠があります。 | 会話表現 A: What shape do you like? B: I like ____. A: How many? B: 4 please. A: What color do you like? | |
| まとめ Summarize (5分) | 7. まとめ ※先生がまとめをする | 担任 : 英語でかいわしながらTシャツを作ったありましたか？ | | |

(2) 学習環境の設備 (イングリッシュルーム、図書室、校舎内)

職員室前や特別教室の表示



校内に英語で書かれた表示があり、図書館には英語の絵本コーナーもあり、児童が英文字を目にする機会も増えてきました。

(3) 英語活動の日常化を図るための工夫

①放送委員による朝・帰りの英語アナウンス



《朝のアナウンス》

Good morning, everyone.

This is Futenma Dai2 Elementary school Broadcasting group.

Today is Monday, April 10th.

The weather is (sunny/ cloudy/ rainy / windy / heavy rain / thunder storm) and

It's (hot, warm, cold, humid, cool, chilly, dry)

It's time to start the morning activities. Let's clean our school together.

It's time to finish the morning activities.

Thank you for your cooperation. After the morning activities, please go back to your classroom as soon as possible.

Please enjoy your school life. Thank you.

《帰りのアナウンス》 *下校のBGM : IMAGINE - JOHN LENNON

It's time to go home.

Students who are still in the classroom or the playground, get ready to go home.

Please go straight home, be careful of the cars.

You should especially be careful of strangers and do not talk to them. Thank you.

That's all for today's announcements.

This is F.D.2.B.C. Futenma Dai2 Elementary school Broadcasting group

Please enjoy the rest of your day.

Good bye, see you tomorrow. (Good bye, see you next weekend!)

4月の委員会活動で放送委員全員に朝・帰りの英語アナウンスの練習を行いました。ALT・JETの先生方に発音やイントネーションなどを指導してもらいました。日付の言い方も確認し、自信をもつてアナウンスできるようになってきました。

②運動会・学習発表会における英語アナウンス

【 令和元年度 普天間第二小学校運動会 2019年10月13日（日）】

《朝のアナウンス》

Good morning everyone.

Thank you very much for coming to our sports day.

For this day, we practiced very hard.

Today, in the early summer weather,

We'll show you our best performance.

We hope that all of you will enjoy our performance together.

We will start our performance at 8:45.

Please wait for a while.

《昼のアナウンス》

Now our morning program is finished.

Our afternoon program will start at 12:50.

To all students, please gathered to a predetermined position.

The gathering place is for “大玉送り”



《閉会式のアナウンス》

Now, we've finished everything on our schedule today.

To everyone, parents and guests, our sport day has ended happily.

Thank you for your support and cooperation.

We appreciate it very much. We had a great time! Thank you.

【 令和元年度 普天間第二小学校学習発表会 2019年12月1日（日）】

《開演前のアナウンス》

Good morning. Welcome to the “Futenma Daini School Festival.

Please turn off your mobile phones or set them to silent mode.

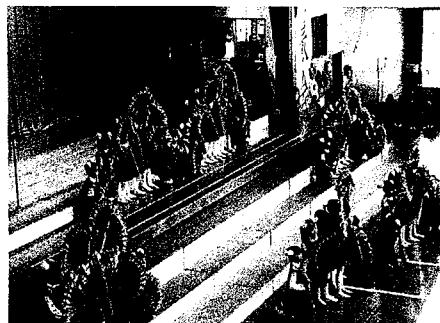
If you take pictures or video, please make sure not to disturb the other audience members.

Please don't eat and drink in the gym.

Thank you for your understanding.

Thank you for coming to this special event.

It's time to start! Please enjoy the show!



《開演後のアナウンス》

Thanks again for coming to the event.

We hope you enjoyed all of today's performances.

Hope to see you again next year.

Please be careful on your way home. Thank you.

③音楽朝会での英語ソングの合唱



A very merry

Christmas



Let's hope



it's a good one

without any fear.

War is over if you

want it.



全学級に英語の歌詞を配布して、練習に取り組みました。数年継続しているので高学年は慣れてきており、1年生をリードしてくれました。

7. 成果と課題

(1) 成果

- ・普段の生活に即した英語を多く取り入れることで、子どもたちも楽しく関わり、慣れ親しむことができた。また、自然に関する単語を学習した後、実際に外へ出て、いろいろなものを見ながら（木、葉、石、花、空、雲など）体験的に学習することができた。
- ・フォニックスと単元にかかわる言葉を書く活動を通して、文字を読もうとする力がつき、書きたいという意欲も高まりつつある。
- ・パワーポイント・音声・歌などITCを効果的に活用することができた。
- ・朝や帰りの放送、学校行事の英語アナウンスやクリスマス音楽朝会において全児童で英語の歌を歌うことなどを通して、学校生活の中で英語に親しむことができた。
- ・毎週のミーティングで、JTE・ALTから指導案の立て方や授業展開のしかたを習いながら、学級担任がT1を行う準備をすることができた。

(2) 課題

- ・全体ではまねて答えられるが、個人でたずねられると答えられない子への手立て
- ・実際に英語を用いてお互いの考え方や気持ちを伝えあう活動（Small Talk）の工夫
- ・高学年は、場の設定（机・椅子）があると集中力が高まり、さらに身につくのではないか。
- ・英語の教科を学級担任がT1として指導案作成・授業・評価していくには、さらに研修していく必要がある。

令和元年度 大山小学校の取り組み

I 研究主題名

他者に配慮しながら、自分の思いや考えを
適切に表現することができる児童の育成
—思考・判断・表現する場面を設定し国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して—

II 研究主題設定の理由

平成 29 年 3 月に告示された新学習指導要領の改訂の視点は、「何を学ぶか」という指導内容の見直しに加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」である。その中で、育成すべき資質・能力として「①知識及び技能の習得 ②思考力、判断力、表現力等の育成 ③学びに向かう力、人間性の涵養」の 3 つの柱が明記され、キーワードの一つである「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の必要があるとしている。

令和 2 年度の新学習指導要領の実施に向けて、宜野湾市のこれまでの取組をいかしつつ、外国語・外国語活動を再構築する必要が出てきた。

新学習指導要の外国語では、外国語を用いて尋ね合い、伝え合い、コミュニケーションを楽しむことのできる児童の育成をねらいとしている。また、「話すこと」が〔やり取り〕と〔発表〕の 2 領域に分かれ、日常の生活場面を意識した〔やり取り〕や自分のことをわかりやすく伝えるための〔発表〕を行う。話しやすさ・伝わりやすさ・わかりやすさ等を他者へ配慮しながら思考・判断・表現することでコミュニケーションの素地(基礎)となる資質・能力を育成するのである。

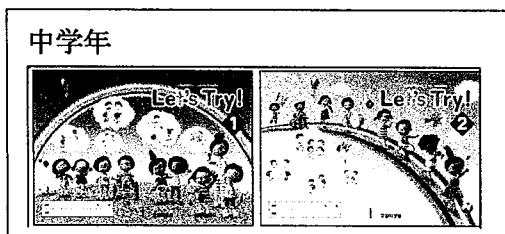
以上のことから外国語・外国語活動のメインテーマを「他者に配慮しながら、自分の思いや考えを適切に表現することができる児童の育成」とし、サブテーマを一思考・判断・表現する場面を設定し、外国語を用いてコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して—とした。

III 学年・領域

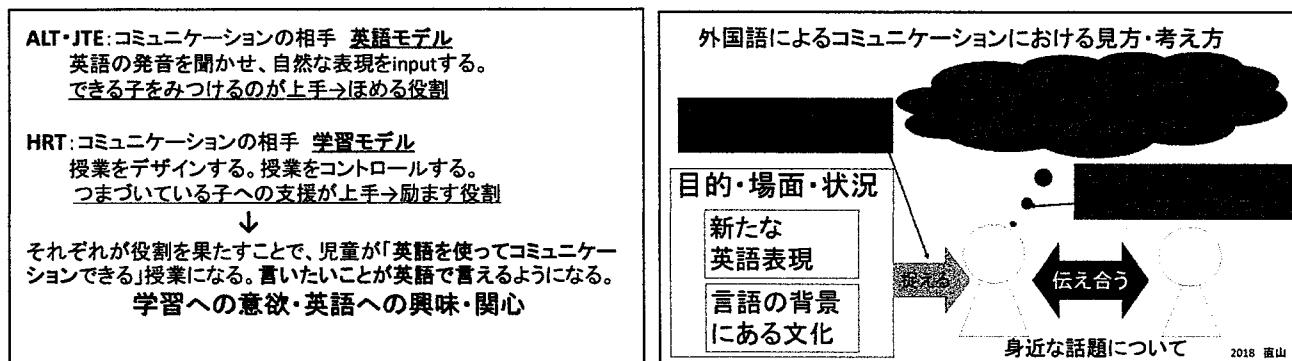
平成 30 年度・平成 31 年度は、外国語の教科化・新学習指導要領の実施にむけた移行措置期間である。本校では、その期間も中学年 35 時間・高学年 70 時間の先行実施を行うこととしている。そこで、文部科学省からの「移行期間の学習内容案」をもとに年間指導計画をたて、高学年は Hi! Friends と新教材 We can、中学年は新教材 Let's Try の内容を指導する。平成 30 年度は「We Can」「Let's Try」の指導内容理解と外国語・外国語活動を教師自身が学びのモデルとして授業実践し、外国語・外国語活動を児童とともに楽しむこととした。令和元年度も「We Can」「Let's Try」を活用し、「思考・判断・表現」する場面を設定し、尋ね合い伝え合いながらコミュニケーションを楽しむ活動を行う。

| 低学年 |
|------------------|
| ・あいさつ(自己紹介) ・気持ち |
| ・天気と曜日 ・色・形 |
| ・くだもの ・野菜・動物 ・昆虫 |
| ・体の部分 ・数・伝統行事 |
| ※絵本を活用した授業 |
| ※歌やダンスなど体を動かす活動 |

- ◎他者へ配慮したコミュニケーション活動
- ◎自分のこと・本当のことを伝え合う活動
- ◎思考・判断・表現する場面の設定



IV 研究と組織（役割）



◎ALT・JTE と HRT の役割の明確化 ◎ALT・JTE・HRT: コミュニケーションの相手

◎HRT: 授業をデザイン・コントロールする・学習モデル

V 年間研究計画

| | 英語授業 | | 宜野湾市特例地域 | 校内研・学校行事 | |
|-----|---|---|---|---|-------------------------------------|
| 1学期 | 1-3年 H R T ・ J T E | 2-4年 H R T ・ A L T | <p>【4月】</p> <p>ALT・JTE 研修 英語主任研・予算説明会 特例地域研修案提出</p> <p>○教育委員会による ALT・JTE 授業参観</p> | 4/8 始業式 4/19～26 家庭訪問 5/14-17 体力テスト 6月 校内研修(全体研修：理論研) 6/27 社会見学(6年) 7/19 終業式 校内研修(全体研修：教材研修会) | 4/9 入学式 5/10 春の遠足 5/19 日曜授業参観 |
| 2学期 | | | <p>○教育委員会による ALT・JTE 授業参観</p> <p>【12月】</p> <p>英検 Junior(5・6年) 英会話形成テスト(1～4年)</p> | 8/26 始業式 9/10 校内研修(隣学年研 5年) 9/22 運動会 10/7 校内研修(隣学年研 3年) 10/8-9 宿泊学習(5年) 10/10-11 修学旅行(6年) 10/11 社会見学(1～4年) 10/24 音楽発表会 11/11 校内研修(隣学年研 1年) 11/21 24 学習発表会 12/6 社会見学(5年) 12/4 校内研修(隣学年研 2年) 12/25 終業式 | |
| 3学期 | 3年 H R T ・ A L T | 4年 H R T ・ J T E | <p>【1月】</p> <p>特例地域事業報告提出</p> <p>【3月】</p> <p>決算提出</p> | 1/6 始業式 2/19 到達度調査 3/19 卒業式 3/23 修了式・離任式 | 1/24 實践報告会 |

○ALT/JTE の担当学年を前半と後半で入れ替える。



VI 授業の実際

第6学年 外国語活動学習指導案

1 単元名 My summer Vacation.(My School Trip) 夏休みの思い出(修学旅行の思い出)
We Can ! 2 (文部科学省 教材) 年間指導計画 10月指導内容

2 単元の目標

○夏休みや修学旅行で行った場所や食べたもの、楽しかったこと、感想などを聞いたり言ったりする。
(知識・技能)

○夏休みや修学旅行で行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などについて伝え合う。また、夏休みや修学旅行の思い出について簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、例を参考に書いたりする。
(思考力・判断力・表現力)

○他者に配慮しながら、夏休みや修学旅行の思い出について伝え合おうとする。
(主体的に学ぶ態度)

3 単元について

(1)教材観

本単元では、夏休みや修学旅行の思い出を扱う。夏休みや修学旅行は児童にとって「日常生活に関する身近で簡単な事柄」である。それについて、聞いたり話したりすることは、学習指導要領の目標にも合致している。そこで本単元では、過去の表現が分かり、夏休みや修学旅行に行った場所や、そこで楽しんだこと、感想などについて伝え合ったりすること、また、それらについて書かれたものを読もうしたり、話したことを書こうとしたりすることを取り組むには効果的な教材である。

(2)児童観

①単元・教材に対する児童観

本教材は本来、夏休みを題材としている単元である。しかし、夏休みに経験したことには個人差があるため、必要に応じた配慮が求められる。そこで、本校では、単元を修学旅行と時期を同じになるよう計画し、前半は夏休みや週末の出来事を扱い、後半に修学旅行での共通体験を扱うこととした。10月10日11日に修学旅行を経験したばかりの児童は、その体験を I went/enjoyed/ate/saw ~. It was ~.といきいきと話すことが予想される。

②児童の実態

本市の児童は、低中学年では35時間、高学年では70時間の外国語活動の授業を経験している。ALTや担任の話す英語の大まかな意味を理解し、楽しく英語の授業に参加する児童が多い(※)。しかし、英語をもっと話せるようになりたいと思う児童が多い一方で、英語で話しかけた経験を持つ児童は少ない(※)。英語を活用する目的や場面を想定し、それに応じた英語を自ら思考し、判断し、表現できるよう授業を組み立てることで、自ら英語を活用することにつながると考えられる。

※平成30年度 宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業報告書 P74-79 英検 Jr.アンケートより
(3)指導観

本単元では、夏休みの思い出や修学旅行での共通体験について伝え合う言語活動に取り組む。体験したばかりの修学旅行の出来事を伝える活動をすることで過去形を無理なく自然に使える力を身につけさせたい。なお、過去形が初出であることから、児童にとって難易度が高くならないよう、取り扱う過去に関する言語材料は、児童が日常よく活用する「行った went,」「食べた ate,」「見た saw,」「楽しんだ enjoyed,」「was」に限定している。不規則動詞は「聞くこと」「話すこと」を中心に学習する児童にとっては、現在形との違いが分かりやすい。また、ピクチャーカードも現在の出来事をカラー、過去の出来事をグレースケールで活用することで、児童が言語の特徴を視覚的に捉えられるようにする。自ら捉えたことは教えられたことよりも身につくであろう。単元前半で、夏休みや週末の出来事を「聞くこと」「話すこと」の言語活動に取り組み、過去の表現に十分に慣れ親しませた後、単元後半では修学旅行での共通体験の思い出を話したり、読んだり、書いたりする構成としている。ただし、「読むこと」「書くこと」については、児童の負担感を考えて少しづつ慣れ親しむことが大切であることから、1文ずつ書くよう設定した。

4 単元の評価基準

| 知識・技能 | 思考力・判断力・表現力 | 学びに向かう態度 |
|---|--|---------------------------------------|
| 夏休みや修学旅行で行った場所や食べたもの、楽しかったこと、感想などを聞いたり言ったりした。 | 夏休みや修学旅行で行った場所や食べたもの、楽しんだこと、感想などについて伝え合った。 | 他者に配慮しながら、夏休みや修学旅行の思い出について伝え合おうとしている。 |

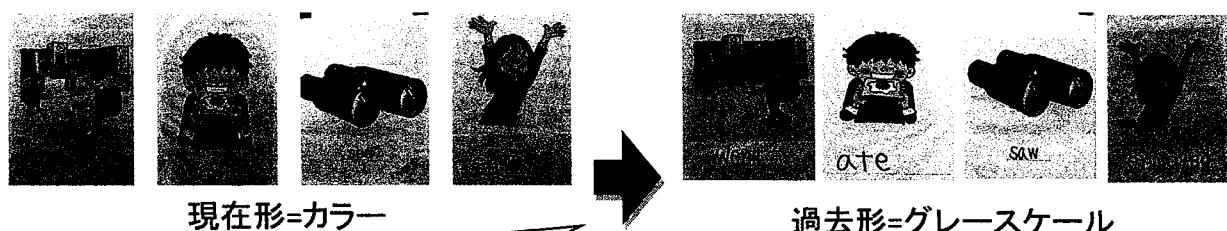
5 単元の指導計画・評価計画

※別紙 単元計画シート参照

| 時間 | 主な評価基準(観点) | 【評価方法】及び 支援が必要な児童への手立て | 主な学習活動 本時の主な問題・課題 |
|---------|--|--|------------------------------|
| 1 | 現在形と過去形の違いに気付き、夏休みに行った場所について聞いたり言ったりした。(知・技) | ピクチャーカードの色 現在形→カラー 過去形→グレースケール 【観察・振り返りシート】 | 夏休みに行った場所について伝え合う。(過去形との出会い) |
| 2 | 夏休みや週末に行った場所・食べたものについて伝え合った。(思・判・表) | カードの掲示 デモンストレーションによるインプット【観察】 | 夏休みや週末に行った場所・食べたものについて伝え合う。 |
| 3 本時 | 夏休みや週末の出来事について伝え合った。(思・判・表) | カードの掲示 デモンストレーションによるインプット【観察】 | 夏休みや週末の出来事について伝え合う。 |

10/10・11 修学旅行

| | | | |
|---|------------------------------------|---|--|
| 4 | 修学旅行で行った場所やけいけんしたことについて話し合った。(知・技) | カードの掲示・4線への記入 修学旅行の写真の掲示 【観察・振り返りカード】 | 修学旅行で行った場所や経験したことについて話し合おう。(一文を書いてみよう) |
| 5 | 修学旅行で食べたものについて話し合った。(知・技) | カードの掲示・4線への記入 修学旅行の写真の掲示 【観察・振り返りカード】 | 修学旅行で食べたものについて話し合おう。(一文を書いてみよう) |
| 6 | 修学旅行の思い出を話し合った。(主体的に学ぶ態度) | カードの掲示・4線への記入 修学旅行の写真の掲示 【観察・振り返りカード】 | 修学旅行の思い出を話し合おう。(書いてみよう) |



過去形をどう捉えさせるか? . . . Teacher's Talk

現在形

I go to school now.
I see school teacher now.
I eat school lunch everyday.
I enjoy school life
It is fantastic.

過去形

Last weekend
I went to the PARCO City.
I saw many tourist.
I ate tapioca juice.
I enjoyed shopping.
It was exciting.

日本語訳をするのではなく。教え込むわけでもなく。気づかせる。捉えさせる。→活用

6 本時の指導 「My summer Vacation.」 (3/6 時間)

(1)ねらい 夏休みや週末の出来事(行った場所・したこと・食べたもの・気持ち)を伝え合おう。

(2)本時の評価基準

夏休みや週末に行った場所や食べたもの、楽しかったこと、感想などを伝え合った。

(思考力・判断力・表現力等)

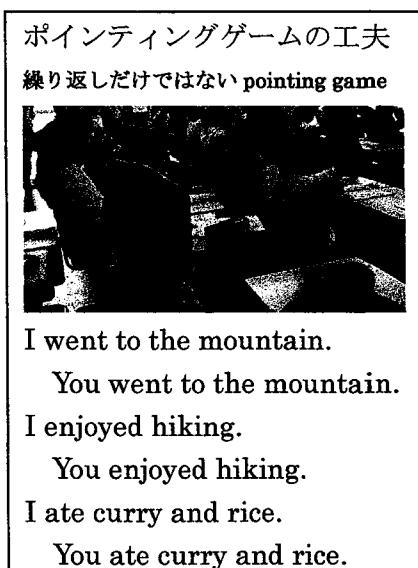
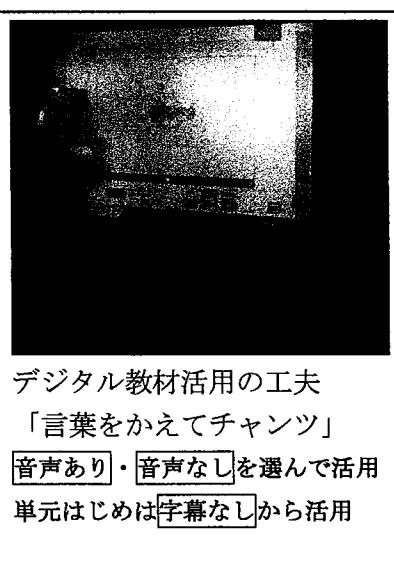
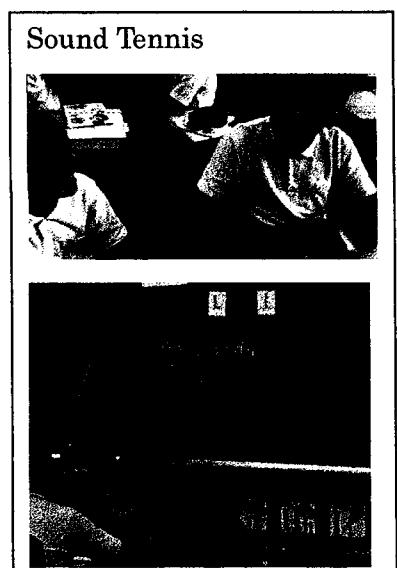
(3)「めざす子どもの姿」の実現に向けた授業改善(教材・発問・問い合わせ返し・過程の工夫等)

○ピクチャーカード(過去形:白黒カード)を掲示することにより、夏休みや週末のできごとについて自ら思考し判断し表現する児童となるだろう。

○過程の工夫: インプット→(全体での)アウトプット→思考・判断・表現するコミュニケーション

(4)展開

| 過程 | 学習活動・内容・発問等 | 予想される児童の反応 | 指導上の留意点・評価等 |
|------------|--|---|---|
| Warming up | 1 Greeting&Rule 2 Sound Tennis 「L (1)」 | | |
| | 3 めあて | 夏休みや週末の出来事を伝え合おう。(went/ ate/enjoyed/was) | |
| | 4 Sub Activity ①Let's Chant (p 35) 「Summer Vacation.」 ②Pointing Game (p 34, 35) Teachers—Students(全体) Student—Student(ペア) | I went to the ~. I enjoyed ~ing. I ate ~. It was ~. イラストからのアウトプット 予想) Saki は女の子だから・・・ Satoshi は賢そうだから・・・ Kenta は田舎顔だから・・・ ペア) リアクション 0・1 中間) リアクションを意識 全体) リアクション 1・2・3 | ・インプット/アウトプット ・インプット→(全体での)アウトプット→アウトプット ・話すモデルとしてのインプット ◎夏休み・週末のことを伝え合った。(思判表) 【観察】 ・めあてと連動したまとめ・振り返り |
| Activity | 5 Main Activity ①Let's Listen 2 (p 37) カードの確認 - 予想 - 聞く ②Let's Talk 夏休み・週末の事を伝え合う ペア - 中間評価 - 全体(2~3人) | | |
| | 6まとめ (拳手) 夏休みや週末の事を話したか 振り返り(カードに記入) 7次時(修学旅行について) | | |



VII 成果・課題・改善策

1 成果

- 知っている単語や表現で自分のことを伝えようと一生懸命に話す児童が増え、コミュニケーションへの意欲が高まった。(授業以外でも)
 - 実際の生活につながる場の設定で、自分の思いややりたいことなどを話すことができた。
 - 『リアクションレベル』(※資料)でスムーズな会話(やりとり)ができるようになってきた。
 - 低学年は単元ごとに関連のある絵本を読み聞かせ、実態に合わせた授業ができた。
 - 高学年の Sound Tennis (授業導入時の言葉集め)は毎回盛り上がり積極的に取り組む子が多くった。
 - 他教科と関連付けた学習ができた。(生活科・総合的な学習の時間・図工・国語・算数)
 - 学校行事と関連付けた学習ができ、語彙や表現の習得が高まった。

(運動会・社会見学・修学旅行・学習発表会など)

- Thanksgiving** や **Christmas**・**Animal Zodiac**（十二支）などの伝統や文化を学ぶことができた。
 - 英語ルームの整備（机・椅子・電子黒板）のおかげで気持ちを切り替え、授業がやりやすくなった。
 - 単元づくりから英語担当や **ALT** と行うことで、打合せがスムーズで見通しをもった授業ができた。

2 課題（→改善策）

- 学び合いや思いを伝えるのが苦手な児童がいる。→他教科との共通実践で、学習集団づくりを行う。
 - 学習発表会に英語の歌詞の歌を歌うので、授業でも取り入れたかった。
→来年度は年間計画に入れ、実践していきたい。打合せでの情報の共有を行っていきたい。
 - 振り返りの時間が十分に取れないことが多かった。
→授業導入の *Greeting* や *Rules* を簡素化（省略）して、*Activity* や振り返りの時間を確保したい。
 - 打合せの時間が持てないことがあった。
→見通しをもって計画をたて、単元1回の打合せの時間を確保したい。
 - 来年度は学習指導要領が完全実施となり、高学年の教科化、教科書を活用、評価方法の変更など不安がある。 →研修会への参加や校内研での研修を計画していきたい。
 - 2学期から JTE が不在になり、英語担当と ALT の負担が大きくなつた。→次年度、改善の見込み、

VIII その他（資料）

『リアクションレベル1・2・3』と『リアクション言葉』

これまでの授業実験——これからとの接続実験

「知識・技能」の取得方法

- やりとりでの慣れ親しみ…言語活動を通して
- 「repeat after me」ではなく、コピーではなく

「思考力・判断力・表現力」の必要な場面設定

- 自力で考える、自力で思い出す。「なんて言えばいいのかな？」
- パターンプラクティスではなく

「学びに向かう態度」

- 必然性を持たせる活動。単元のゴールの設定・明確化
- 教え込み・覚える教育→ゲームからの脱却

リピートアフターメー

アクション

- 小学校と中学校・高校
- 小学校はパズルのピースをたくさんちりばめる。
 - 英語のシャワー
 - 文構造
 - 話すこと・聞くこと
 - 気づく
 - 話したいな。聞きたいな。
- 中学校・高校はパズルをつなげる。組み立てる。
 - 文法
 - 正確性
 - Let's try!!
 - We Can!
 - 話す・聞く
 - 読む・書く

中学生の文字指導（アルファベット導入…文字認識と名前読み）

→ 高学年の
ことば集め
書く活動

描文字づくり（大文字） アルファベットつなぎ（大文字・小文字） ひら文字づくり（小文字）

Sound Tennis（高学年）

令和元年度 大謝名小学校の取り組み

1 研究主題

英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～言語活動の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

近年、グローバル化社会が急速に進展する中で、外国語によるコミュニケーション能力の向上が求められている。学校で行われる外国語活動においても、従来の「慣れ親しむ」から、ある程度の「習得・活用の力」を育成する必要があり、カリキュラムの再編成と指導の準備を行わなければならない。

本校では、これまで歌やゲーム、簡単な会話練習、ICT や図書などを取り入れ、幼稚園を含む全学年の児童が楽しく活動できる工夫に努めてきた。その結果、児童の多くが「英語の授業が楽しい」と答えており、意欲的に授業に取り組む様子が見られた。しかし、新学習指導要領の先行実施に伴い、これまでの「説明・練習→コミュニケーション活動」という流れではなく、「コミュニケーション活動の中で、自力で既習事項を思い出して使いながら、自然に習得していく」ための授業づくりへと変えていく必要がある。「楽しい」だけではなく、目的や場面、状況に応じて、伝えたい内容に即した伝えるための英語表現の習得を図る工夫が課題となっているのである。

そこで、今年度は、低学年からの既習事項を系統的・総合的にスマールステップで積んでいき、言語活動の工夫を通して、相手に配慮しながら工夫して伝え合おうとする児童の育成を図りたいと考え、上記の主題を設定した。

ゲームや歌、単語練習で終わるのではなく、歌詞の一部を自分に関することに置き換えて表現したり、相手の反応を見て、ジェスチャーなどを使い工夫しながら Smalltalk を行ったりする活動を通して、自分の思いを伝える力を育てていきたい。また、伝え合う活動を通して、相手を理解し、互いに認め合うコミュニケーションの資質・能力を高め、主体的・対話的な深い学びを目指していきたい。

3 研究の主な内容

(1) 目標

- ①外国語活動を通して、自他の文化や生活習慣などに対する興味・関心・意欲の育成を図る。
- ②外国語活動を通して、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。
- ③外国語活動を通して、コミュニケーション能力を育て、他者を理解しようとする態度を育成する。

(2) 指導方針

- ①児童の実態に応じ、系統的な年間指導計画の作成を行う。
- ②単元終末段階の児童に臨む具体的な姿のイメージをもち、単元を見通した課題設定をする。
- ③4月に各学年で外国語活動の進め方の共通理解を図り、ALT や JTE とのチームティングの仕方などを確認する。
- ④学年会の時間に、ALT/JTE と HRT による次週の打ち合わせを毎週行い、授業の内容と進め方を確認し、学年の共通理解を図る。
- ⑤全学年の児童が ALT や JTE と交流するために、前半（4月～10月中旬）と後半（10月中旬～3月）で担当学年を交換して指導を行う。
- ⑥資料や掲示物の工夫により、英語ルームの環境を整える。

- ⑦授業開始、終了の默想、グリーティング、学習ルール確認などの授業の流れを全学年で統一して行う。
- ⑧教材・教具・ワークシートの工夫を図る。
- ⑨多様な学習活動を組み合わせた授業づくりとペアやグループなどの学習形態の工夫を図る。
- ⑩ICT機器を活用した言語活動の充実を図る。
- ⑪毎時間、振り返りカードを書く時間を設け、児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりできるようにする。
- ⑫委員会活動や行事において英語アナウンスを取り入れ、英語表現に触れる機会を設定する。
- ⑬クリスマスやハロウィンなどの異文化の行事に触れさせ、児童の視野を広げるとともに、異文化を尊重する態度を育てる。

4 各学年の目標

| 学年 | | 目標 | 題材 |
|-----|----------|--|--|
| 低学年 | 触れる | <ul style="list-style-type: none"> ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活用を通して、英語のリズム、イントネーションを体で感じ取り、楽しく英語に触れる。 ・英語をよく聞き、大きな声でまね、意思表示がはつきりできる。 ・外国のこと興味・関心を持ち、コミュニケーションを図ろうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・体調・曜日・天気・数・色・学用品・野菜・動物・虫・体の部分・好きなもの・嫌いなもの・ハロウィン・クリスマス・日本の遊び・外国の遊び・英語の歌・チャンツ |
| 中学年 | 慣れる | <ul style="list-style-type: none"> ・歌・リズム遊び、アクティビティなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーション、基本的な英語表現に慣れる。 ・英語での挨拶や簡単な英語でのやり取りを進んでやろうとする。 ・聞きたいこと、言いたいことを中心にコミュニケーションを図ろうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・体調・月・曜日・天気・数・果物・野菜・学用品・色・動物・アルファベット・体の部位・動作・遊び・衣類・生活日課・英語の歌・チャンツ |
| 高学年 | 親しむ・伝え合う | <ul style="list-style-type: none"> ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり、使ったりする活動を通して英語に親しむ。 ・相手の話す英語をよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。 ・生活や考え方を尊重しつつ、コミュニケーションを図ろうとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶・自己紹介・行事・月・日付・感情・飲食物・スポーツ・生き物・色・形・アルファベット・学用品・教科・曜日・職業・動作・位置・場所・値段・施設・道案内・世界の国・世界の童話・動詞の過去形・can・三人称・英語の歌・チャンツ |

5 英語活動の実践の様子

(1) 計画案 【5年生】『What would you like?』 作成者 ALT

| 活動 | Lesson 45 - 第1時 - 11/22 @英語ルーム | Lesson 46 - 第2時 - 11/25 @英語ルーム | Lesson 49 - 第3時 - 12/06 @英語ルーム | Lesson 50 - 第4時 - 12/09 @教室 |
|---|---|--|--|--|
| 1 対話練習: 会話材料 1 (はじめのあいさつ) | 1 (はじめのあいさつ) Opening, Questions, Rules, Greeting | 1 (はじめのあいさつ) Opening, Questions, Rules, Greeting | 1 (はじめのあいさつ) Opening, Questions, Rules, Greeting | 1 (はじめのあいさつ) Opening, Questions, Rules, Greeting |
| 2 First Activity (常活動) Phonics Teachers Talk | 2 a [Jingle] P79 Food Jingle b [Small Talk] ALT: What food do you like? HRT: I like ~. | 2 [Let's Chant] What would you like? P61 ⇒ What do you want (I want) と What would you like (I'd like) の違いを 説明する。 | 2 a [Jingle] P79 Food Jingle b) [Let's Chant] What would you like? P61 | 2 [Let's Chant] What would you like? P61 |
| 3 おあての確認 | 3 おあて 世界の料理について知ろう。 どの国の食べ物かを当てよう。 | 3 おあて 食べたいものを尋ねたり答えたりしよう。 | 3 おあて 個段を尋ねたり答えたりしよう。 | 3 おあて 食べ物を教えてみよう。 |
| 4 Review or Input | 4 a) [Quiz] 家族 (Family members) | 4 a) [Review] 児童一人ずつに1~60書かせる。 6 1~9 9, 1 0 0~9 9 0 書ってみよう。 | 4 a) [Review] 児童一人ずつに1~60書かせる。 6 1~9 9, 1 0 0~9 9 0 書ってみよう。 | 4 a) [Let's Listen③] P61 おじいさんが注文したものと種段を聞いて、書こう。 |
| 5 Main Activity | 5 a) [Let's Watch and Think①] P58, 59 International Food Festival がどの国が イベントが開催される。 各ブース、どのような食べ物を売っているか 確認される。世界の名物料理について聞き取った 映像を見て、何をしているところを参考よう。 行っている店について ADA で話をする。 | 5 a) [Let's Watch and Think②] P58, 59 映像を見て、何をしているところを参考よう。 出ている食べ物を英語で練習をする。 | 5 a) [Let's Listen②] P60 Main dish, Side dish, Dessert の説明を行う。 おまえさん(が)注文したものと種段を聞いて、書こう。 | 5 a) [Let's Listen④] P61 ワーフラント 8 - 1 おじいさんが注文したものと種段を聞いて、書こう。 |
| | b) [Game] 児童給食カード (青色) : 食べ物・飲み物・家族 児童 : What would you like? ALT/HRT: I'd like ~. 児童は繰り返す。 "GO" と書いたらカードを立てる。 | b) [Game] かるびーぐー ワーフラント 8 - 4と8 - 5を半分ずつ カスに重る。ケントを立てる友達へペアを作り、 ジャグケーをする。 負けた児童 : What would you like? 勝った児童 : I'd like ~ How much? 負けた児童 : It's ○○○ yen. 違うアダで繰り返す。 | b) [Game] 注文ゲーム ペアで店員と客になり、食べたいメニューを注文する。 店員 : What would you like? 客 : It's for my ~. I'd like spaghetti and salad on the side. I'd like a parfait for dessert. 店員 : OK, spaghetti, salad and parfait. 客 : Thank you. How much is it? 店員 : It's ~. 客 : Ok. Here you are. 店員 : Thank you. | b) [Game] 注文ゲーム ペアで店員と客になり、食べたいメニューを注文する。 店員 : OK, spaghetti, salad and parfait. 客 : Thank you. How much is it? 店員 : It's ~. |
| 6 ふりかえり 自己評価・相互評価 | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり | 6 ふりかえり |
| 7 次時の予告 | 7 終わりのあいさつ | 7 終わりのあいさつ | 7 終わりのあいさつ | 7 終わりのあいさつ |

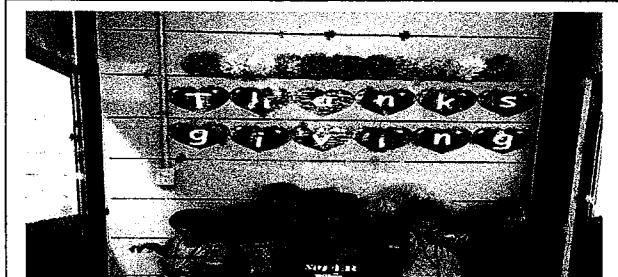
【6年生】『What do you want to watch?』 作成者 JTE

| 第6学年 外国語活動単元計画書 What do you want to watch? U6-4hours | | 第1時 Dec 11th (Wed) | 第2時 Dec 13th (Fri) | 第3時 Dec 15th (Wed) | 第4時 Dec 20th(Fri)2学期振り返り |
|--|--------------------------|---|--|---|---|
| Goal :得意な競技について尋ね合おう | Goal: 観たい競技についてインタビューショウ | Let's finds the words starting with C 1分以内に何語探せるかクラス対抗。 2) P42-43の競技マークはなんですか? | 1) Warm up Activity JTE Memo させてもOK 3) スリーヒントクイズ1問 HRT 競技の絵カードを隠し、競技に関するヒントをつたえ児童に当てさせる。 | 1) Warm up Activity JTE ⑩ カード並べゲーム 競技名を順に言い、聞こえた順に競技の書かれたカードをえらび並べさせる。 | Goal: 観たい競技について質問したり、答えたりしよう |
| Activity | Activity | 1) Warm up activity JTE ⑩ Let's finds the words starting with C 1分以内に何語探せるかクラス対抗。 2) P42-43の競技マークはなんですか? Memo させてもOK 3) スリーヒントクイズ1問 HRT 競技の絵カードを隠し、競技に関するヒントをつたえ児童に当てさせる。 | 1) Warm up Activity JTE ⑩ カード並べゲーム 競技名を順に言い、聞こえた順に競技の書かれたカードをえらび並べさせる。 2) Let's Watch and Think2&3 P44-45 映像をみてわかったことをかく。 3) Let's chant ゆっくり練習 ③ 4) デモンストレーション ⑤ HRTとJTEで得意な競技について尋ね合う。↓がインタビューゲームの内容 | 1) Warm up Activity JTE ⑤ カード並べゲーム* ①P46の競技とその英語での言い方を確認。②観聴する前に昔行われていた競技、新たに加わった競技を全員で予想します。③観聴後、予想したものと同じか確認。 2) Let's talk P45 ⑩ 自分が見たい競技を3つ選び、写真に○をつける。教室を歩き回り出会った友達に観たい競技を質問し合う。3分で全ての競技に名前を書けるように。デモの内容を質問し合う。 | 1) Let's watch and think5 ⑤ 映像をみて観たい競技とその理由を記入しよう。 2) オリンピックパラリンピックの観戦計画を作ろう ⑩ ワークシートの表に観戦したい競技(5つ)を英語で記入し、一つを文章にして記入する。 |
| Reflection | Closing | A&B : Hello A: What sport are you good at? B: I'm good at~. What sport are you good at? A&B : Good bye | A&B : Hello A: Do you want to watch ~? B: Yes, I do. I like~/No, I don't. A&B: Good bye. | A: What do you want watch? B: I want to watch ~. Because I'm good at~/I can~/I like~. What do you want watch?/ How about you? A: I want watch ~. Because I'm good at~/I can~/I like~ A&B: good bye. | 3) 2学期の振り返りをしよう 自分の学習について書いて2学期の振り返りシートを使って2学期の振り返りをしよう。 *英語ファイル提出 |
| | | 5) インタビューゲーム (5人以上) ⑩ テキストに載っている競技の中から得意なものを見せて得意な競技を尋ね合い、競技マークのそばに名前を書こう。 | 6) 振り返りの記入と発表 7) 終わりの挨拶 | 6) 振り返りの記入と発表 7) 終わりの挨拶 | *インタビューした友達の名前を観たい競技の下に書く。どれが一番人気かカウントしながら集計し結果を共有。 |

(2) 活動の様子

①低学年：(触れる) 英語の聞き取りに重点を置いた授業展開

1年生

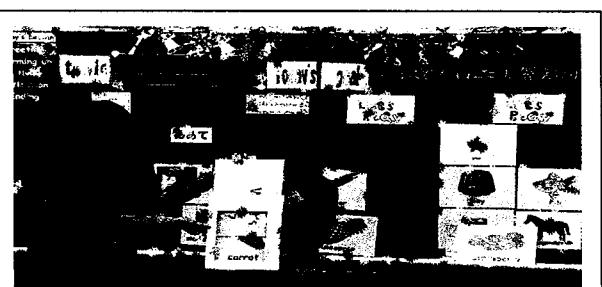


2年生

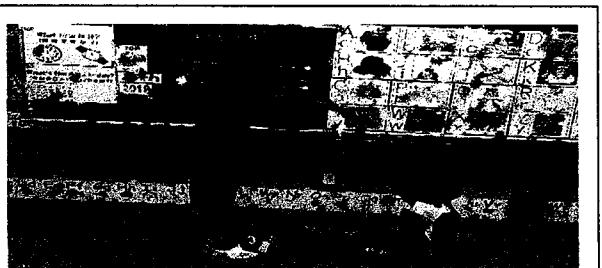


②中学年（慣れる）英語の聞き取りと簡単な会話に重点を置いた授業展開

3年生

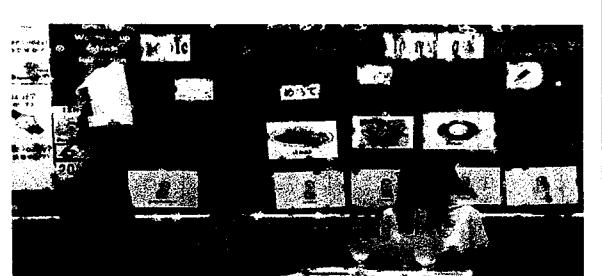


4年生



③高学年（親しむ・伝え合う）英語の聞き取りと会話に重点を置いた授業展開

5年生



6年生



6 成果と課題

(1) 成果

- JTE と ALT を変更し、学習スタイルが変わり、メリハリがついて児童の意欲が向上した。
- ICT や教材教具の工夫により、児童が興味関心を持って楽しく学習することができた。
- 既習のフレーズが言えるかの確認を行うことで、少しずつ定着する様子が見られた。
- 楽しく取り組める歌やダンス、ゲームを取り入れることで、親しみをもちながら意欲的に参加する児童が増えた。
- 低学年のうちから ALT・JTE の生の英語を聴きながら、まねっこ遊びの感覚で自然に発音が身に付いた。
- JTE・ALT が作成したレッスンプランのたき台をもとに HRT と打ち合わせを行うことにより、児童の興味や実態に合わせた授業展開ができ、英語に対する苦手意識を感じないで取り組む様子が見られた。また、打ち合わせもスムーズに進められた。
- JTE, ALT ともに勤勉で、英語を学んでいる日本人目線、児童目線にたち、細かく児童の疑問に答えていた。それにより、児童の国際的視野の広がりが見られた。
- 行事と関連付けた学習内容について、生き生きと英語で表現することができた。
- 中学校を意識した授業を実施することで、単語から会話文で理解できるようになり、書く力も向上しつつある。
- 毎時間、振り返りを書いてコメントを発表することで、本時のめあてを意識して取り組めた。
- 授業のまとめや学期ごとに振り返りを書かせることにより、評価がスムーズにできた。

(2) 課題と改善案

| 課題 | 改善案 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">●机、椅子のない教室で書く活動を行うには、やりづらさがある。●電子黒板や拡大スクリーンが必要な時は、学年教室を使う時があるが、移動も大変である。●床に1時間座れない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none">・学年教室を使用することを検討するとともに、英語ルームにも背もたれのない椅子や折り畳みテーブルなどを用意したい。 |
| <ul style="list-style-type: none">●低学年は振り返りカードがないため、毎回の授業の評価や振り返りができない。●発表は特定の児童になってきている。どの子も自主的に発表できるようにしたい。●ひらがなの読み書きが困難な子や英語に苦手意識をもつ児童はすべての活動に意欲が低い。●学習した歌を習得できていない子も多い。 | <ul style="list-style-type: none">・名簿等にチェックしたり、簡単な振り返りカードを作成したりするなど検討する。・ペアやグループなどの発話を通して自信をもたせたり、発表形態を工夫したりする。・歌やダンスなどできることから取り組ませる。単元終了後も既習の歌を日々取り入れながら歌えるようにしたい。・英語のシャワーをたくさん浴びせ、慣れさせていくたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">●打ち合わせの時間がなく、授業プラン作りを ALT や JTE に任せている面がある。 (年計の週時程には組み込まれているが、行事や会議等のためにできないことがある。) | <ul style="list-style-type: none">・少しでも関わるように打ち合わせの時間を工夫する。 (単元ごと・2週間に1度・学年から一人が打ち合わせに参加して他学級に伝えるなど) |
| <ul style="list-style-type: none">●掲示物の刺激が多い為、集中できない子がいる。●高学年の授業を楽しくできるかが課題。また、教材作成に時間がかかる。●引継ぎに関する細かい話し合いの確保が困難。 | <ul style="list-style-type: none">・板書や前面掲示を簡素化する。・可能ならば、JTE た ALT だけでなく、学年で一緒に作成できる時間を設けたい。(長期休業中は任用期間が切れるのが課題) |

令和元年度 嘉数小学校の取り組み

1 研究主題

児童が英語に親しみ進んでコミュニケーションを図る態度の育成
～より日常生活に結びついた英語活動を通して～

2 研究主題設定の理由

本校はこれまで英語を通した歌やゲーム、簡単な会話などの取り組みを中心にしながら、児童が楽しく活動できるようなカリキュラム編成の工夫に努めてきた。また、登下校時やお昼の校内放送など、放送委員会の児童が英語でアナウンスを行ったり、校内の廊下や階段など、児童が目に付く場所に英語の掲示物を貼ったりし、日常的に英語に触れる環境を作り、興味関心を引き出す工夫をしてきた。

また、毎時間「外国語の言葉や基本的な表現に慣れ親しませる場面（インプット）」と「外国語を活用する場面（アウトプット）」を設定した授業を行った。

その結果、児童は、英語の歌やダンスを好んで行い、友達とコミュニケーションを積極的に行うことには繋がっている。また、担任と ALT・JTE がデモンストレーションやスマートトークを見せてることで、児童同士のやりとりが円滑に行われている。

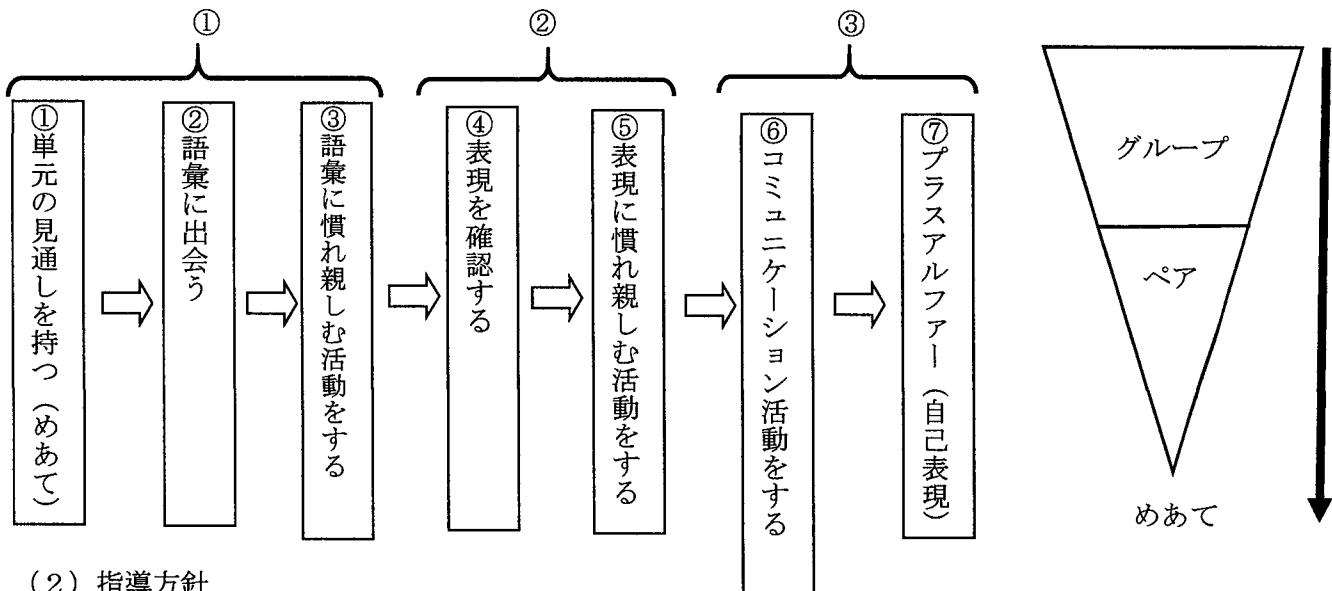
そこで今年度は、前年度までに培った実践と児童の実態を踏まえ、学習形態を工夫し日常生活に結び付いた英語活動を通して、より英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指して本研究主題を設定した。

3 主な研究内容

(1) スモールステップを使った単元と授業の構成

これまでの課題からスモールステップを使い単元を構成し、授業を進めていくことにした。以下の7つのステップに分けて単元を捉えていく。そして、以下のように毎時間の授業では、まずグループ活動で周りの児童の言葉を聞きながら、語彙や表現に親しむ。その後、ペア活動で理解を深めながらやりとりができるように進めていく。

＜単元の構成＞



(2) 指導方針

- ①毎週金曜日の学年会の時間にレッスンプランについてミーティングを持つ。
- ②英語活動の時間は、担任と ALT・JTE による TT で行う。
- ③授業のはじめは、前時に行った授業の内容（単語や表現）を復習すること。
- ④フォニックス指導は宜野湾市が示している内容で進めていく。（※指導は5分程度で終える。）

4 学習指導案

(1) 本時のねらい 動物の言い方に慣れる。(話)

(2) 言語材料 cat/dog/bird/cow/monkey/pig/rabbit/sheep/lion/horse/bear/elephant/gorilla (13語)

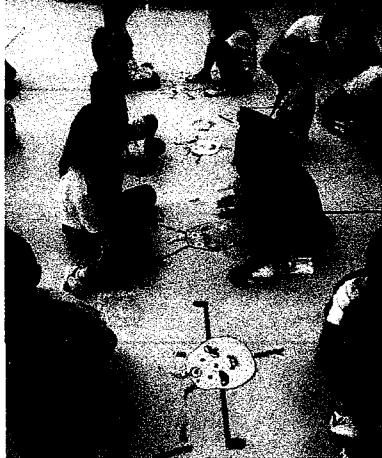
(3) 展開

| 過程 | ○学習活動、内容、発問 | | ・予想される児童の反応 「児童の言葉」 | ●指導上の留意点 ☆評価 |
|-----|---|---|--|---|
| | HRT | JTE | | |
| 導入 | 1,はじめのあいさつ 3questions | ○授業の進行をする。 ○授業準備の確認。 2, Hello song | ・リーダーが3questionsを言う。 ・体調の言い方を歌いながら確認する。 | ●「How are you?」の質問の後は、リーダーに質問する。 |
| 展開 | ○一緒に歌って踊る。 ○パソコン操作。 3, small talk めあて確認「動物の名前を英語で覚えよう。」 | 4, practice quiz relay | ・めあてを確認する。 「rabbitってウサギだったかな」 「sheepって聞こえたよ。」 ・JTEの発音を聞いた後に単語を繰り返して言う。 ・ジェスチャーを見て、何の動物かを当てる。 「What animal is this?」 「It's elephant」 ・絵本を見ながら、動物を想像して聞く。 | ●HRTがsmall talkの内容を確認する。 ●HRTが子ども達の言葉から、めあてを書く。 ●HRTとJTEが交互にジェスチャーをしながら掲示物を貼っていく。 |
| まとめ | ○リレー式に動物の名前を当てていく。 ○story time の内容を確認する。 | ○掲示物を貼りながら、動物の言い方を確認する。 ○カードが出そろったら、復唱練習をする。 5, story time ○「brown bear, brown bear, what do you see?」を読む。 | ・聞いた単語を後ろの友達に正確に伝える。 ・聞き慣れない英単語を確認する。 「動物の言い方を英語で言うことができました。」「elephantの言い方が難しかったです。」 | ●トーナメントを作成し、2チーム対抗のゲームを行う。列になり、後ろの友達に小さく囁きながら、リレーしていく。 ●最初は二単語から、トーナメントが進むにつれて三単語に増やしてゲームをする。 ●ジングルの歌に出てくる動物を確認する。 ☆動物の言い方に慣れる。 (話)【行動観察】 |

5 各学年の活動の様子

【低学年】◎英語に触れる・慣れる

1年：からだ めあて：えいごでからだをいおう。

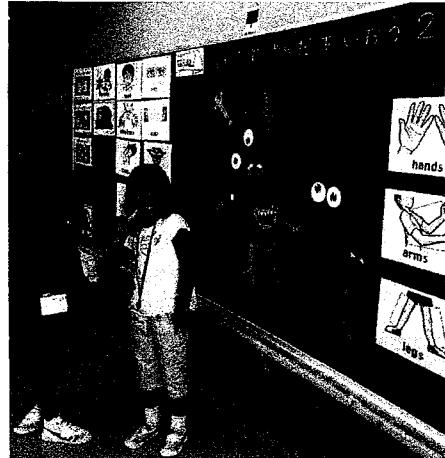


どんなモンスターができるかな。



ペアになって、習った体の単語を言いながらモンスターを作っています。

Two eyes, please.



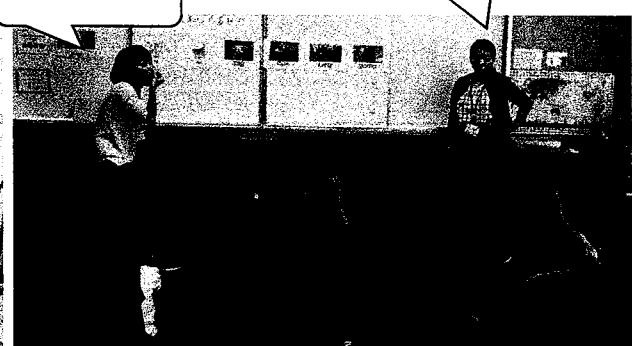
おもしろいモンスターが完成しました！

What animal is this?

2年：動物 めあて：動物の言い方に慣れよう。



Moo Moo



スマートトークを真剣に聞いて、めあてを考えています。

児童の好きなジェスチャーゲームで、興味を持たせます。



ちょうど、この時期に社会科見学で『こどもの国』を訪れたこともあり、積極的に発言している様子が伺えます。社会科見学では、動物を見ては、楽しんで習った単語を発話していました。

【中学年】◎英語に慣れる・親しむ

3年：形や色・数

めあて：ほしい物の形や色、数を聞いたり、答えたりできる。

スモールトークの内容を確認しているところです。今までの学年で習ったことを思い出させながら、HRTが授業を進めています。

Let's me try!

What shape do you want?

I want...

お気に入りの形や色が入ったTシャツを作れたよ！

代表がみんなの前でロールプレイをしています。その際にも担任が手助け・声掛けをしています。

4年： What do you want? ほしいものはなにかな?

めあて：ほしいものが何か、またいくつほしいか伝え合おう。

"What do you want?"

"I want strawberries, please."

「プラスアルファーで言いたいことは？」と聞くと、「いくらですか？」という児童もいて、実際の場面を想定し、意欲的に英語で会話をしようとしていました。

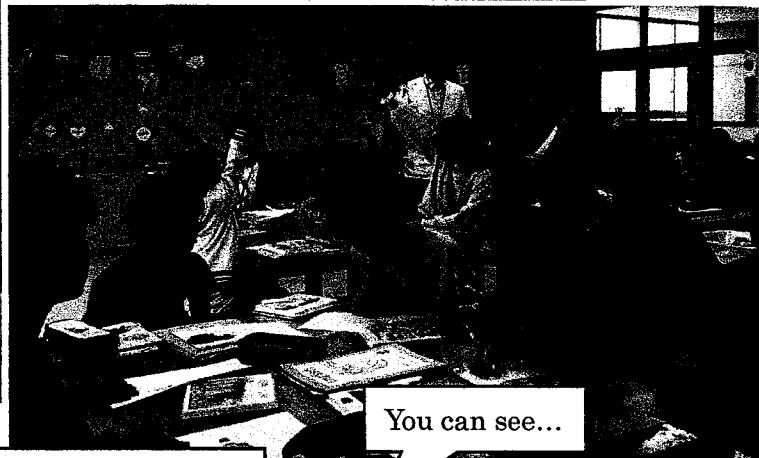
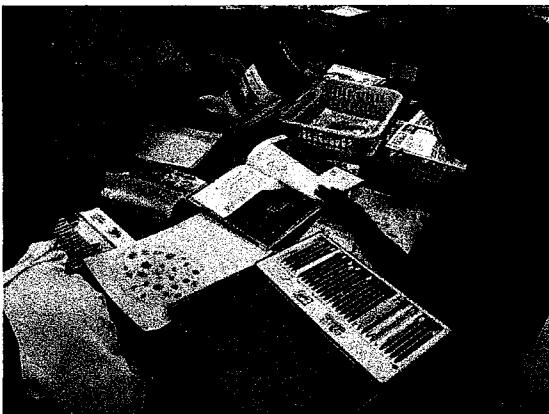
店員さん(shop keeper)とお客様(customer)に分かれて、楽しくやりとりをしているところです。

【高学年】◎英語に親しむ・使う

5年：I want to go to Italy 行ってみたい国や地域

めあて：調べた国の紹介をしよう！

進んで発表する姿が伺えます。



英語の教科書だけでなく、図書資料も活用しながら、調べています。
グループで協力しながら調べた国について資料を完成させました。
児童が進んで取り組む姿が見られました。

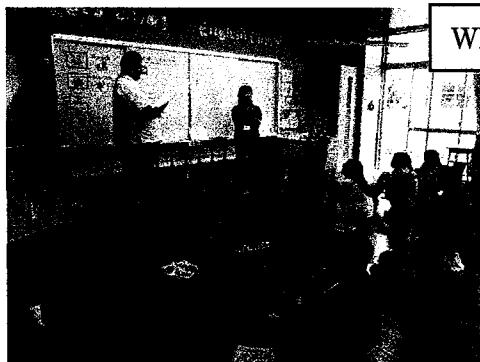
This country is...

You can see...

調べた国の食べ物や有名な物などを踏まえて、発表することができました。

6年： What do you want to watch? オリンピック・パラリンピック

めあて：観たいオリンピック・パラリンピック競技が何かを伝えよう！



What do you want to watch?

I want to watch gymnastics !



めあてにつなげるスモールトーク。時々、児童に直接質問して、めあてにつなげることもあります。

言いたい単語がない場合は、その都度HRTかJTEに聞くように指導しています。常に自分が言いたいことが言えるように支援できるように心がけています。

集中して振り返りをしているところ。特徴的のは、3, 4年生では授業のたびに単元名をなぞり書きしています。また5年生ではなぞり書きから徐々に書き写しの作業も増え、6年生では毎回、その授業で大切な表現を書き写ししています。このような過程があり、嘉数小学校の児童は、書くことに対してとても意欲的です。



低学年

- ミーティングを確実に行うことで、意見交換ができ、計画通りに児童の実態に合った授業を進めることができた。
- ALT・JTE が教材研究を密にしてくれ、教材教具が豊富で、児童が興味を持って活動に取り組めた。
- 歌やゲームに積極的に取り組む児童の姿が見られた。
- △文化（ハロウィンやクリスマスなど）についてのトピック紹介を増やしてほしい。
- △一部の参加できない児童への対応の仕方を考えていきたい。
- △全体練習の時にきちんと発話していない児童がいる。
- ☆ハロウィンをなぜやるのか、他国の食べ物や行事など、国際理解のトピックを入れていく。
- ☆ペア学習や振り返りで確実に一人ひとりが授業中にアウトプットする機会を取っていく。

中学年

- 毎週の英語ミーティングが充実されているので担任と ALT・JTE との授業展開がスムーズにできた。
- 授業の流れが決まっているので、児童も戸惑わずに授業に臨むことができる。
- 数名の児童が、日常的に英語を使おうとしたり、英語で何というのかを尋ねたりと、積極的な姿が見られる。
- 楽しい教材や活動が準備されており、ほとんどの児童が「英語が大好き」と答えている。
- ポイントシールを活用することによって、学習意欲が高まった。
- 振り返りシートを書くことで、めあてが確実に達成されたか確認することができた。
- △数名の児童がねらいを意識した活動になっていないため、定着が弱くなる傾向がある。
- △学級担任の英語力をもう少し高めたい。
- △英語活動に進んで参加できない児童への手立てを考えたい。
- ☆HRT と協力し、児童の実態に合った活動を考えていく。
- 英語専科の設置をしてほしい。

高学年

- レッスンプランがきちんとできているので、スムーズに授業を行うことができた。
- 毎週の英語のミーティングで、役割分担や授業展開の見通しが持ちやすい。
- アルファベットチェックを細かくし、書くことに抵抗が少なくなったように感じる。
- ALT・JTE がいつも明るい雰囲気で授業してくれるので、英語が好きな児童が多い。
- △英語ミーティングの時間設定がなされているが、時間通りに実施できないことがある。
- △T1, T2 の役割分担がうまくいかず、ALT や JTE に負担をかけてしまっている。
- ☆きちんとミーティングを行い、役割分担を把握する。
- 英語教室にも電子黒板を設置して欲しい。
- 子ども達の意欲に繋がったり、教材研究も深まるため、英語は専科になって欲しい。

令和元年度 志真志小学校の取り組み

1. 研究主題名

英語に親しみ積極的なコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～聞くこと・話すことの体験活動を通して～

2. 主題設定の理由

学習指導要領の外国語活動では、小学校段階での音声言語による聞くこと話すを中心としたコミュニケーション能力の重要性があげられている。これらは中高の英語科でのコミュニケーション能力育成の素地となる。そこで、子どもたちが、積極的に相手の伝えたいことを聞き、理解しようとする態度や自分の伝えたいことを話すという体験活動を通して「生きる力」の育成及び国際化の時代に必要な外国人との実践的コミュニケーション能力の基礎を育成し、主体的に学ぶ意欲が育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

3. 英語の目標

- (1) 英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- (2) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- (3) 英語を通じて、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

4. 本校の活動計画

| | 活動内容 |
|-----|---|
| 4月 | ・英語学習の授業の確認 (クラスルームイングリッシュ、ルールの確認、 学習の流れ、HRT・JTE・ALT の役割確認) |
| | 今年度のテーマ、教科の確認 |
| | 英語学習スタート |
| | 時間割、ミーティング時間の確認 |
| 7月 | Classroom English 授業づくり |
| | ・年間計画の見直し |
| 8月 | ・授業改善研修会 |
| 11月 | ・小中連携相互授業研究会 |
| 12月 | ・児童英検 6年(シルバー)5年(ブロンズ) |
| | ・英会話形成的評価テスト |
| 1月 | ・研究のまとめ ・校内研(外国語アドバイザー来校) |
| 3月 | ・次年度へ向けて |

※学年ごとに英語ミーティングを実施する。

※給食時間に、授業で学習した英語音楽を放送する。

5. 各学年の取り組み

1年生の取り組み

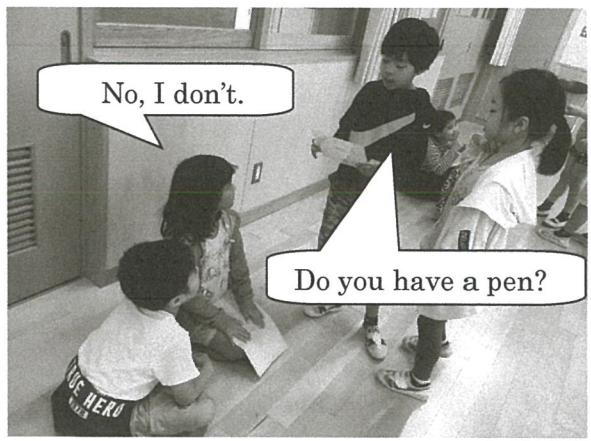
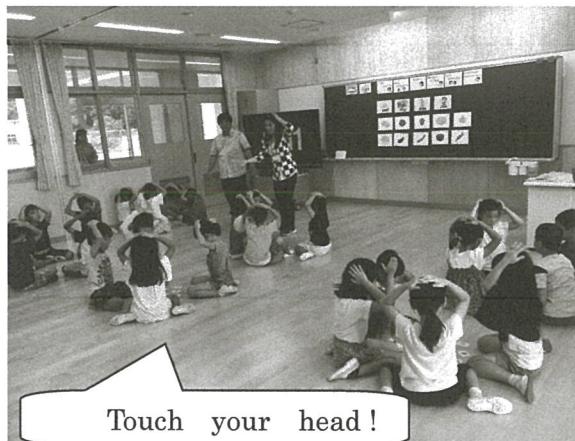
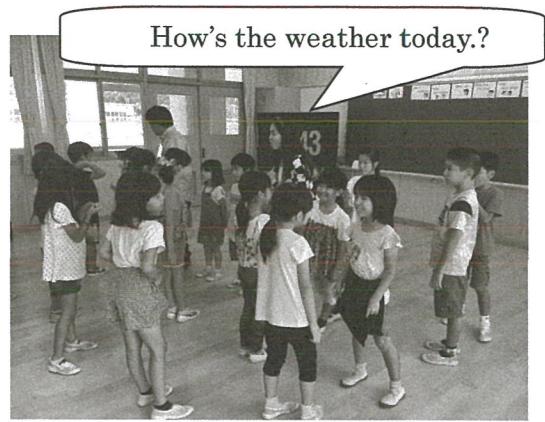
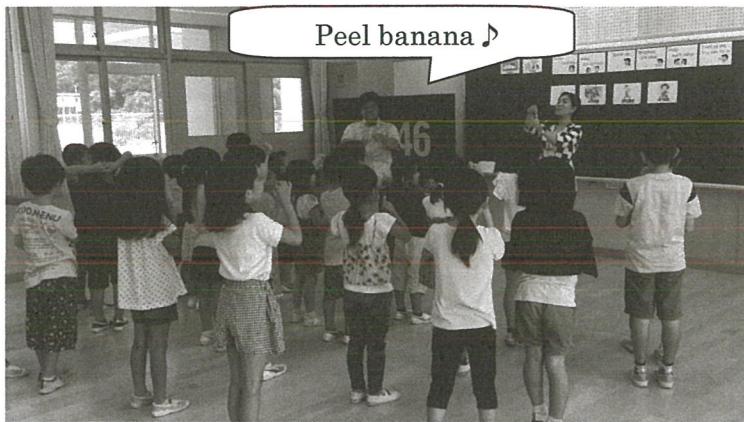
1年生は、ICTを活用した場面を好み、ビデオを喜んで見たり、フラッシュカードに意欲的に答えたりした。そして、歌やダンス、ゲームを通して、曜日や天気、動物や野菜などの身近な英語表現に触れ、親しむことができた。また、季節の行事としてハロウィーンやクリスマスの文化に触れたり、それらに関することばや表現に親しんだりして、英語を使ったコミュニケーションに慣れ親しむことができた。



2年生の取り組み

2年生は、生活に密着した内容「あいさつ、曜日、天気、数、形、色、動物、体」等、身近な内容を取り上げた。ALT や JTE の発音を聞いて真似をしながら、歌やゲームなどを通して、楽しく英語に触れたり慣れたりしてきた。毎回授業の最初に行うグリーティングのあとに会話リレーでは、曜日や天気を尋ねたり答えたりすることが上手になっていった。

また、「文房具」の学習では、"Do you have ~?" "Yes, I do. Here you are." "No, I don't."の表現を使い、借り物ゲームを行った。体験的活動を取り入れることで、楽しみながら表現に慣れることができた。

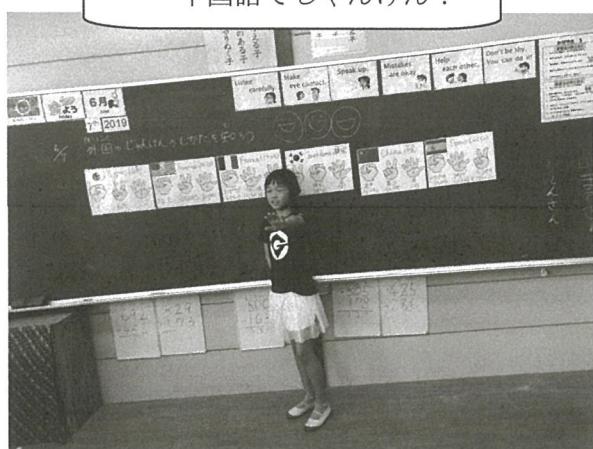


3年生の取り組み

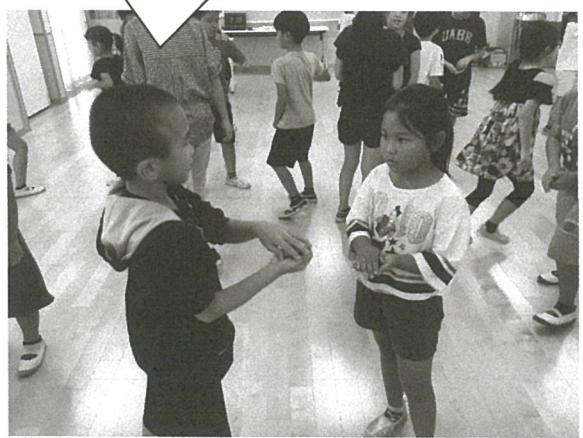
3年生は、授業の流れが①あいさつ②ルールの確認③クラスリーダーによる会話表現④会話リレー⑤歌やダンスでウォーミングアップ⑥前時の復習とスムーズにできている。

ダンス・歌・ゲームなど毎回英語に楽しく取り組めるような内容に児童も積極的に参加している。

アルファベットの大文字を習い、自分の名前のイニシャルが書いたり、言うことができるようになった。ハロウィーン、お正月などの行事を通して、外国や自国の文化に触れることで、意欲的に学ぶことができた。



What is this?



4年の取り組み

4年生は、毎時間天気・曜日・日時や6つの学習ルールを日直と確認しながら授業を開始している。「自己紹介」や「数字・遊び・時刻・文具」など学習した単語やフレーズを使ってゲーム形式の質問をしたり答えたりする場面を設定した。

また、お正月等の行事も取り入れ楽しく参加していた。児童は特にゲームに積極的に参加し、ゲームを通して、単語を覚え、簡単な会話ができるようになってきた。

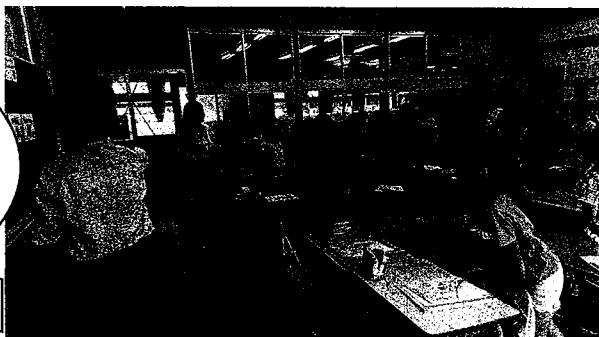


What day do you like?



Let's listen (check it)

歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズムやイントネーション、基本的な英語表現に慣れる。



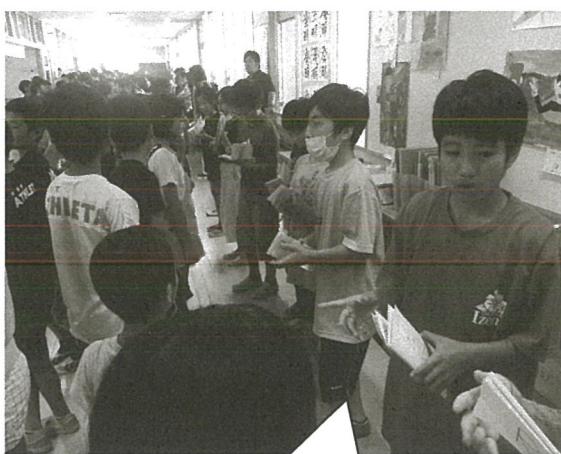
5年の取り組み

5年生は、毎回挨拶・天気・曜日・日時や6つの学習ルールを、クラスリーダーと確認しながら授業を開始している。チャンツや歌・ダンスやゲームなど、学習したフレーズや単語を活用する場を設けることで、友達と関わり合い、楽しみながら学習している。

ハロウィーンの学習では、ハロウィーンキャラクターの表現を知り、クリスマスの学習では、グリーティングカードを作成し、友達と贈り合った。楽しく興味を持ちながら、外国の行事に慣れ親しむことができた。

9月後半”Show and tell”で学んだことを他学年に発表する目標を持つことで、英語の発音やイントネーションを意識し、練習に取り組むことができた。4年生に発表したことで児童の自信へつながった。

児童英検に向けて、ヒアリングができるようにコンピュータを活用して練習を行い、簡単な質問に答えられるようになった。



「変わり絵 パッ」
4年生に自己紹介



My name is...
I like ... I don't like ...



今までに習ったあいさつ・名前・好きな色・好きな食べ物・趣味などを画用紙に書き、自己紹介をしたよ。

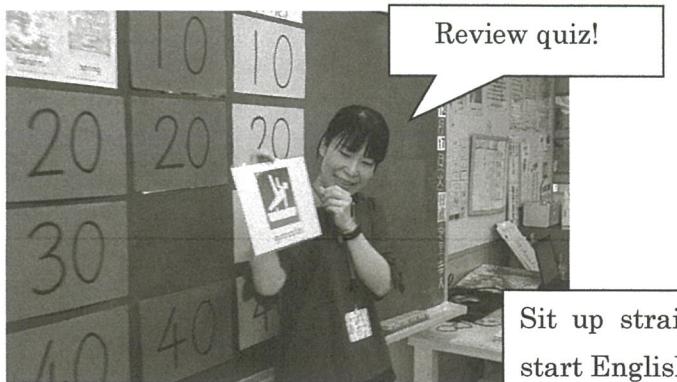
6年の取り組み

6年生は、授業開始時のグリーティングでは、クラスリーダーを中心に、あいさつ・天気・曜日・日時や6つの学習ルールを確認している。

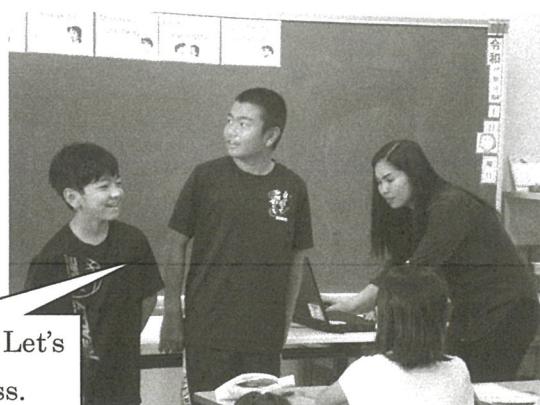
担任とALT・JTEとのスマートトークから今日のめあてを予測させ授業をはじめている。

ペアやグループ活動で友達と楽しく関わりながらコミュニケーション能力を育成する授業を行ってきた。歌、Show and Tell、体験的活動を通して、英語表現活動に慣れ親しみ、実用的な英会話を使えるような場面を多く設定した。また、「オリンピックの種目」や「日本の紹介」を学ぶことで、外国だけでなく、自国の行事や文化に触れ、国際理解に対する意識を高めることができた。

中学校に向けて、フォニックスやリスニングの練習にも重点的に取り組み、英語を聞き取る力や質問にこたえる力が徐々に身に付いてきている。



Sit up straight! Let's start English class.



6 成果と課題・対応策

低学年

- 英語教室に入るときのあいさつ”How are you?”と聞かれたときの考え方などが身につき、普段の生活の中でも子供同士で使ったりして楽しく英語に触れている。
- わからないフレーズが出てきても、大きな声で復唱したりと恥ずかしがらずにできる子が増えた。
- 社会見学で「動物園」を見学したり、給食で果物が出たりしたときなど、既習の単語が自然に子どもたちの口から出てくることが多く、英語が授業の中だけでなく、身近なものとなっている。
- ゲームなど体を動かして楽しみながら活動するので、英語の時間を楽しみにしている子が多い。
- 支援をしないとなかなか発語しない子は、12月の会話テストでもとっさに答えが出ず、とまどっていた。
→個別に支援をする。

中学年

- ほとんどの児童があいさつ・曜日・天気などの基本的な会話表現を身につけている。
- クラスリーダーが、みんなに質問することで、答えるだけではなく質問もできるようになり理解が深まっている。
- 学習に対して意欲的な姿が見られる。特に、新しい単語やフレーズ等に興味を持ち、歌やスキットなど楽しそうに取り組んでいる。
- アルファベットに興味を持つ児童は、振り返りシートにアルファベットで振り返りを書くようになった。また、自分の名前や家族の名前をアルファベットで書けるようになってとても嬉しそうな様子を見せた。
- ゲームで、勝負にこだわる児童がおり、本来の趣旨を外れる場面が見られた。
→ゲームを行う前に、再度その日の授業のめあてを児童と一緒に確認する。

高学年

- どの児童も、クラスリーダーとして前に出てグリーティングをすることができる。
- 英語の歌に興味を持ち、英語の歌を歌うことが楽しみの児童が増えた。
- 英語のスペルやフォニックスから新しい英単語を読み取ろうとする児童が増えた。
- 聞く力も高まり、英会話の中から大事なキーワードを聞き取り、答えることができるようになってきた。
- 英語が好きな児童が多く、積極的に取り組んでいる。
- 形成的評価を適切に行い、指導につなげたい。
- 児童の理解力に差がある。
→個別に支援をする。
- 発音が、日本語的な発音になる児童がいる。
→日本語と英語の発音の違いに気づかせ、繰り返し発音練習を行う。

令和元年度 宜野湾小学校の取り組み

1 研究主題

異文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図る児童の育成
～「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

2020年の教科化完全実施に向け、3年生から6年生においては、教科書も配布されている。授業デザイナー・コーディネーター(ALT・JTE)と一緒に教科書・教材・指導書を活用して指導計画・単元計画を立てていった。

本校では、授業の最初に実施しているあいさつや曜日・天気・時刻などの応答を通して英語による会話の基礎を身に付けられるように指導している。そして、授業ルール(5rules)は、1年生から6年生まで共通して行っているため、統一した指導が可能となっている。本校児童は、英語の授業に対する関心・意欲も高く、特に英語圏の生活習慣・文化、伝統行事等に関する単元になると、どの児童も楽しそうに授業に参加している。しかし、なかには「みんなの前に出て英語で話すことが恥ずかしい」「間違ったらどうしよう」「英語の発音が難しい」など英語での発表に抵抗がある児童もいる。つまずいている児童を支援・励まし、できる児童をほめることで、共に学び高まっていく環境作りに努めたい。

そこで本校では、上記のような研究主題を設定することで、一人ひとりが英語圏の生活習慣・文化等を理解し、それらを通して英語表現を身につけ、楽しみながらコミュニケーション能力を高めていこうとする児童の育成をめざしていきたい。

3 研究の主な内容

(1) ねらい(宜野湾市小学校英語教育の目標より)

- ・英語教育を通して、子どもの興味・関心・意欲の育成を図る。
- ・英語教育を通して、コミュニケーション能力を育てる。

(2) 指導方針・方法

①各学年の目標は以下の通りとする。

低学年 英語に触れる・慣れる(英語の聞き取りを重点として)

- ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーションを五感で感じとり、楽しく英語に触れる。
- ・英語をよく聞き、大きな声でまね、意思表示がはつきりできる。
- ・外国の文化や伝統行事に興味・関心を持ち、進んで知ろうとする。

中学生 外国語に慣れ親しませ、学習への動機づけを高める

(「聞くこと」「話すこと(やり取り・発表)」を重点として)

- ・英語の発音を聞かせ、自然な表現をインプットさせる。
- ・歌、リズム遊び、ゲームなどの活動を通して、英語のリズム、イントネーションの基本的な英語表現に慣れる。
- ・日常の生活場面や状況に応じた英語表現を聞いたり使ったりする活動を通して、英語に親しむ。
- ・英語であいさつをし、簡単な英語の質問に進んで答えようとする。
- ・聞きたいことと言いたいことを中心にコミュニケーションを図ろうとする。

- ・外国の文化や伝統行事に興味・関心を持ち、進んで知ろうとする。
- ・フォニックスやアルファベットが言える。

高学年 段階的に「読むこと・書くこと」を意識させる。

(英語の聞き取りと実用的な会話を重点として)

- ・繰り返し聞かせることで、表現に慣れる。使用場面に気づき定着を図る。
- ・相手の話す英語を分かろうとしてよく聞き、伝えたいことを簡単な英語で話すことができる。

・フォニックスの基本的なルールが分かり、簡単な単語や文章が読め、書ける。

②JTE・ALT と HRT が協力して、どの子も参加する授業作りを目指して共通理解し合い、進める。

③学習活動は、歌やチャンツ、ゲームやクイズ等を取り入れ、五感を使った身体全体で感じる学習内容（教科や行事と関連づけたもの）が展開できるようにする。

④毎週 ALT 及び JTE との事前ミーティングの時間を設定し、英語活動の授業の流れを指導案に沿って確認し、連携して授業に臨めるようにする。その際、HRT が T1 として授業を進めていくように役割分担をする

4 英語活動実践の様子

★低学年（1・2年） 英語の聞き取りに触れる、慣れる

Topic : Halloween

Today's goal : ハロウィンの文化と単語を知ろう！

ハロウィンのお面を作ろう！



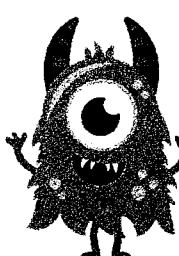
「色」の復習をしながら
ハロウィンのお面づくり



みんな大好き Dansinglish time! →



自分のモンスターを紹介！（顔や体の勉強）

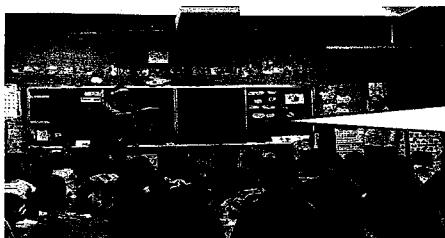


“What animal do you like?” 質問&答え

★中学年（3・4年） 英語の聞き取りと簡単な会話に慣れる、親しむ

Topic : Merry Christmas!

Today's goal : クリスマスの単語や文化を知ろう！



教室に LPC を貼って“Grinch”的あらすじ説明をしながら単語練習

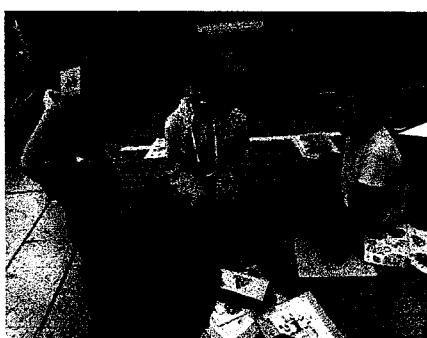


マリオの顔を使って「福笑い」
皆で方向や顔のパーツを教え合い

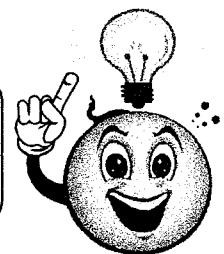
★高学年（5・6年） 英語の聞き取りと実用的な会話に親しむ

Topic : What's this?

Today's goal : 「これはなに？」「これは～です」を聞き合おう！



グループ内で、おでこにある絵のヒントを
聞き合い、出し合いながら 3 hint quiz!



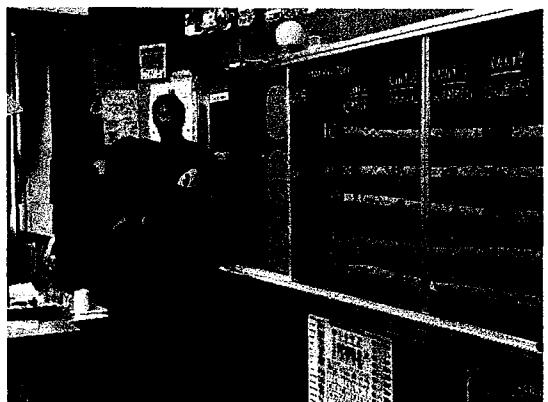
自分の得意なスポーツの伝え合い→



6年生になったら
level up!



Jeopardy game で 2 学期の復習 &
Jack-O'-lantern の顔づくり ↓



↑自分の町についての発表

5th grade [Lesson 21] June 27th, 2019

5-1 火3 &木4 Iku 先生

5-3 火4 &木2 Naoki 先生

5-2 火5 &木3 Shinnosuke 先生

5-4 火2 &木5 Chisato 先生

Topic: What time do you get up? ③

Goals of this class: 「どれぐらい」を相手に伝えよう！

Target language: what time do you (get up)? I (usually) (get up), at (7), always, usually, sometimes, never, at, get up, wash the dishes, set the table, clean my room, get the newspaper, take out the garbage

| 過程 | 学習活動と内容 | 教師の支援 | 備考 |
|-----|--|---|--|
| 導入 | <p>< Greeting / Warm-up ></p> <p>1. 挨拶(routine Q) & 5rules</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>H: Sit up straight. S: Okay. H: Let's start English class! S: Let's start!</p> </div> <p>2. ♪ "J" ~ "R" song</p> | <ul style="list-style-type: none"> 挨拶と5つのルール確認、routine Qs. Q①の後に JTE にも 聞いてください <p>→ Let's ask Yukako sensei etc...</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Listen carefully 2. Make eye contact 3. Speak clearly 4. Mistakes are Okay 5. Don't be shy, you can do it! | <p>Q. ①How are you? ②How's the weather today? ③What day is it today? ④What time is it now? ⑤What's the date today?</p> |
| 展開 | <p>< Activity ></p> <p>1. 副詞復習</p> <p>2. ♪ Let's chant</p> <p>3. Let's play 3 (Teacher's routine) p.30</p> <p>4. BINGO</p> <p>① _____ 副詞、at 時間 (数字) ② お互いに "What time do you~?" ③ _____ 副詞の部分が同じだった ら消していくます。</p> | <p>Q. What time do you get up? A. I (always/ usually/ sometimes/ never) get up at ____.</p> <p>Q. What time do you eat breakfast? A. I (always/ usually/ sometimes/ never) eat breakfast at ____.</p> <p>Q. What time do you wash the dishes? A. I (always/ usually/ sometimes/ never) wash the dishes at ____.</p> <p>Q. What time do you go to bed? A. I (always/ usually/ sometimes/ never) go to bed at ____.</p> | |
| まとめ | <p>< Wrap-up ></p> <ul style="list-style-type: none"> Evaluation sheet の記入 感想の発表 終わりのあいさつ | <ul style="list-style-type: none"> How was the class? How was English class? etc... Let's finish English class. | <p>Open your file and write about today. That's all for today! Thank you, Good-bye.</p> |

Things I have done well.

I have been consistent in creating classes that engage students and have them practicing English.

I have good rapport with the students and interact with them not only in class, but outside of the class too. e.g. playing karuta with them during 30 minute break time, walking around the school yard and having mini conversations, talking with the first and second graders as they wait for their guardians to go home.

I have learned better how to handle 'difficult' classes, and am better at preventing class from being derailed by behavior issues.

I am able to create activities that are challenging enough to keep the students learning something new, but not too challenging to be demotivating.

I have learned how to gesture consistently, so that students can associate the meanings between my words and my actions and better infer meaning.

Having the advantage, this year, of having taught the material before, I am better able to connect ideas throughout the curriculum and able to structure my classes to build towards what is coming up in the textbook.

Activities that have worked well

Sinking Island game (similar to four corners, but where the flashcards are spread around the class room and one of the islands sinks each round. Students who are 'out' are the ones to reveal the next sinking island to those who are still alive in the game.)

Students creating and presenting their own original monsters.

By Year**First and Second grades**

Students have been learning English through play, song and dance, and book reading. Students have also been able to experience seasonal activities/foreign holidays e.g. Christmas, fall food etc.

Third and Fourth grades

Students have started learning about foreign countries, e.g. food, greetings, play. Students are able to talk about everyday things like weather, play, daily routine, school supplies. Students have started learning ABCs and abcs.

Fifth and Sixth grades

One of my goals for this year for all grades, but especially for sixth grade, was to have students more comfortable with the idea of speaking in front of a group. Since the beginning of this school year, the students have become much more comfortable with and much more able to have mini conversations or present in front of the class. Students have also become much more attentive and active listeners when others are presenting. Students are able to write/copy sentences and able to read.

Students are able to react appropriately to basic sentences. e.g. really! You went to etc.

5 今年度の成果と課題、対応策

成果

(低学年)

- ・視聴覚機器を使用し、動画を見せながら歌を歌ったり、体を動かして楽しく英語に慣れ親しむことができた。
- ・ハロウィンやクリスマス、お正月等のイベントを通し、日本や他国文化を学ぶことができた。
- ・授業外で、自ら“How are you?”と尋ねてきたり、その質問に対して答えられる児童が増えた。

(中学年)

- ・普段からの授業や季節ごとのアクティビティ（クリスマス等）で既習事項を取り入れていくことで、復習と定着を図ることができた。
- ・ペアやグループ活動を多くし、他者との関わりを増やすことができた。
- ・チャンツや歌を取り入れ、その言語材料を使うと、アクティビティにスムーズに入ることができた。また、チャンツや歌を楽しみながら歌っていた。
- ・ハロウィンやクリスマス、お正月等のイベントを通し、日本や他国文化を学ぶことができた。

(高学年)

- ・教科書の内容に沿って毎回違うアクティビティを取り入れ、児童同士が他者とコミュニケーションを図ることができた。
- ・ジングルやフォニックスを毎回の授業で取り入れ、音の仕組みやその音がつく単語を理解することができた。
- ・ALT や JTE の話す英語や音声を聞いて英語を理解する児童が増えた。
- ・教科書や教室、身の回りの英語を読むことができる児童が増えた。
- ・ハロウィンやクリスマス、お正月等のイベントを通し、日本や他国文化を学ぶことができた。

課題と対応策

★授業内で児童が集中していないときや、騒がしいときの対処の仕方

→担任の先生と役割分担する。

★英語で話したときに児童が理解できていないときがある

→児童が分かるような英語を使ったり、単語単語で話したりして、言い換える方法を心掛ける。

令和元年度 長田小学校の取り組み

1 外国語活動研究主題

進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～聞く・話すを中心とした英語学習における指導の工夫を通して～

2 主題設定について

本校では平成17年度より本テーマのもと英語活動を研究・推進してきた。小学校段階での音声言語による聞く・話すことを中心としたコミュニケーション能力の素地を養うことは、中学校の学びの連続性を図る上でも重要であると考える。

そこで、普段の英語の授業でALTやJTEの英語に慣れ親しませ、デジタル教材を活用し、聞く力や表現方法を養う授業作りにつとめている。学習した表現は出来るだけ場面の設定を行い、活用させる。そしてより多くの児童に発表をさせ、ほめる活動を常に心がけることで、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童が育つのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

- (1) 歌、ゲーム、チャンツ、場面にふさわしい簡単な挨拶等、体験的な活動を多く取り入れ、児童の興味・関心や意欲の育成に努める。
- (2) 行事や他教科と関連させ、身近な事柄を、英語活動を通して学ぶことで、より実践的なコミュニケーション能力を養う。
- (3) 国際理解活動や国際交流会を通じ、異文化に対する興味・関心を高める。
- (4) 英語活動の中で、ひとりひとりの可能性を伸ばし、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に務める。

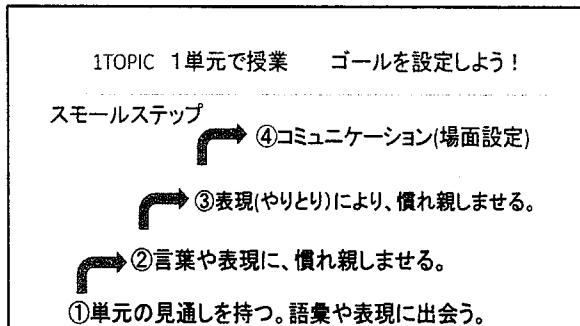
4 研究仮説

- 教科や行事などと関連させ、身近な英語活動を展開することにより、英語に親しみ、英語を学ぼうとする意欲が高まるであろう。
- 学習した英語を活用する機会をより多く設けることにより、英語を使ったコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ALTやJTEとのコミュニケーションなどを通し実際に異文化に触れることにより、国際人としての基礎を培い、他を認め、共存することの大切さに気付くことが出来るであろう。

5 本年度の主な取り組み

(1)スモールステップを使った単元の構成

本年度より、スモールステップを取り入れた単元計画を実施している。単元のゴールを設定し、学習計画をしっかりとてる事で一時間ごとの目標の設定も明確になる。表現方法を取得したいというモチベーションを高める為、単元の終わりに行う活動や表現方法も単元ごとに児童に知らせる。



| 第1時 | | | | | | 第2時 | | 第3時 | | 第4時 | | 第5時 | |
|-----------------|--------------------|---------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 音韻操作・発音材料 | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ | 1.はじめのあいさつ |
| 2First activity | Greeting & Rules- | Greeting & Rules- | Greeting & Rules- | Greeting & Rules- | Greeting & Rules- | 2.Q&A- | 2.Q&A- | 2.Q&A- | 2.Q&A- | 2.Q&A- | 2.Q&A- | 2.Q&A- | 2.Q&A- |
| Phonics | 3.JTE-アルファベット | 3.JTE-アルファベット | Let's sing- | Let's sing- | Let's sing- | Let's Chant- | Let's Chant- | Let's Chant- | Let's Chant- | Let's Chant- | Let's Chant- | Let's Chant- | Let's Chant- |
| Teachers Talk- | 4.あとで | 3.好きなものを見る | 3.好きなものを見る | 3.好きなものを見る | 3.好きなものを見る | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 | 4.「Activity」 |
| 3始めての絵本 | 5.Review or Input- | 6.Review or Input- | 4.カラフル(色)- | 4.カラフル(色)- | 4.カラフル(色)- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- | 5.【Let's listen】 P.16- |
| 自己表現活動 | 5Main Activity- | 6.【Let's watch and think】 P.14- | 6.【Let's watch and think】 P.14- | 6.【Let's watch and think】 P.14- | 6.【Let's watch and think】 P.14- | 6.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | 6.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | 7.先生の好きなものとそ | 7.先生の好きなものとそ | 7.先生の好きなものとそ | 7.先生の好きなものとそ | 7.先生の好きなものとそ | 7.先生の好きなものとそ |
| 世界の子供たちの好きな歌 | 7.世界の子供たちの好きな歌 | 7.世界の子供たちの好きな歌 | c.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | c.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | c.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | 7.先生の好きなものとそ | 7.先生の好きなものとそ | 8.【Let's listen】 P.16- |
| お絵かき | 8.お絵かき | 8.お絵かき | d.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | 9.インタビュー | 9.インタビュー | 9.インタビュー | 9.インタビュー | 9.インタビュー | 9.インタビュー |
| お絵かき | 9.お絵かき | 9.お絵かき | e.【Let's sing】 The rainbow song P.15- | 10.歌名に反映させる | 10.歌名に反映させる | 10.歌名に反映させる | 10.歌名に反映させる | 10.歌名に反映させる | 10.歌名に反映させる |
| 歌名曲 | 6.歌名 | 6.歌名 | f.歌名曲 | f.歌名曲 | f.歌名曲 | 6.歌名曲 | 6.歌名曲 | 11.歌名 | 11.歌名 | 11.歌名 | 11.歌名 | 11.歌名 | 11.歌名 |
| 歌名曲 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 | 6.歌名 |

(2)指導方針

本校では、英語教育特区研究校の後、英語教育課程特例校として英語教育に取り組んできた。一人一人の児童の可能性を伸ばし、児童自ら進んでコミュニケーションを図ることができるよう、外国語活動を通して、活動内容を工夫、改善しながら行っている。

本年度も各学年の実態に応じた活動を計画し、新教材とデジタル教科書を活用し、担任とALT/JTEとのチームティーチングによる指導を行ってきた。各学年の発達段階に応じた楽しい活動「触れる、慣れる、親しむ」を基本とし、アクティブラーニングを意識した授業内容に力を入れている。

なお、校内の英語の掲示物も充実させ日頃からや校内放送でも英語を活用し、児童たちがより多く英語に触れる環境作りにも取り組んでいる。

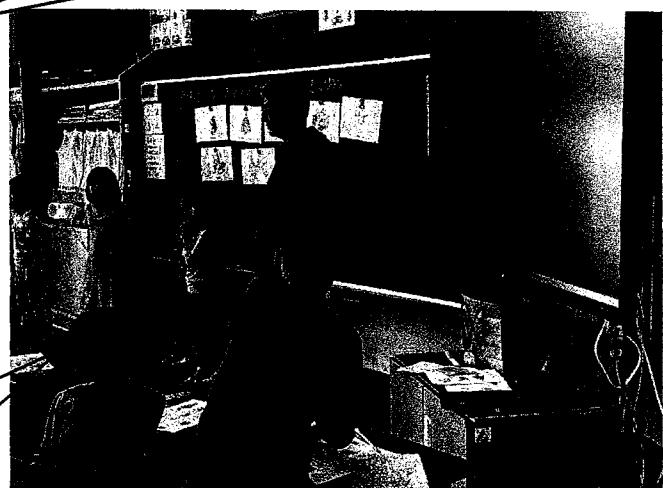
このように本校では、英語に親しみ、外国の文化に触れ、国際人としての素地を一人一人が身につけられるよう様々な角度から取り組んでいる。これからも、児童の英語活動への感心を高め、学習意欲の向上を図っていきたい。

6 活動の様子

(1)低学年はダンスやゲームを多く取り入れ、外国語活動は楽しいと思える授業内容



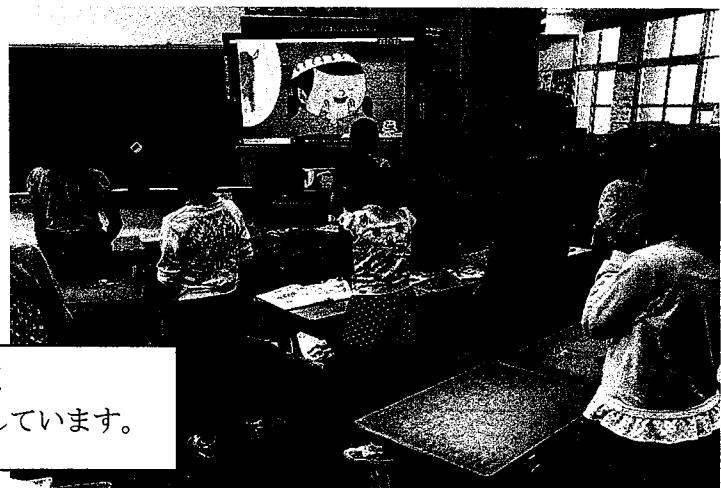
It's a pineapple!! 見やすいスクリーンで What's this? ゲームを楽しんだよ！

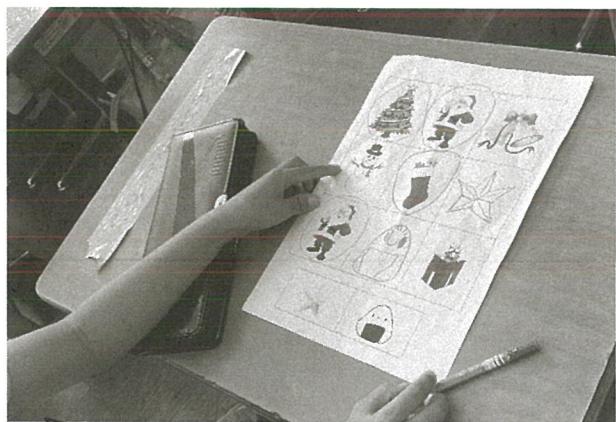


Let me try! 振り返りの発表で学習した事や、覚えた言葉を発表する様子。



歌とダンスで楽しく
ウォームアップをしています。

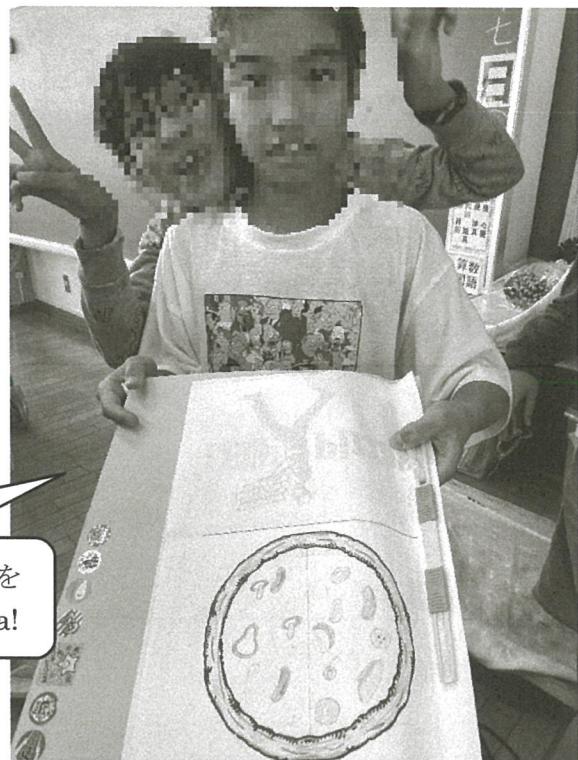




新しい語彙をインプットする際に効果的な
bingoゲーム！みんな大好きです♪



Let's make Bingo Sheet!



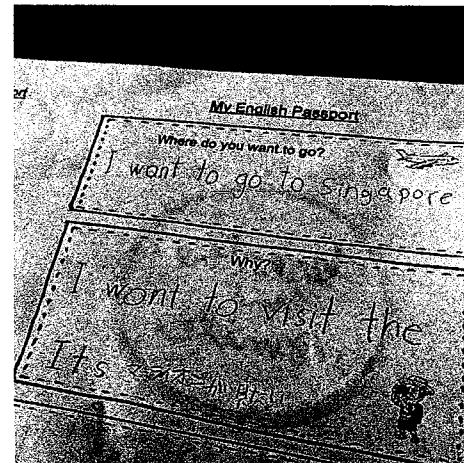
What do you want? の単元ではオリジナルピザを紹介しあったり発表したりしたよ♪ Nice Pizza!



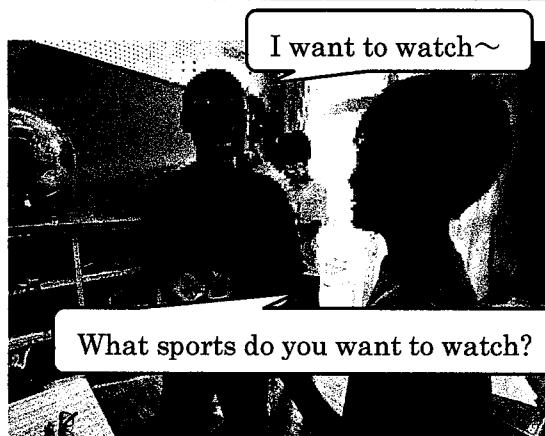
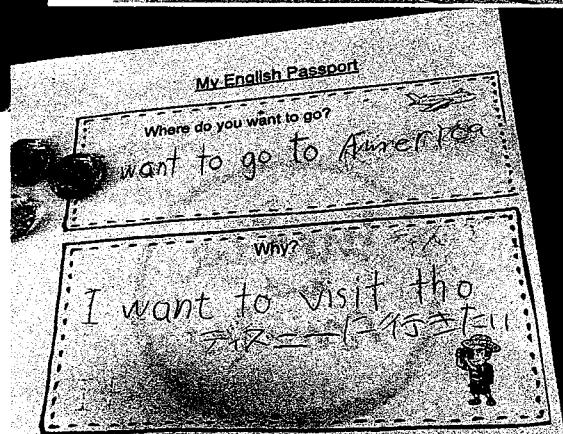
- 1.仮装する日
- 2.お菓子をもらえる日
- 3.収穫を祝う日

Halloween, Thanks giving day や Christmas 等の外国行事を通じで英語、異文化に触れます。

(2) 中学年と高学年は設定された場面でインタビュー活動を行い、英語で友達の事を知る活動を楽しんでいます



I want to go to Italy.の単元ではそれぞれがパスポートを作成し、行きたい国や、そこに行きたい理由をインタビューしあったよ。



ボードゲーム大好き★グループで Help each other!



What do you want? (4/4)

単元: Let's try 2 Unit 7

4年(23/35)

単元目標: 食材のいい方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。相手に配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。

★めあて★オリジナルピザを紹介しよう

扱う表現: What do you want? Fruit, cherry, apple, banana, pineapple, kiwi fruit, melon, orange,, vegetable, corn, cucumber, corn, carrots, mushrooms, onions, cabbages, tomato, potato, how many, two please.

| 過程 | 児童の活動 | 指導者の活動 | | 教材 教具 |
|----------------------|--|---|---|----------|
| | | 担任 (HRT) | JTE | |
| Warming up 雰囲気作り | 1. 今日のリーダーが前に出て、号令をかける。 ※3つの質問をし、※3ルールの確認をする。 | ・あいさつをする ・児童の支援をする。 | ・あいさつをする ・児童の支援をする。 | |
| | 2. ·友達の調子をたずねる ·What do you want? リレーを行う | ・児童の支援をする。 | ・児童の支援を行う | パソコン |
| Activity めあて達成の活動 | 3. ·今日の目当てを予想する | ・めあてを予想させる→めあてを板書、確認する | ・デモンストレーションを行う | めあてカード |
| | 4. ·表現の復習を行う ·【Let's Listen2】 P.28 | ・絵カードをポイントする ・解答する | ・発音のモデルを示す | デジタル教科書 |
| | 5. ·【Activity】 ·オリジナルピザを作成し、紹介しあう ·ラッキーStudentによる | ・アクティビティの内容を説明する | ・デモンストレーションを行う | ワークシート |
| 発表 | ※教室を歩き回り出来るだけたくさんの友達とピザを紹介しあう ※インタビューした人の名前もワークシートに記入する ※ラッキーStudentはHRTが指名する。 ※発表したラッキーStudentは1ポイントゲット！ | | | |
| | | | | |
| まとめ Conclusion | 6. ふり返りシートに今日の評価をし、感想などを書く。 ·Thank you. See you. Good bye. | ・今日の授業をふり返る。 ・振り返りシートに感想を記入させる ・That's all for today. | ・児童の良かったところなどを賞賛する。 ・That's all for today. | ・ふり返りシート |

※質問 ①How are you? ②How is the weather today? ③What day is it today? ④What's the date today? ⑤What time is it now? ルール ①Listen carefully. ②Help each other. ③Have good manners.

成果と課題

1st and 2nd

- クラス全員が発話し、積極的に発表をしている。
- 世界の事や文化に興味を持ち、自ら学ぼうとする意欲がある子が増えた。
- チャンツやゲームを通して、単語や会話を楽しく練習することができた。
- 歌やダンスにあわせて、英語を言うことができた。
- 発達や学力にあった授業内容なので楽しく英語を覚えられた。
- ICT機器の導入により動画や図がわかりやすく、見やすくなつた。
- ICT機器があるため授業で出来る事が増えた。
- It's～と I'm～の違いを理解して使えるようになってほしい。
- ゲームが楽しくてけじめがつかず、ふざける事がある。
- 授業の始まりのあいさつやルールを一人一人がちゃんと言えるようになると素晴らしい。

3th and 4th graders

- Topicと関連させた歌やゲームで英語を練習させたことで楽しんで学習することができた。
- 真剣に聞き取りを行い、正しく聞き取れた時にとても喜んでいる。
- 英語で会話をしようという意欲が見られる。
- 楽しみながら学習しているので、覚えている単語の数が増えている。
- 男女間関係なくコミュニケーションをとる児童が増えている。
- 一人一人が会話を習得していて、誰に聞いても答えられている感じがする。
- 英語教室があると英語ワールド感が増し、日本語をあまり使わないようにするのではないか。
- アルファベットとローマ字の区別がついていない。書く活動も取り入れていきたい。

5th and 6th graders

- インタビュー活動に積極的に取り組んでいる。
- 外国の文化や生活の様子を紹介してもらい、日本との文化の違いに気づき、外国への興味関心を高めることができた。(ハロウィン・クリスマス・お正月・学校など)
- 進んで発表する児童が増えている。
- あいさつがスムーズにできるようになってきた。
- 様々なゲームを通して楽しく英語に親しむことができた。
- 聴き取りのレベルが上がった。
- 外国語活動を楽しみにしている児童が多い。
- 児童の意欲を向上させる前向きな取り組みが出来ている。
- 他の国に興味をもった児童が多い。
- 単語や会話文の習得に個人差がある。ペア練習やグループでの練習方法を工夫したい。
- 日常でも会話が出てきたりするようになったほしい。
- 積極的に発表する児童と恥ずかしくて話せない児童がいる。

課題に対する対応策

- ◇It's～と I'm～の違いを理解して使えるようになるといい。
→授業で繰り返し聞き取りをさせる。
- ◇授業の始まりのあいさつやルールを一人一人がちゃんと言えるようになると素晴らしい。
→英語の時間だけでなく学級でもあいさつの練習を行う。
- ◇アルファベットとローマ字の区別がついていない。書く活動も取り入れていきたい。
→フォニックスの指導も継続的に行う。
- ◇単語や会話文の習得に個人差がある。ペア練習やグループでの練習方法を工夫したい。
→ペアやグループでも練習方法を増やす。復習を定期的に行う。
- ◇積極的に発表する児童と恥ずかしくて話せない児童がいる。
→間違えても大丈夫の雰囲気づくりや、教師自身が手本となり、授業の雰囲気を良くしていく
ようにする。
→「知りたい」「伝えたい」「わかりたい」と思える外国語活動を心がける。

令和元年度 はごろも小学校の取り組み

1 研究主題名

目的意識を持ち、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
～聞くこと・話すことを中心とした体験的な活動内容の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

宜野湾市の小学校英語教育課程特例校事業の計画に基づいて、今年度も ALT・JTE が配置され、担任とのチームティーチングの授業が、全学年で行われることになった。昨年度の児童アンケート（本校 5 年生）の結果によると、「①英語を話すことは楽しい 77%」「②英語を聞くことは楽しい 80%」「③英語で話しかけることがある 45%」「④英語を話せるようになりたい 91%」となっている。6 年生についても①77%②79%③39%④96%とほぼ同様の結果であった。子供たちは英語を話せるようになりたいと思っている。話すことも聞くことも楽しい。しかし、英語で話す機会が少ないため、英語を学ぶ意欲の低下につながることが推察される。

そこで、言語の習得だけでなく、歌やリズム等で英語に親しみ、相手を意識した体験的なコミュニケーション活動を工夫することで、英語が通じる喜びや達成感を味わうことに繋がる。そうすることで、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童が育つのではないかと考え、本研究主題を設定した。

3 研究の主な内容

(1)目標（小学校外国語活動学習指導要領より）

ア 聞くこと

(第 1 学年及び 2 学年) 基礎的な英語の音声の特徴に関心を持つこと

簡単な語句を聞き取ること

簡単な質問や依頼、あいさつがわかること

(第 3 学年及び 4 学年) 基礎的な英語の音声の特徴に親しむこと

基礎的な文を聞き取ること

基礎的な文で表される質問や依頼、あいさつがわかること

(第 5 学年及び 6 学年) 基礎的な英語の音声の特徴がわかること

自然な口調で話されている基礎的な英語を聞き取ること

基本的な質問や依頼、あいさつに応じること

イ 話すこと

(第 1 学年及び 2 学年) 基礎的な英語の音声の特徴を真似て発音すること

場面などに応じて、自分の言いたいことを簡単な語句で表現すること

積極的に話そうとすること

(第 3 学年及び 4 学年) 基礎的な英語の音声の特徴を意識して発音すること

場面などに応じて、自分の言いたいことや気持ちを簡単に表現すること

積極的に続けて話そうとすること

(第 5 学年及び 6 学年) 基礎的な英語の音声の特徴を正しく発音すること

場面などに応じて、自分の言いたいことや気持ちを簡単に表現すること

沈黙をしないで、聞き手にわかるように話そうとすること



- ① 英語学習への関心・意欲を培う
- ② コミュニケーション能力を高める

(2) 指導方針及び方法

- ①各学年の実態に応じ、宜野湾市の英語実践指導の手引に基づいて、授業計画を立てる。児童がこれまで習得した基本的な語彙力や表現力を活かしながら、HRT と ALT・JTE とのチームティーチングによる指導を行う。
- ②週に1回程度、HRT と ALT・JTE との英語ミーティングの時間を設け、事前に授業の流れを確認することで、連携して授業が行えるようにする。
- ③各学年の発達段階に応じて、低学年では、歌やリズム遊び、ゲーム、場面にふさわしい簡単な挨拶等体験的な活動を多く取り入れ、高学年では、静かに考えたり書いたりする活動も取り入れるようにする。
- ④行事や他教科と関連させ、英語活動を通して身近な事柄を学ぶことで、より実践的なコミュニケーション能力を養う。
- ⑤学習した英語を活用する機会をより多く設けることにより、英語を使ったコミュニケーション能力を高める。
- ⑥HRT も共に英語を学び、楽しむ姿勢を見せる事、「児童の良さを見つけ、ほめる」を常に心掛け事で、安心して英語を話せるような雰囲気づくりに努める。

4 本年度の取り組み

(1) 授業の様子

低学年

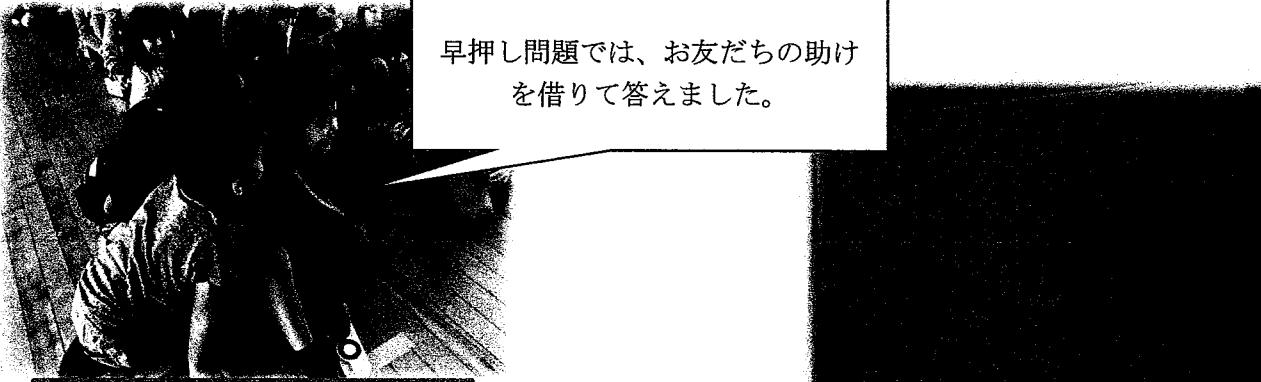


クラスリーダーのあいさつ
ジョナサン先生にアドバイスをもらい
上手に言えました。



Hallow Song で思いっきり
ジャンプ！！！





早押し問題では、お友だちの助け
を借りて答えました。



Good morning everyone!

英語のあいさつも上手に言えるよ！

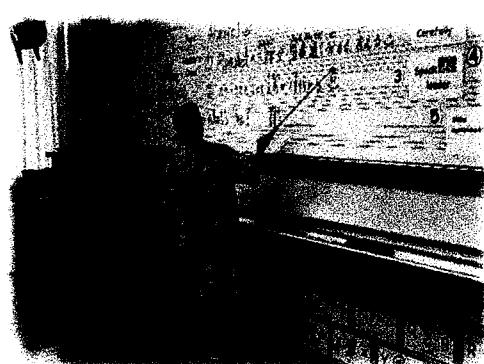


外国の文化、
「Thanksgiving day」
についても学んだよ！！

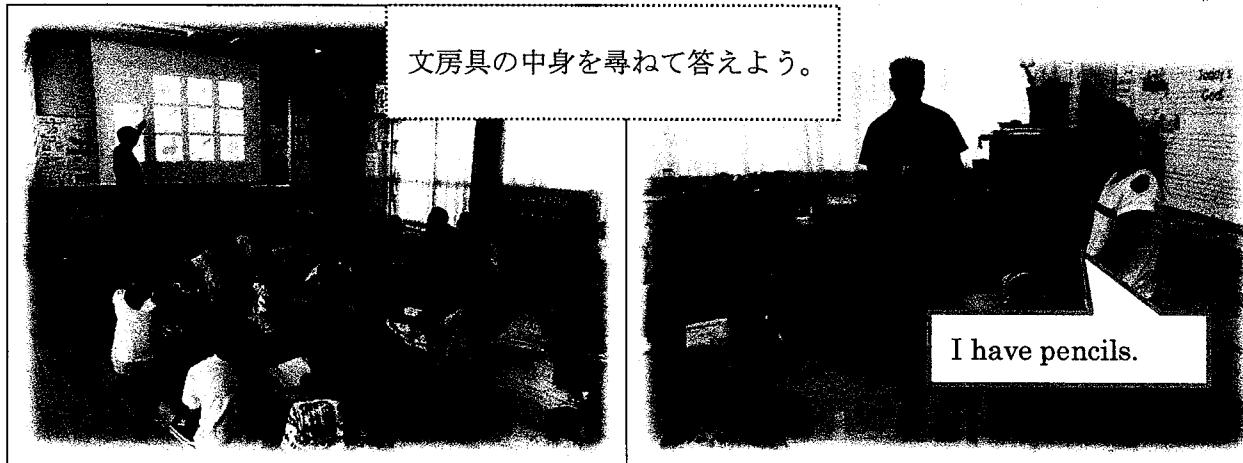
中学年



始めのあいさつをしっかりやるよ！！
「Sit up straight」「OK！」



今日のめあての確認 ↗ 「アルファベットの大文字を順番通りに言える(^.^)



1～4学年は、週1回の授業を英語教室で実施している

高学年



5・6学年は、週2回の授業を教室で実施している

(2) 授業の流れ

Lesson Plan 23

Grade 4

- Topic: What do you want? ③ほしいものは何かな? (Let's Try! 2 Unit7)
- Goal: 欲しいものを友達に質問したり答えたりすることができる。
- Target sentences: "What do you want?"、 "I want ____." "Here you are."、 "Thank you."

| 過程 | 学習活動と内容 Activity | 教師の支援 | |
|-----|--|--|---|
| | | ALT/JTE | HRT |
| 導入 | 1 Greetings CL(class leaders): " Sit up straight." "Let's start English Class." CL ask 2questions | Support class leaders. | Support class leaders. |
| | 2 Warm-up Let's sing. Song & dance "Hokey Pokey" | | Sing & dance together. HRT が Champion を選ぶ |
| | 3 Let's write トピックを英語で言いながら書く | Support students. | Support students. |
| 展開 | 4 Let's practice (野菜・果物) ① Repeat after JTE ② Repeat after HRT ③ Repeat after JTE "What do you want?" "I want ×××" ④ Make a pair ⑤ Let me try | JTE が丁寧に発音する。 Gesture を使って質問の仕方や答え方を発音する。 | HRT が random に言う 発表ポイントを与える |
| | 5 Activity Let's play changing cards game ① グループ全員で一人に質問する "What do you want?" ② 一人が答える "I want ×××." ③ グループがそのカードを渡す "Here you are." ④ 全体で HRT に質問する。 | | card(カルタ)を各グループに配る。 HRT が欲しい野菜・果物をいくつか答える。 |
| まとめ | 6 Wrap up 7 Feed back Fill in the review sheet. CL: "Let's finish English class." | | 質問の仕方や答え方を確認する。 |

新学習指導要領の先行実施に伴い、5つの領域の言語活動を通して、下記のような児童の育成を目指し、学習に取り組んだ。

3・4学年のテキスト「Let's Try」を活用した授業を行い、5・6学年は、「We can!」を活用し、机やいすのある各教室で、読むこと・書くことの活動に取り組んだ。

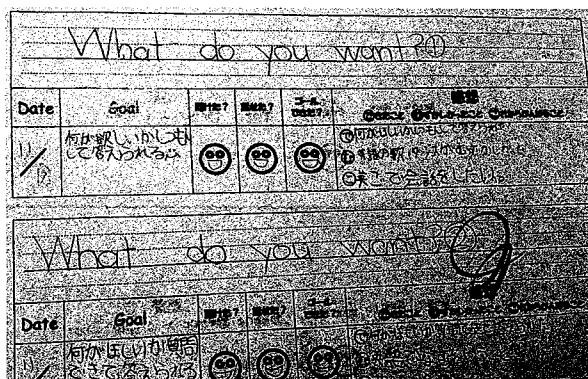
聞くこと・話すことの体験的な活動を大切にしながら、高学年は、中学校英語を意識した学習活動を行った。

| | 聞くこと | 話すこと(やり取り・発表) | 読むこと | 書くこと |
|------|---|---|--|------|
| 低学年 | 身近な外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ児童。 | | | |
| 中学生年 | 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ児童。(外国語学習への動機づけを高める) | | | |
| 高学年 | 短い話の概要を捉えることができる。 | 言語活動を通して児童が簡単な語彙や基本的な表現を使って自分の気持ちや考えを表現できる。 | 簡単な語彙や基本的な英語表現の読み方を活字体の文字と結びつけて発音したり、4線上に書いたりすることに慣れ親しむ。 | |

4学年の取り組み

- 「Alphabet」では、「What's letter?」と質問し、小文字を読んだり書いたりする活動に取り組んだ。
- 「What do you like?」では、好きな野菜のカードを選び、好きなものを尋ねたり答えたりする活動に取り組んだ。
- 「What do you want?」では、野菜や果物カードの中から好きなものを選び、欲しいものを尋ね、相手にカードを手渡す活動に取り組んだ。

【振り返りシート】



5 成果と課題・対応策

(1) 成果

- ALTやJTEとのミーティングを授業前に行い、授業をスムーズに行うことができた。
- I C T機器を活用した動画や図を用いて授業を行ったため、授業が視覚的に分かりやすくて楽しく取り組むことができた。
- 歌やリズムに合わせて体を動かしながら、児童は意欲的に活動することができた。
- J T EもA L Tも、ほとんど英語で話していたので、子ども達のリスニングの力がついてきた。
- フォニックスの練習や口の動きを丁寧に指導してくれたので、発音の仕方を意識するようになった。

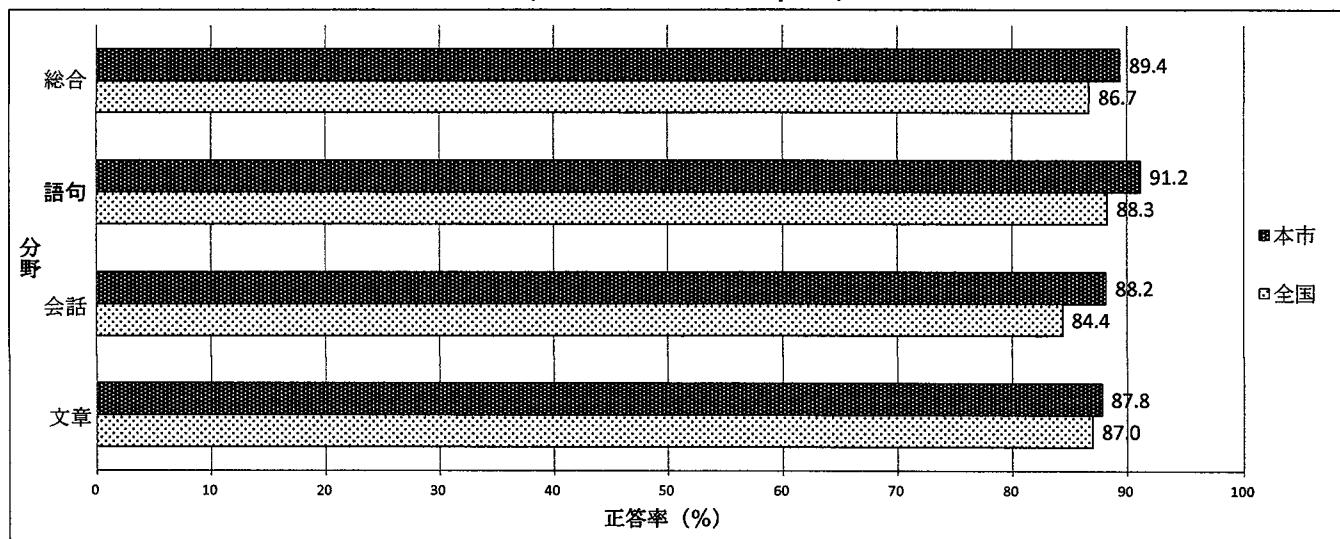
(2) 課題・対応策

- 授業開始時に、天気や曜日などを全体で確認しているにも関わらず、個別に尋ねると答えられない児童がいる。
→次年度は、全体から個別に天気や曜日などを尋ねて答えられるように取り組んでいく。
- 理解力に差があり、英語に対して自信が持てず、学習意欲の低い児童がいる。
→ゲームや活動前に、個別に支援し児童が興味を持って取り組めるように工夫していく。

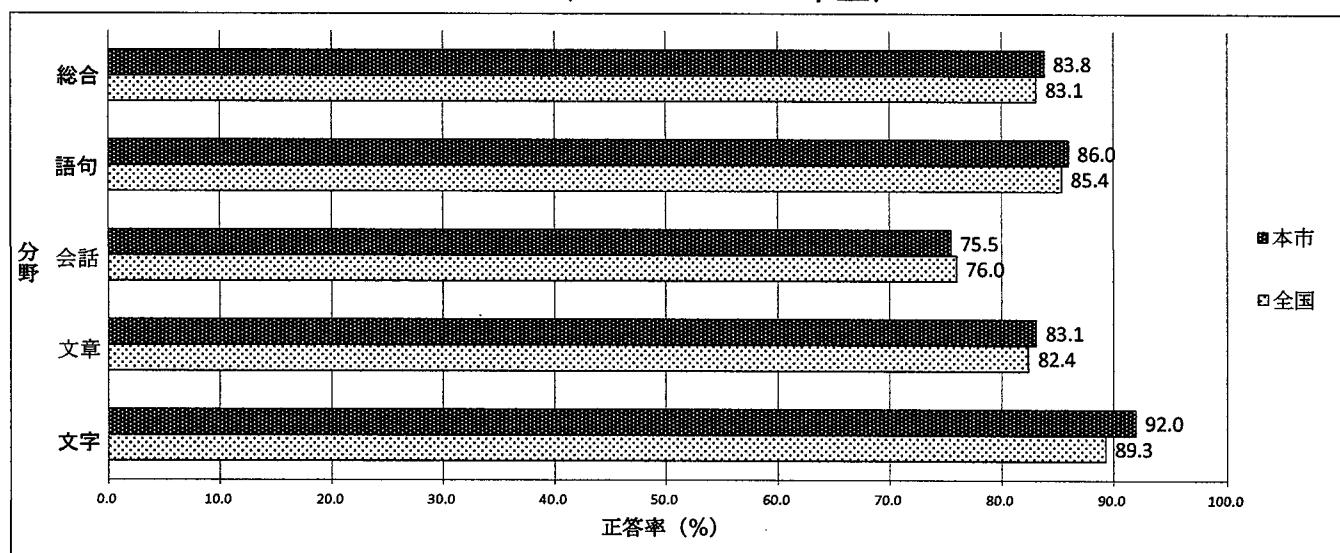
IV 諸 調 査 結 果

1. 令和元年度 宜野湾市小学校英検Jr. 結果

(ブロンズ：5年生)



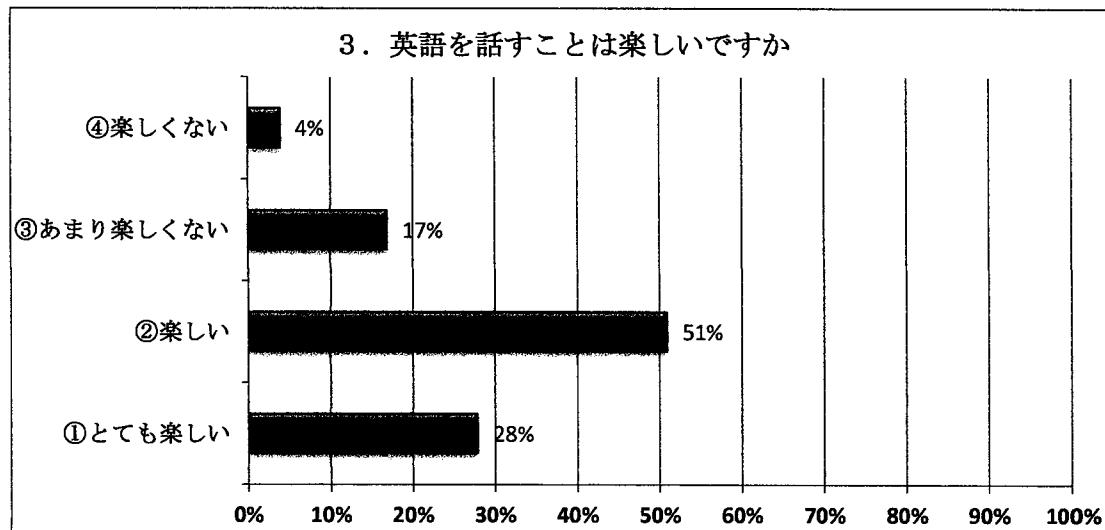
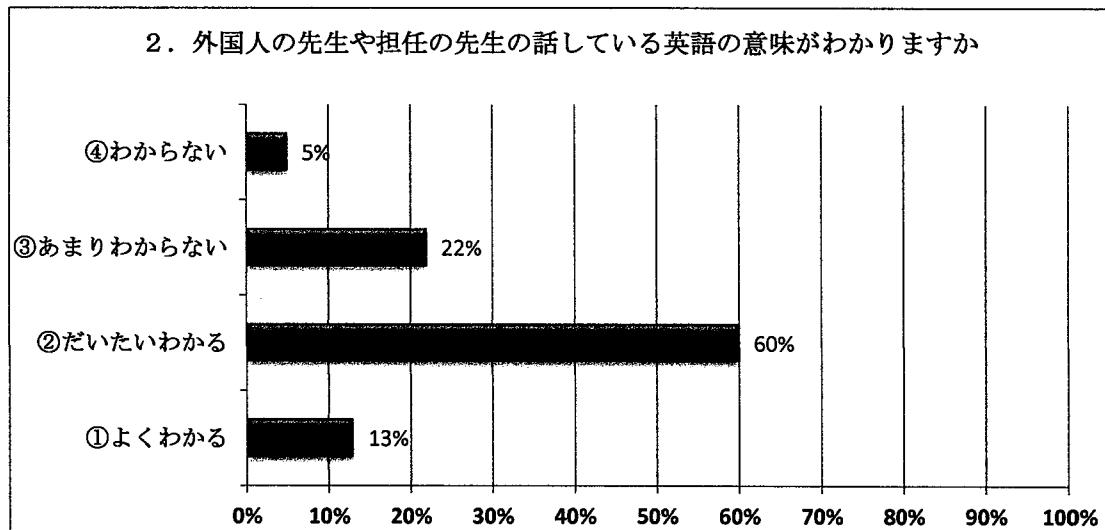
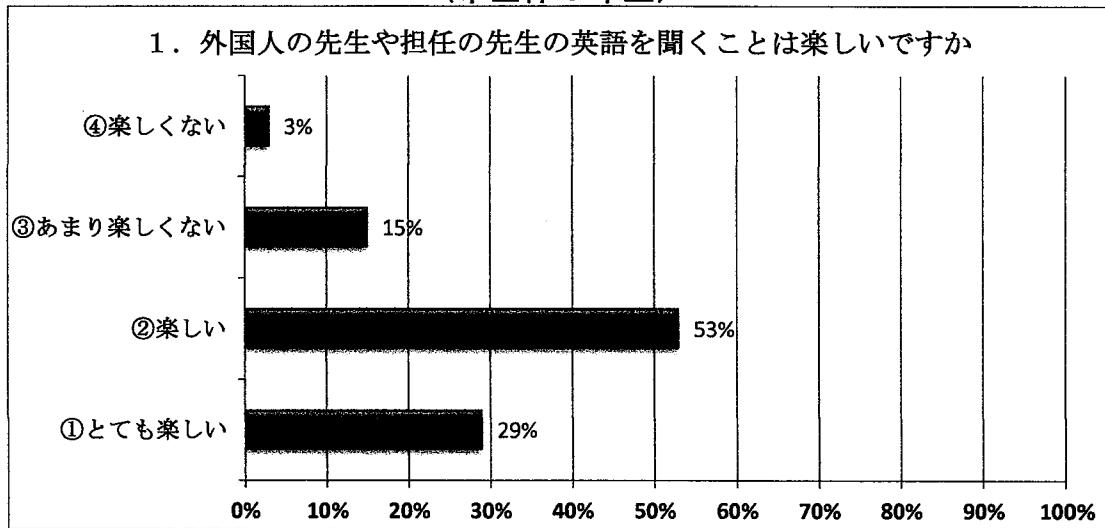
(シルバー：6年生)



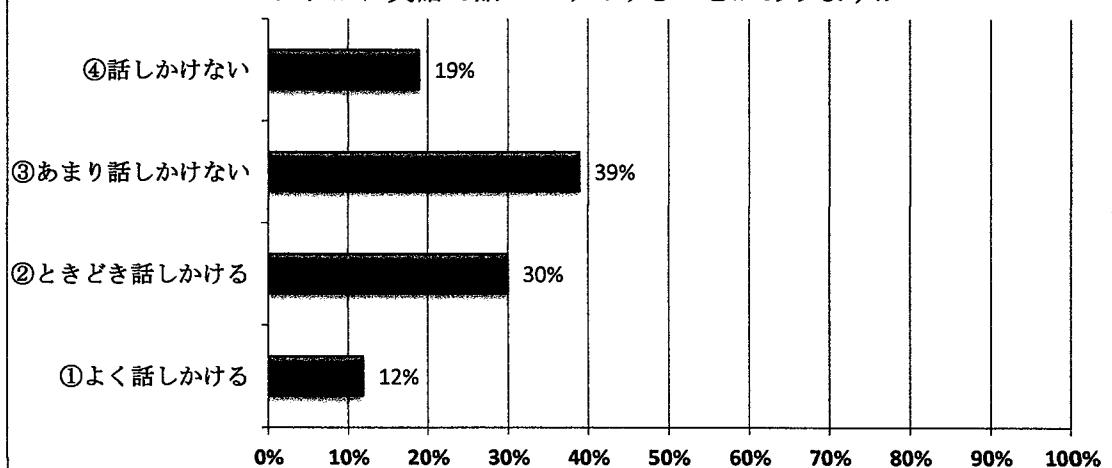
【英検Jr.について】

- ・英検Jr.とは、公益財団法人日本英語検定協会が運営する小学校外国語活動に対応したリスニング形式のテストで、3つのグレード（ゴールド、シルバー、ブロンズ）から構成される。
- ・宜野湾市では、日頃の学習の成果を図るために、5年生でブロンズ、6年生でより難易度の高いシルバーのテストを実施している。（全国的に見ると、6年生でブロンズを受験する学校が多い。）
- ・英語の教科化を見据えて、英検以外の多面的な評価も考える必要がある。

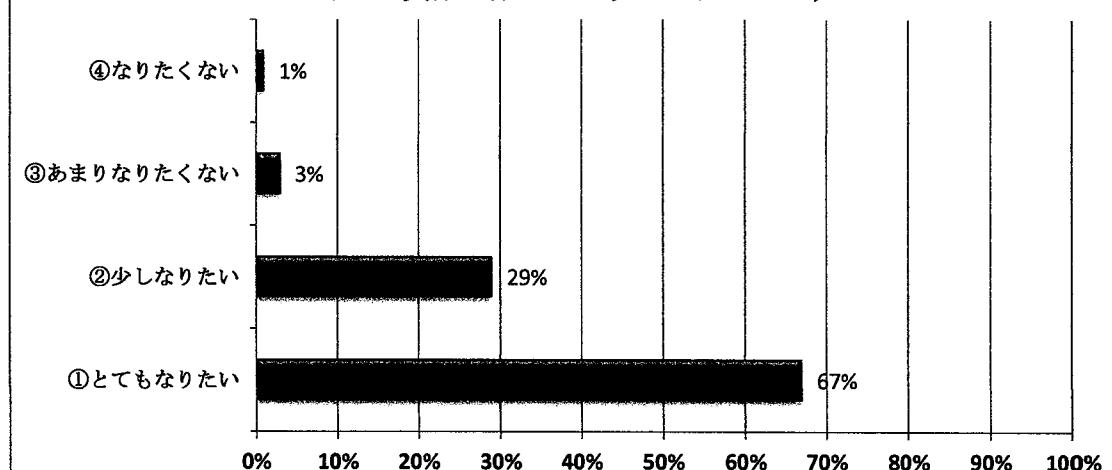
2. 令和元年度 英検Jr. 児童アンケート結果 (市全体5年生)



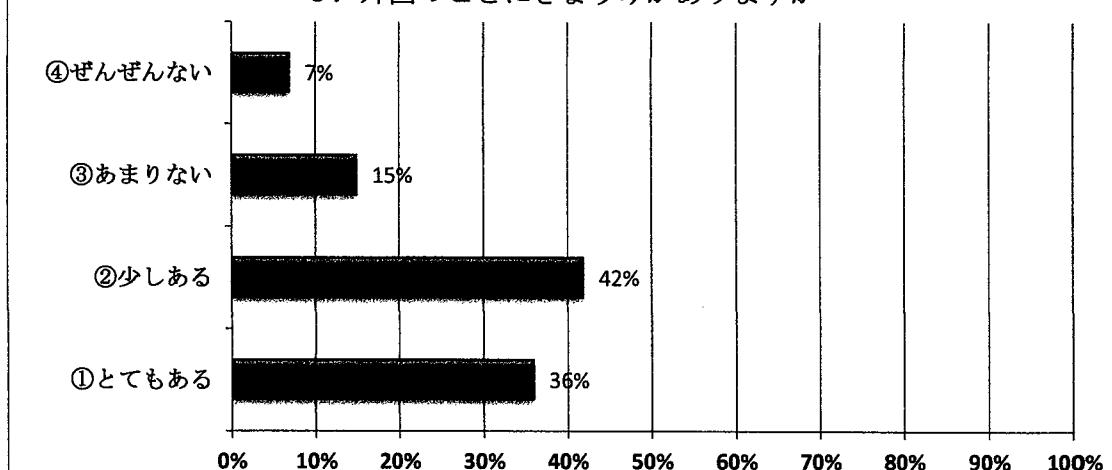
4. だれかに英語で話しかけてみることがありますか

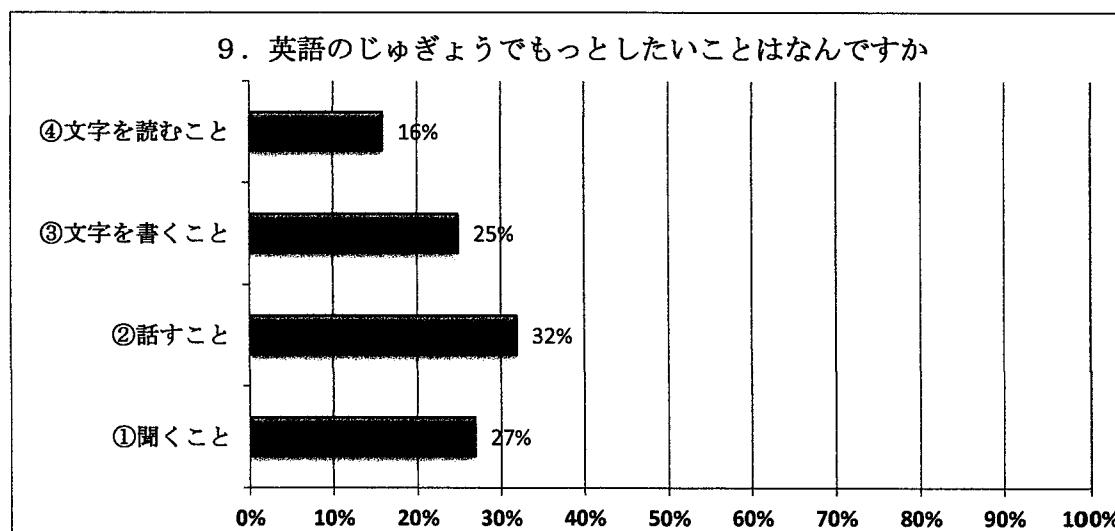
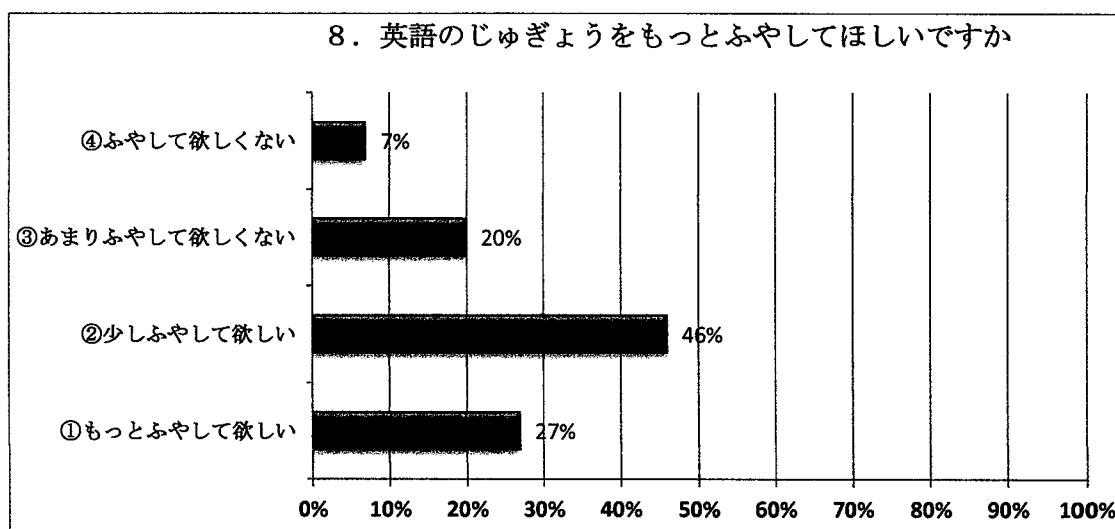
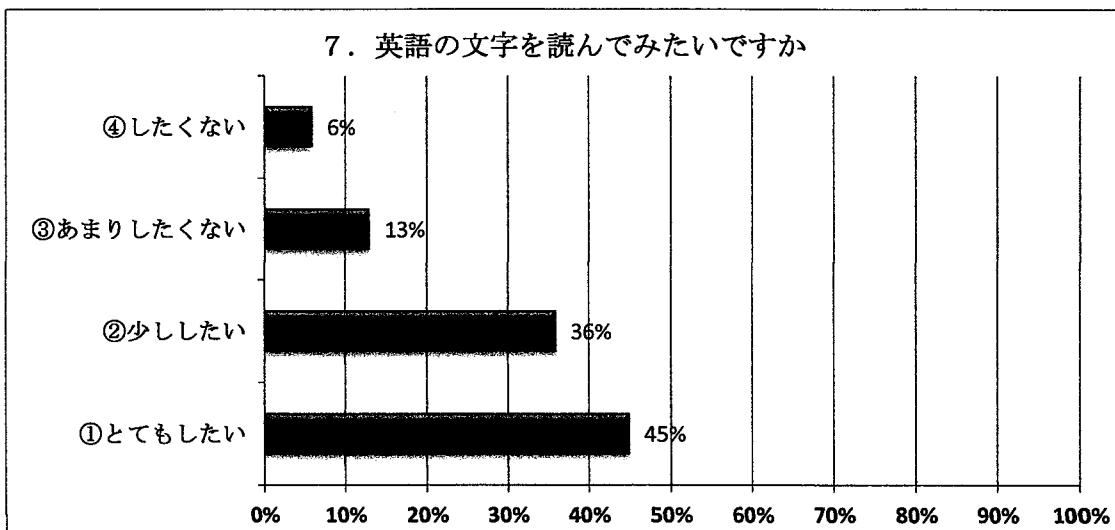


5. もっと英語を話せるようになりたいですか



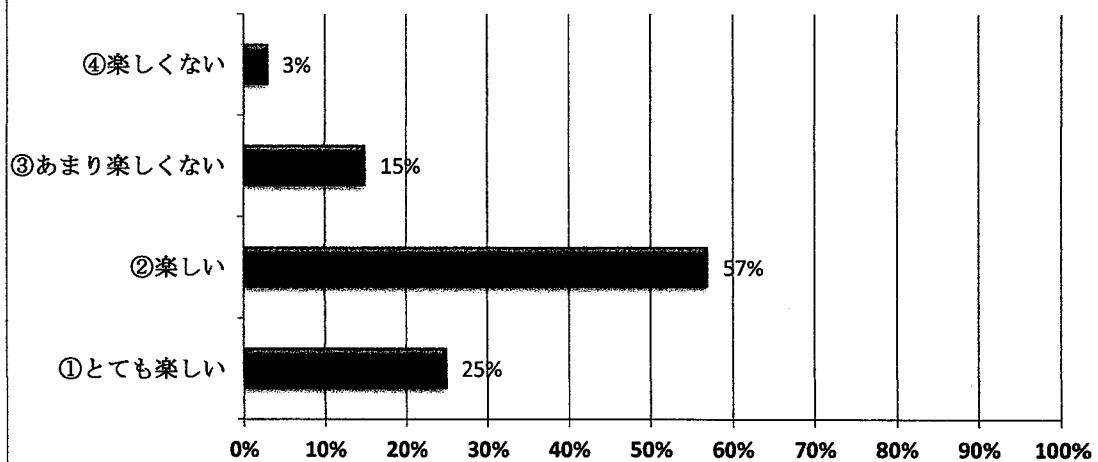
6. 外国のことについてありますか



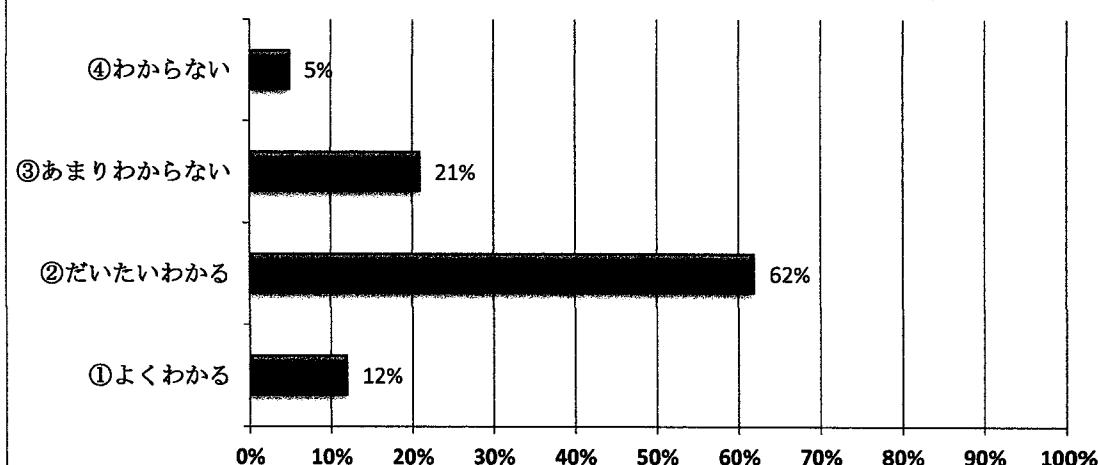


(市全体 6 年生)

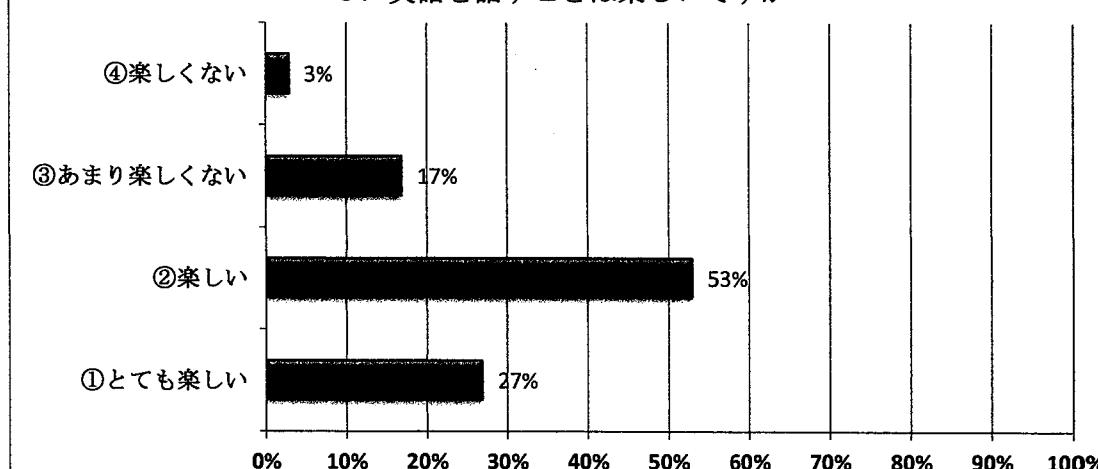
1. 外国人の先生や担任の先生の英語を聞くことは楽しいですか



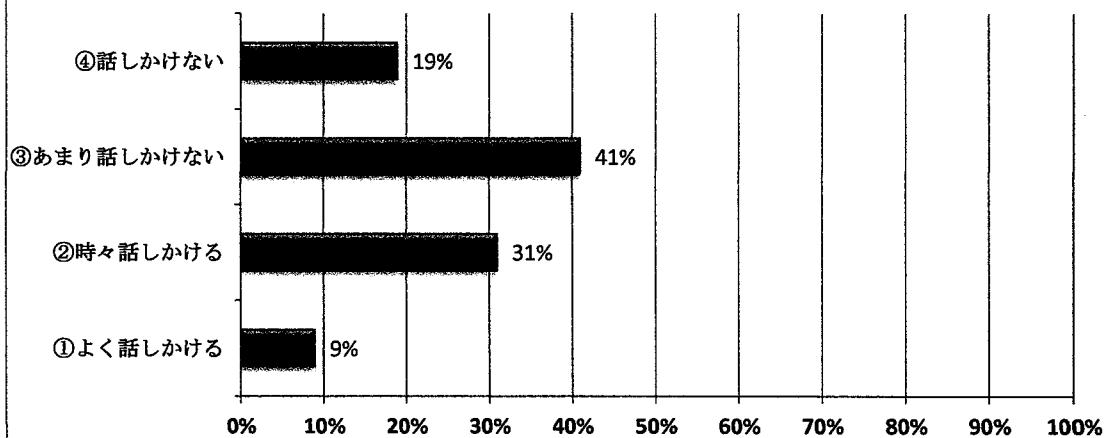
2. 外国人の先生や担任の先生の話している英語の意味がわかりますか



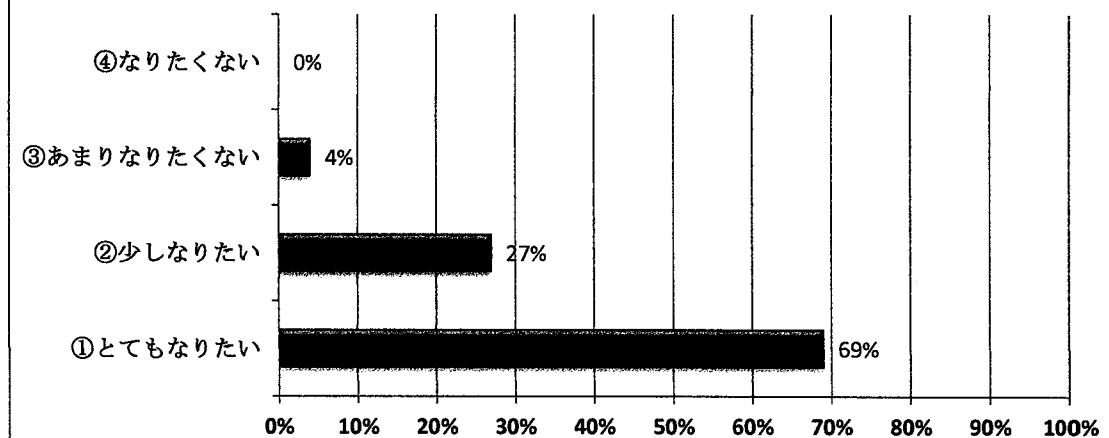
3. 英語を話すことは楽しいですか



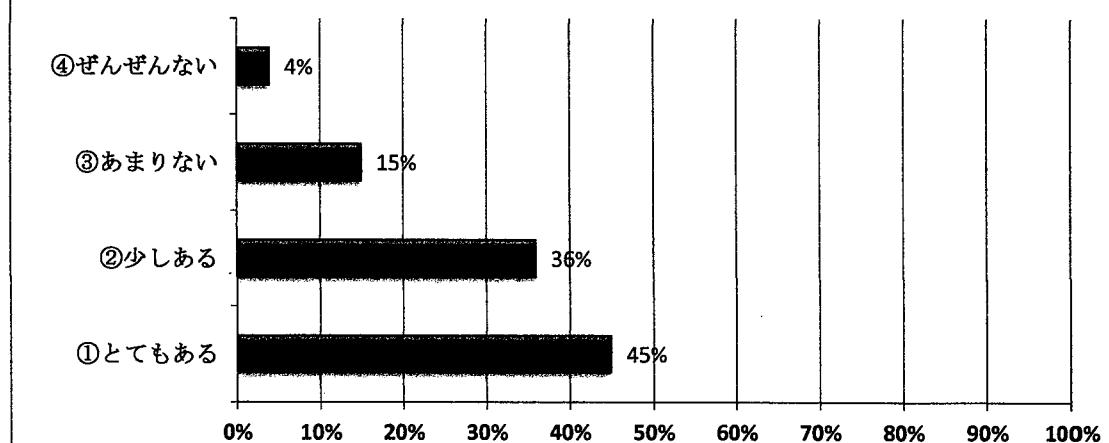
4. だれかに英語で話しかけてみることがありますか



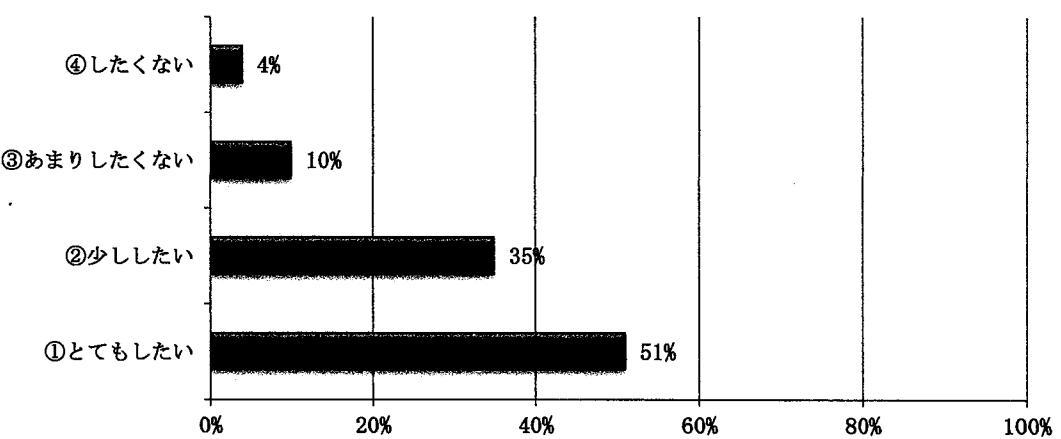
5. もっと英語を話せるようになりたいですか



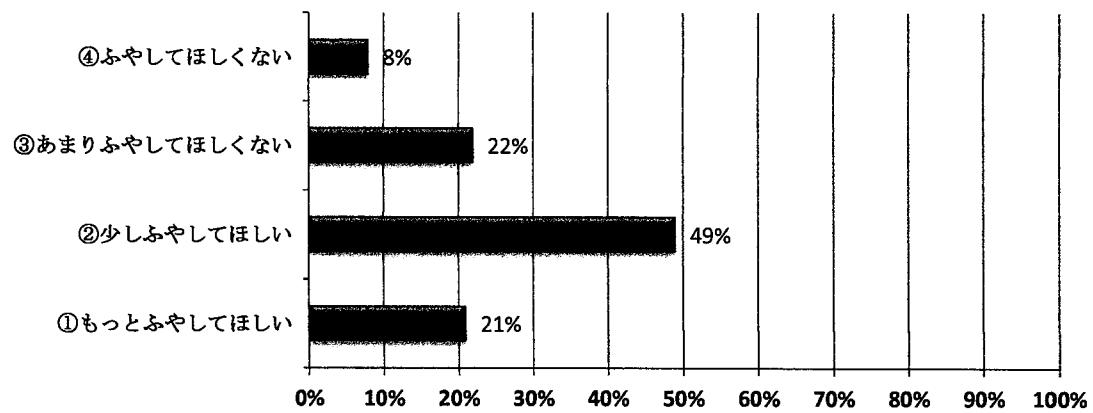
6. 外国のこときょうみがありますか



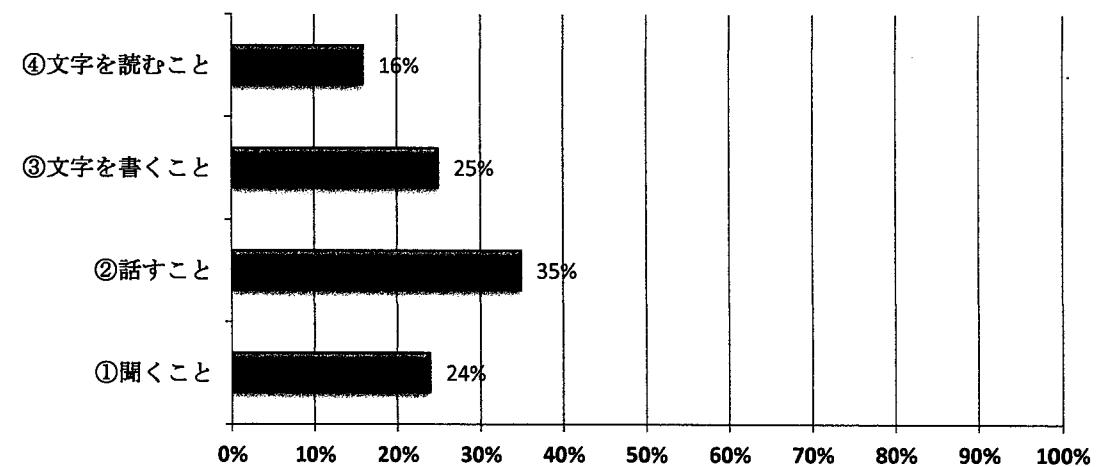
7. 英語の文字を読んでみたいですか



8. 英語のじゅぎょうをもっとふやしてほしいですか



9. 英語のじゅぎょうでもっとしたいことはなんですか



3. 令和元年度 宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業 英会話形成的評価結果

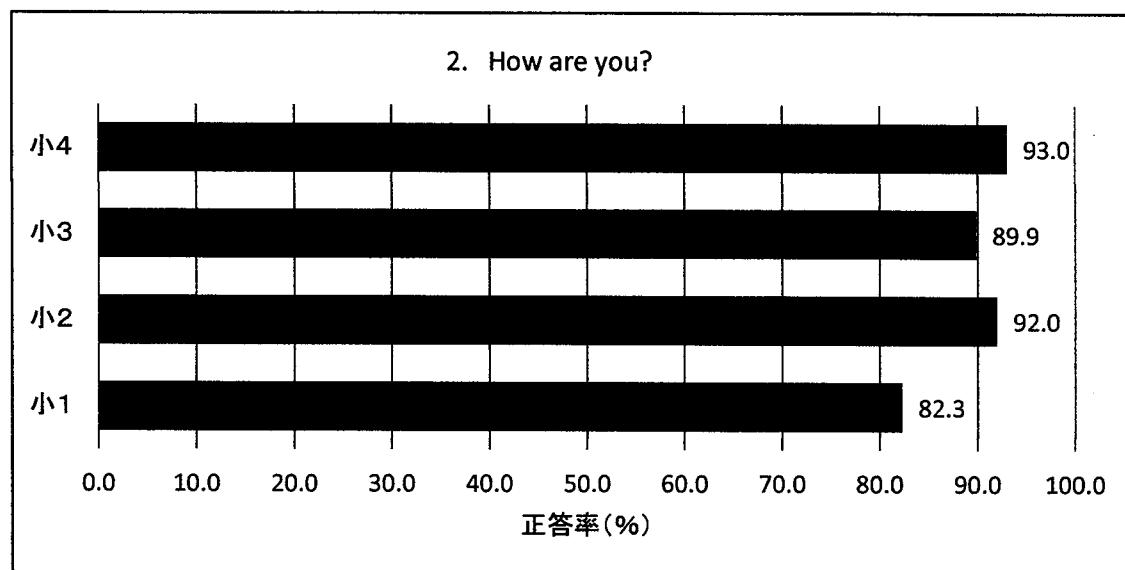
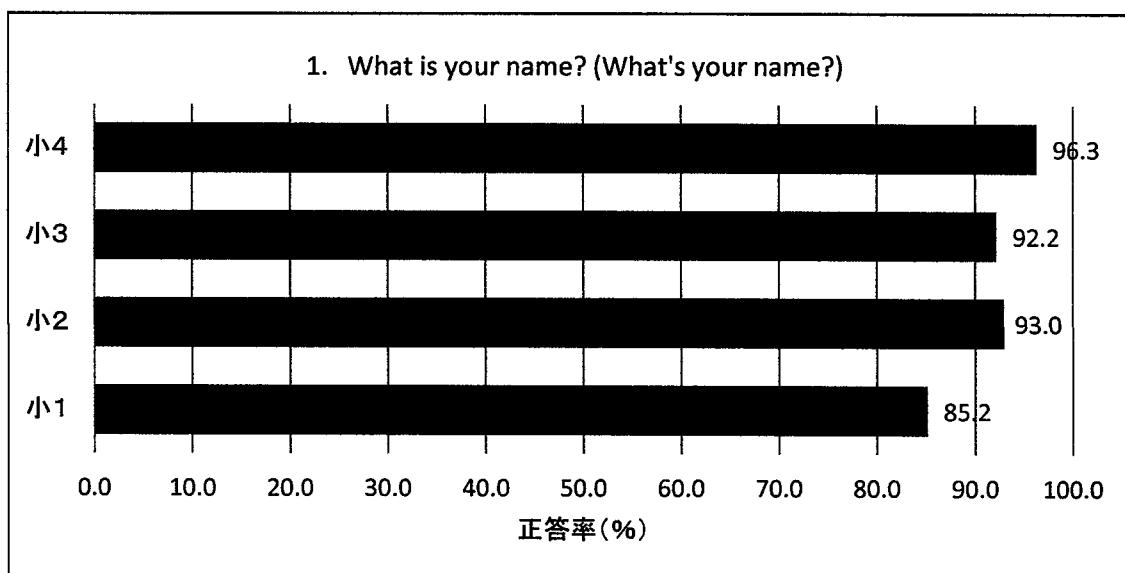
【英会話形成的評価について】

- ・宜野湾市では、市小学校における英語教育及びコミュニケーション能力育成に関する状況把握のため、年に一度、小1～小4を対象とした英会話の形成的評価を行っている。（資料V参照）

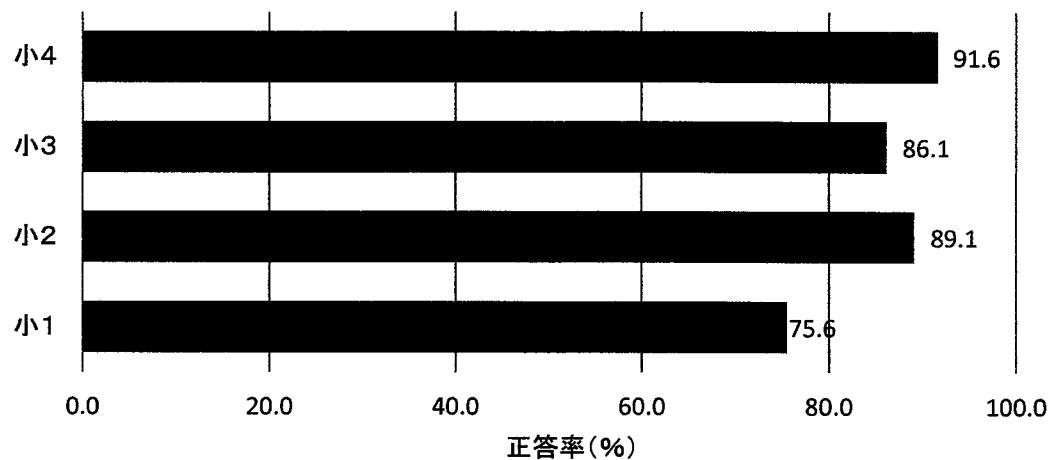
【評価結果について】

- ・総合的に見ると、質問に対して、学年が上がるにつれ正確に答えることができる児童が増える傾向がある。
- ・問4の“What day is it today?”（曜日を尋ねる質問）は、昨年度と比較すると、定着率が上がった。

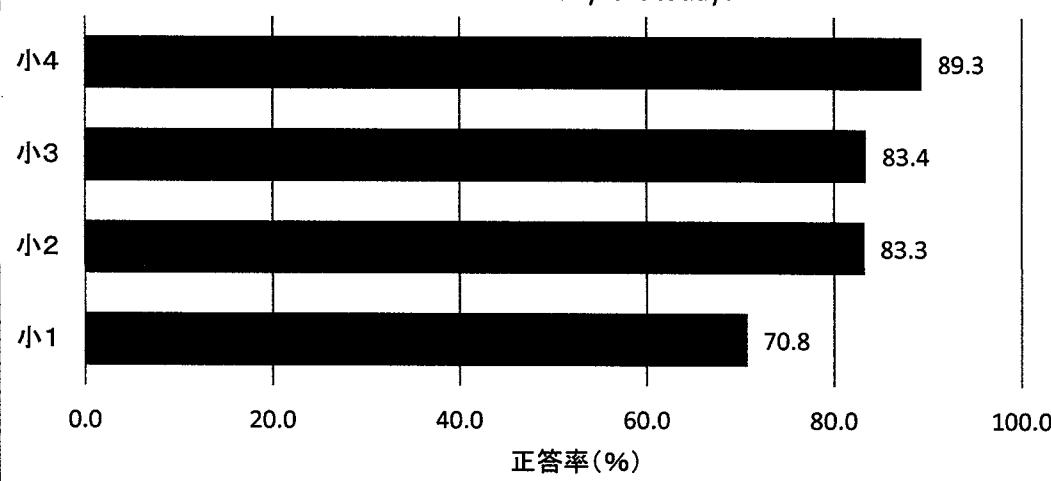
問1～問4：1～4学年共通問題



3. How is the weather today?



4. What day is it today?



V 資 料

令和元年度宜野湾市小学校英会話形成的評価実施要項

*Guidelines for the 2019 Ginowan City Elementary School
English Conversation Formative Evaluation*

1 ねらい (Aim)

市小学校における英語教育及びコミュニケーション能力育成に関する状況把握と評価を行い、今後の英語教育の指導や学習内容の改善に資する。

Understanding and evaluating the current stage of English education and communication skill level of elementary school students in Ginowan city will help improve the contents of study materials and guiding principles of English education in future.

2 方針 (Objective)

(1) 通常の英語教育・英語活動の形成的評価として実施する。

The survey should perform as a formative evaluation of current English education and activities.

(2) 各小学校 1 学年～4 学年児童を対象として行う。

1st - 4th grade students at each elementary school are subject to the survey.

3 対象学年 市小学校の 1～4 年生

Target grades: 1st grade - 4th grade

4 実施時期 令和元年 12 月 2 日(月)～令和元年 12 月 19 日(木)

Survey period : December 2nd, 2019 (Mon) - December 19th, 2019 (Thu)

5 実施方法 (How to conduct a survey)

(1) 実施にあたっては、授業の中で行い、新たな時間を設定しない。

Conduct a survey during the regular class time (do not establish an extra class).

(2) 1～4 年生、4 項目（下記 9 「小学校英会話形成的評価項目」参照）の会話を設定して行う。

Ask 4 questions specified below (See #9 Q1~Q4) 1st grade through 4th grade students.

(3) 児童と会話をを行う場合は、学級担任、ALT、JTEが協力して実施する。

An HRT for each class and ALT/JTE should cooperate with each other to ask the 4 questions to students.

(4) テスト内容の作成については教育委員会が行う。

The survey contents will be prepared by Ginowan city BOE.

(5) 調査結果は電子媒体で委員会に提出する。

The electronic media of the survey result must be submitted to Ginowan city BOE.

(6) 評価のデータ入力は各学年で協力して行う。

All staff at each grade (HRT, ALT, JTE) must cooperate with each other to input data of the evaluation.

6 提出方法 電子媒体 ※評価表の様式は教頭宛に送信します。

via electronic media

7 提出期限 令和 2 年 1 月 10 日(金)

Submission Due Date: January 10, 2020 (Fri)

8 留意事項 (Notice)

(1) 場所については、教室や英語ルーム等各学校で確保する。

A survey must be conducted in each classroom or English room.

(2) 調査に必要なものは、各学校で準備する。(ただし評価表は委員会で準備する。)

Any necessity items for the survey must be prepared at each school except the excel spreadsheets for data input.

9 評価結果の活用 (Regarding the evaluation results)

(1) 評価を児童の指導や学習活動に活かせるように活用する。

The evaluation results will be utilized as a tool to provide the appropriate guidance and learning activities for students.

(2) 評価後、学習内容や指導内容の見直し等に活かせるようとする。

The evaluation results will help review the current learning and teaching contents.

10 小学校英会話形成的評価項目 (Survey questions)

| | |
|--------|---|
| 問 題 | 1 What is your name ? (What's your name?) 2 How are you ? 3 How is the weather today ? 4 What day is it today? |
|--------|---|

【手引き】 (Guide)

①上記項目1～4を1～4学年の児童に質問する

Ask 4 questions above to 1st - 4th grade students.

②答えの評価について(下記例題参照)

See below for a guide to evaluating the answers.

Q1 What is your name? (問1:あなたの名前は何ですか。)

Ⓐ My name is Taro Yamada. (答:私の名前は山田太郎です)

Taro Yamada (答:山田太郎)

Taro (答:太郎)

** All answers are OK. ※全て可

Q2 How are you? (問2:調子はいかがお過ごしですか。)

Ⓐ I am fine (good/hungry/sleepy, etc). (答:良いです/お腹が空いています/眠いです等)

Fine (good/hungry/sleepy, etc) (答:良いです/お腹が空いています/眠いです等)

** Both answers are OK. ※両方とも可

Q3 How is the weather today? (問3:お天気はどうですか。)

Ⓐ It's sunny (cloudy/rainy, etc). (答:晴れています。) ※曇りです/雨です等

Sunny (cloudy/rainy, etc) (答:晴れています。) ※曇りです/雨です等

** Both answers are OK. ※両方とも可

Q4 What day is it today? (問 4 : 今日は何曜日ですか。)

- A It's Monday (depends on the test day). (答 : 月曜日です。) ※実施日による
 Monday (depends on the test day). (答 : 月曜日です。) ※実施日による
 ** Both answers are OK. ※両方とも可

③評価は a , b , c (Evaluation = a, b, or c)

a = 1 回の質問で正しく（適切に）答えることができる。

(**a** = A student could answer the question correctly in one try.)

b = 児童が「もう一回質問して下さい」と言うか、または質問者が 2 回以上繰り返して応答することで、正しく（適切に）答えることができる。

(**b** = A student said “One more time, please.”, or a teacher had to repeat the question more than 2 times and then the student could answer the question correctly.)

c = 答えることができない、あるいは適切な答えでない。

(**c** = A student could not answer or answered the question in an improper expression.)

令和元年度 宜野湾市小学校英語教育課程特例校事業における成果・課題・対応策
宜野湾市教育委員会 指導課

| | | | |
|---|----------------|-----|-------|
| 事 業 名 | 小学校英語教育課程特例校事業 | 担当者 | 狩俣 英樹 |
| 1 目的 | | | |
| 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。 | | | |
| 2 事業内容 | | | |
| <p>(1) 小学校1年生は、音楽から11時間、図画工作から11時間、体育から12時間の合計34単位時間を配当し新設教科（英語）を実施した。</p> <p>(2) 小学校2年生では音楽から10時間、図画工作から10時間、体育から15時間の合計35単位時間を配当し新設教科（英語）を実施した。</p> <p>(3) 小学校3、4年生は、新学習指導要領で新設された外国語活動と総合的な学習の時間を合わせて、35単位時間を英語学習に配当して実施した。</p> <p>(4) 小学校5、6年生は、新学習指導要領で新設された外国語科と総合的な学習の時間を合わせて、70単位時間を英語学習に配当して実施した。</p> | | | |
| 3 研修内容 | | | |
| <p>(1) 小学校外国語活動担当教諭研修会（英語教育課程特例校事業取り組みの共通確認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：5月10日 ・参加者：各小学校外国語活動担当者9人 <p>(2) 小中ALT・JTE・HRT研修会</p> <p>（英語教育課程特例校事業の概要、服務の確認、アクティビティ事例の共有・共通実践等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：4月4日、9月3日、11月8日 ・参加者：市小中学校ALT13人、市小学校JTE9人、市小中学校教諭13人 <p>(3) 市各小学校校内外外国語活動研修会（小学校教諭の授業力を高める研修会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施：夏休み期間または各小学校の計画に基づく（各小学校職員、ALT、JTE） | | | |
| 4 成 果 | | | |
| <p>(1) 英検Jr.</p> <p>① 5年生（ブロンズ受験）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市の平均正答率（89.4%）は、全国平均正答率（86.7%）を、+2.7p上回った。 (5年生は、昨年度から継続して全国平均正答率を上回っている。) <p>② 6年生（シルバー受験）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宜野湾市の平均正答率（83.8%）は、全国平均正答率（83.1%）を、+0.7p上回った。 (6年生は、昨年度に比べ全国平均正答率を上回っている) <p>(2) 授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当指導主事と英語コーディネーターによる巡回指導（授業観察、授業検討会）を、市内で勤務する全ALT、JTEに実施することができた。 ・「外国語科」の完全実施に向けて、小学校教諭と小学校ALT・JTE、中学校英語教諭と中学校ALTが参加する校種間を越えた合同研修会を実施できた。 | | | |
| 5 課 題 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領「外国語科」「外国語活動」に対応するため、担任主導による授業実践 | | | |
| 6 令和2年度の対応策 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・担任主導による授業への転換と授業改善 ・小学校教諭における英語指導力の向上とALT・JTEと連携した授業づくり ・学習指導要領の完全実施に伴う研修会の実施、校種間の情報交換、最新情報の周知 | | | |